

日本写真家協会会報

NO.160
(2015. Oct.)

- 創立 65 周年写真展「日本の海岸線をゆく」
- 在籍 40 年会員によるメッセージボード
- 第 11 回「名取洋之助写真賞」受賞者決まる

JPS



Photo Nakanishi Hirohito

EPSON
EXCEED YOUR VISION

すべての光を
顔料で捉える。

A3ノビ対応プリンター
SC-PX7VⅡ **NEW**
オープンプライス



EPSON ULTRACHROME
K3
A2ノビ / 17インチ幅ロール紙
対応プリンター
SC-PX3V
オープンプライス
*ロール紙ユニットは、
オプション対応となります。



すべての色を
黒で極める。



EPSON ULTRACHROME
K3
A3ノビ対応プリンター
SC-PX5VⅡ
オープンプライス

どんな作品も、作り出せる品質がある。

Epson Proselection
エプソンプロセレクション

*出力物はイメージです。*写真はハメコミ合成です。*オープンプライス商品の価格は取扱販売店にお問い合わせください。*この広告に記載の仕様、デザインは2015年9月現在のものです。技術改善等により、予告なく変更する場合がありますので、予めご了承ください。下記電話番号はKDDI株式会社の電話サービスKDDI光ダイレクトを利用しています。下記電話番号がご利用いただける場合は、携帯電話またはNTT東日本・NTT西日本の固定電話（一般回線）からおかけいただくか、かつこの番号におかけくださいますようお願いいたします。

SC-PX3V・SC-PX5VⅡ **KDDI光ダイレクト** 050-3155-8100 (042-585-8444) SC-PX7VⅡ **KDDI光ダイレクト** 050-3155-8011 (042-589-5250)

ご購入はお近くの販売店 または **エプソンダイレクト** で検索 >> お電話でも **0120-956-285**

エプソンのホームページ <http://www.epson.jp> エプソン販売株式会社 セイコーエプソン株式会社



焦点距離:600mm 露出:F/8.1、1/2500f ISO400 © Ian Plant

進化した超望遠ズームで、
かつてない躍動をつかまえる。

SP 150-600mm F/5-6.3 Di VC USD

[Model A011]

ダイナミックな表現を、さらにシャープに描き出す。
手ブレ補正機構と超音波モーターを搭載した600mm超望遠ズーム。

Di:デジタル一眼レフカメラ用レンズ
希望小売価格 140,000円(税抜) 丸型フード付
発売中:キヤノン用/ニコン用/ソニー用*

*ソニー用は、ソニー製デジタル一眼レフカメラがボディ内に手ブレ補正機能を搭載しているため、手ブレ補正機構「VC」を搭載していません。



タムロンレンズ お客様相談窓口 ナビダイヤル

0570-03-7070

受付時間 平日9:00~17:00(土日・祝日・弊社指定休業日は除く) ※一般電話から市内電話料金にてご利用いただけます。
ナビダイヤルをご利用できない場合のお問い合わせ先 TEL 048-684-8889 FAX 048-689-0538

東京修理受付窓口

〒110-0005 東京都台東区上野6丁目16番22号 上野TGビル3階 TEL 03-5817-7210 FAX 03-3837-1790

株式会社タムロン タムロンは、様々な産業分野において精密、高品質な光学製品を創出し、社会に貢献しています。

www.tamron.co.jp

TAMRON®

産業の眼を創造貢献するタムロン

■ Gallery	JPS ギャラリー 増田彰久、大塚雅貴、齋藤ジン、湊 和雄 林 明輝、大島 洋、和久六蔵、佐藤秀明	5
■ First Message	写真の後ろにはさまざまな物語がある	熊切圭介 13
■ Focus	創立 65 周年記念「日本の海岸線をゆくー日本人と海の文化」	島田 聡 14
■ Zooming	写真×写真(連載8)戦後70年「戦争を記録する写真」	河野和典 16
■ Wonder Land	写真展「知っていますか…ヒロシマ・ナガサキの原子爆弾」終わる	松本徳彦 18
■ Report	「生きる Post-TSUNAMI」展のドイツ語圏巡回について	清田とき子 22
■ Archives	「日本写真保存センター」調査活動報告(19) 敗戦そして海外での眼差しー収集・保存した写真原板からー	松本徳彦 24
■ Workshop	著作権研究(連載35)写真家のための「映画の著作権」の考察	北村行夫 26
■ Topics	賛助会員トピックス ニコンイメージングジャパン、サイバーグラフィックス、キャノンマーケティングジャパン、フレームマン、東京工芸大学、堀内カラー、マンフロット、プロフォト	28
■ Education	平成 26 年度小学生を対象とした「写真学習プログラム」報告	30
■ Report	平成 27 年度「報道写真論」講座報告	32
■ Digital Topics	今さら聞けない「記録メディア」についてのアレコレ	34
■ Award	2015 年第 11 回「名取洋之助写真賞」受賞者決まる 「名取洋之助写真賞」鳥飼祥恵さんの「amputee boy- けんちゃん -」 「名取洋之助写真賞奨励賞」増田貴大さんの「終わりの気配」	36
■ Congratulation	おめでとうございます 第 41 回「日本写真家協会賞」受賞 株式会社 堀内カラー 取締役社長 堀内洋司さん	40
■ New Face Gallery	JPS2015 年新入会員展「私の仕事」	41
■ Copyright	昨今、著作権事情あれこれ	瀬尾太一 43
■ Exhibition	2015JPS 展報告・2016JPS 展案内	46
■ Comment	写真解説	49
■ Books	JPS ブックレビュー	50
■ Message	Message Board	54
■ Annually	2014 年受賞・出版・写真展(JPS 会員)	59
■ International	日本写真家協会の沿革(英文)	66
■ Infotmation	追悼 = 名誉会員・大竹省二、丹野 章、正会員・菅井日人、 塚原 紘、天野 尚、渡辺関靖、山岡正剛/経過報告/編集後記	67
■ Technical	エプソンのデジタルプリント最前線 日本写真家協会会員の企画展開催が決定!! 「プライベートラボ」での作品制作が進む 表紙・中西裕人、表4・江口慎一	76

広告 案内

■ エプソン販売(株)
■ (株) タムロン
■ アイデムフォトギャラリー
「シリウス」

■ (株) マッシュ
■ JPS 展・名取洋之助写真賞作品募集
■ (株) ニコンイメージングジャパン
■ リコーイメージング(株)

■ 富士フイルム(株)
■ (株) 堀内カラー
■ キヤノンマーケティングジャパン(株)
■ (株) シグマ

[sirius]
AIDEM PHOTO GALLERY



想いを写す、フォトギャラリー。

「シリウス」は、作品の配置や照明の当て方など、ディテールにまでこだわられる空間です。写真に込めたあなたの想いを、たくさんの来場者に伝えてください。

アイデム フォトギャラリー「シリウス」〒160-0022 東京都新宿区新宿1-4-10 アイデム本社ビル 2F
TEL:03-3350-1211 FAX:03-3350-1240 時間:午前10時~午後6時 休館日:日曜 <http://www.photo-sirius.net/>

 Procyon Phos

「プロキオン・フォース」は、創作意欲あふれる若手写真家(39歳以下を対象)に作品発表の場としてアイデムフォトギャラリー「シリウス」の写真展枠などを提供する支援プロジェクトです。



華僑の故郷・開平樓閣——増田彰久
写真展「世界遺産（華僑の故郷・開平）」



テメットの砂丘群——大塚雅貴

写真集『SAHARA (砂と風の大地)』

写真展「サハラの風 (vent du Sahara)」



会津の氏神さま——齋藤ジン
写真展「西方白虎」



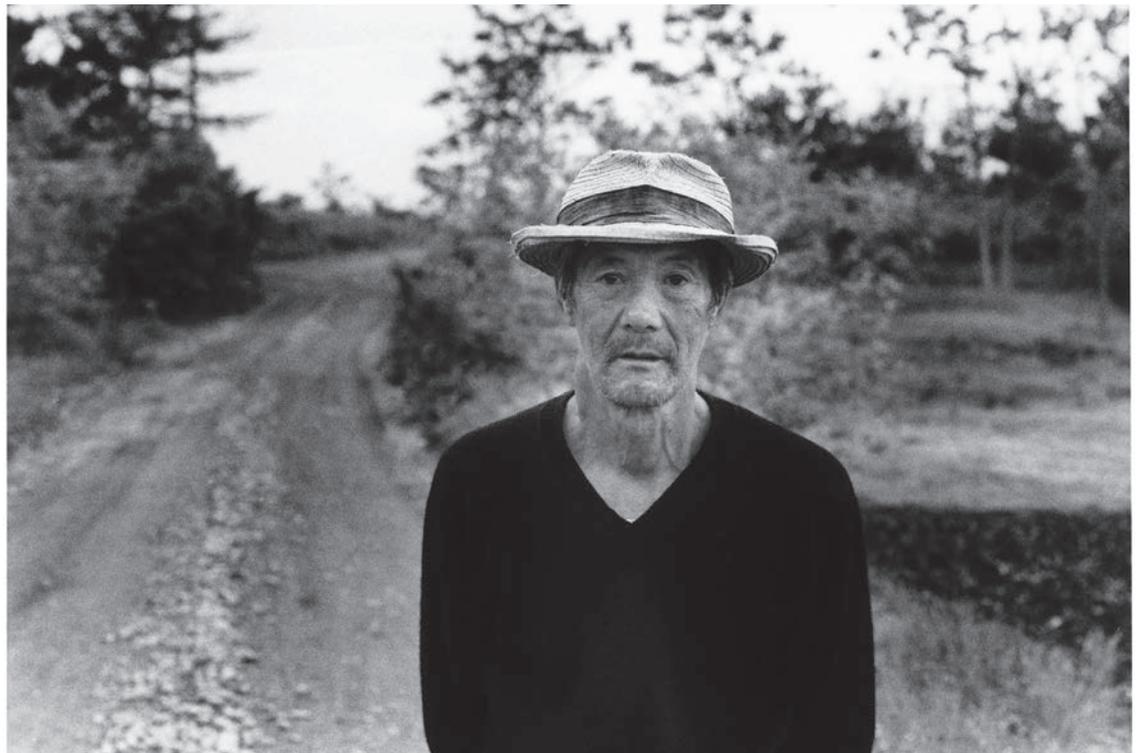
ヤンバルクイナのペア——湊 和雄
写真集『山原の自然～亜熱帯の森』



ドローンで見た雪氷の壺———林 明輝

写真集『空飛ぶ写真機』

写真展「ドローンで見た日本の絶景～空飛ぶ写真機～」



そして三閉伊（上）、幸運の町・三閉伊（下）——大島 洋
写真展



群衆———和久六蔵

写真集『Pathography/ 茶毘の夏』
写真展「Pathography」



カズ工婆さん———佐藤秀明
写真集『じいさとばあさと田んぼの神様』

写真の後ろには様々な物語がある

会長 熊切 圭介

今年、ジャーナリズムの世界で三つの出来事が大きな話題になった。一つは世界最大の報道写真コンテストでの、過度の加工と事実の捏造が行われた問題だ。この件に関しては既に会報に広川隆一会員のレポートで詳細が伝えられている。

二つ目は世界的に注目されている難民の問題だ。昨年からのシリアやイラクなどからの難民が増えている。その難民を乗せた船が転覆して乗っていた難民の子どもが、溺死し海岸に漂着している写真は、世界に衝撃を与えた。三つ目は今年度の「地方報道部門」でピューリッター賞を受賞したアメリカの新聞記者が、受賞した時点で既に職を辞していたことだ。新聞記者では生活が賄えない、というのがその理由だ。米新聞記者協会によると、ここ10年あまりで17,000人以上記者が減少しているようだ。この事実は、ジャーナリズムと関係の深い我々写真家にとって他人事とは思えない厳しい現実の姿だ。

協会の創立65周年を記念して、在籍40年以上の正会員233名と賛助会社56社を、多年の在籍と協力に感謝して、平成27年5月の総会の会場で表彰した。出席者の中には、「俺そんなに長く協会に居るの？」と驚く人もいたようだ。当日の出席者の最長老は蛭海進会員(89才)だが、年を感じさせない元気さだった。現在の日本の政治や社会状況に不安を感じる人、写真展や講演会を積極的に行っている人、先輩写真家や同世代の人との交流を楽しんでいる人、若い写真家の写真表現に戸惑いを感じる人など話の内容も様々で、今更ながら会員の層の厚さ、広さを感じた。一方、会員数があまり増加していないことを危惧する声も多く、これからの協会運営の難しさを指摘された。

協会は各種写真展や講演会、セミナーなど様々な事業活動を活発に行っているが、若い世代の関心が高いのが「名取洋之助写真賞」で、今年で11回

目を迎えた。第1回受賞者の清水哲朗会員を始め歴代受賞者のその後の活躍は目覚しく、写真の世界で着実に存在感を増している。名取賞の受賞者は、ジャーナリズムやテレビの世界などでグローバルな活動をしているので注目度が高い。しかし応募条件が厳しいためか、今年度は応募者数が16名と前年を大きく割りこんだのが気がかりだ。応募年齢が35歳以下、作品内容はドキュメンタリー、ワンテーマで30点という条件は、若い世代の写真家にとってかなり厳しいものかもしれない。応募条件や賞金の額、受賞者に贈られる写真集の部数など総合的に検討する必要があるだろう。

協会創立65周年を記念して、2016年の3月、東京池袋の東京芸術劇場で「日本の海岸線をゆくー日本人と海の文化」展を開催する。会員の作品を中心に、会員外の写真家の作品などを加えて、約200点の作品で構成する、四方を海に囲まれた日本の海岸線の総延長は、3,572kmに達する。長大な海岸線に囲まれた海洋国家日本の、風土と人、文化、人間の暮らし、民俗行事、変化に富んだ祭事などを通し「日本のいま」を探る。3.11の甚大で深刻な災害の様子や、微妙な問題で揺れ動く国境問題などを含め、新たな視点で多角的に日本を浮き上がらせる。同時に展示作品を収録した写真集を出版する。写真集の序文は、海に関する作品や紀行文、エッセイなどに健筆をふるっている椎名誠氏にお願いした。更に写真展開催中に講演を行っていただく予定だ。

写真を取り巻く社会環境は厳しく、写真表現のグローバル化、ボーダレス化が進む中で、ますます多様化する写真というメディアとどう対応するか、写真家協会という組織のこれからの在り方を深く考えながら、積極的に時代や社会と向き合っていきたい。

「日本の海岸線をゆくー日本人と海の文化」

島田 聡 (常務理事、周年事業実行委員会)

会報 157 号で、その概要をお知らせした日本写真家協会創立 65 周年記念写真展「日本の海岸線をゆくー日本人と海の文化」の詳細が明らかになった。一昨年 11 月に実行委員会が発足してから、本稿執筆時点で約 1 年半ほどになるが、月 1 回のペースで重ねてきた委員会だけでは追いつかず、委員は編集や事務作業、あるいは撮影にと奔走し、こうして報告できる段階へとこぎつけた。一部既報のものなどもあるが、新しく決まったことなどを中心に、以下、写真展の構成、写真集、会期中の講演会やイベントなどについて、順番に報告したい。また、記事の最後に主要なデータもまとめたのでご参照いただきたい。

まず、写真展の構成と編集内容について報告する。構成と内容については、9 割以上が固まり、写真点数は約 200 点余りとなり、作者は会員を中心に会員外の写真家や写真愛

好家なども含む約 130 名となった。首都圏の写真家を中心に、北は北海道から南は沖縄まで「日本の海岸線をゆく」というタイトルにふさわしい内容となった。

展示構成は、北海道から沖縄までの各地方、地域を基調にまとめたが、写真展のテーマである“海岸線”を意識して、東京湾から房総へ、太平洋を北上して東北地方へ、そして北海道を経て日本海側へ回り、東北、北陸、山陰と南下し、瀬戸内や九州地方、沖縄へと進み、四国、紀伊、東海地方の太平洋岸を辿り、出発地へ帰るといった周回型の構成を予定している。また、会場がギャラリー 1 と 2 とに分かれるため、ギャラリー 1 では地域ごとの展示を、ギャラリー 2 では、会期中にまさに 5 年目の 3 月 11 日を迎えることになる東日本大震災と海岸線をテーマにした展示を行う予定である。

次に写真集について報告する。発行は平凡社に決定した。判型は B5 判変型並製で、横位置写真の多い今回の内容に向く体裁とした。ページ数はオールカラー 216 頁、価格は 3,200 円(税抜き)を予定している。また、巻頭には椎名誠(作家)氏に寄稿をお願いした。内容とタイトルについては写真展と同じである。デザイナーは中村竜太郎氏、現在、デザインとレイアウトが進行中である。



日本の海岸線をゆくー日本人と海の文化

日本写真家協会
創立 65 周年記念写真展

2010年
3月1日(火) - 3月13日(日)
東京芸術劇場
5F ギャラリー1・ギャラリー2
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-10-1
TEL: 03-5561-1111 (受付時間: 10:00-18:00)
http://www.jppa.jp/exhibition/2010/

公益社団法人
日本写真家協会

ポスター画像: 写真撮影/平 寿夫



会期中のイベントは3月5日(土)には、写真集巻頭の寄稿の執筆者でもある、作家の椎名誠氏による講演会を予定している。会場はギャラリーと同じフロアのシンフォニースペースである。海や海岸線との関係の深い椎名氏だけに、講演会が非常に楽しみだ。講演後には、サイン会を開催し、写真集を販売する予定である。そのほか、会期中には出品者による写真集のサイン会や、フロアレクチャーも予定している。

写真展の開催までおよそ5カ月、こうしてその内容がほぼ固まり、大枠が決まってきたとはいえ、編集の最終的な詰めや、写真集の制作、広報PR、展示プランとプリントの作成などなど、まだまだやることは山積している。気を緩めることなく、事業の成功まで邁進して行きたい。

この場を借りて、会員はじめ賛助会員の皆様や関係の皆様にご感謝申し上げますとともに、引き続き一層のご協力をお願い申し上げます次第である。



藤本雅之：東海道と富士山 2012年

中村征夫：もぐり船出港(富津沖漁協沖、千葉)1986年 〈日本写真家協会 創立 65 周年記念写真展概要〉

◆写真展内容

【タイトル】「日本の海岸線をゆくー日本人と海の文化」

【会場及び会期】東京展：東京芸術劇場(池袋)

2016年3月1日～13日ギャラリー1, 2

巡回展：関西(京都市美術館)・横浜(新聞博物館)

【主催】公益社団法人日本写真家協会

【共催】東京都写真美術館

【後援】文化庁、国土交通省

【特別協賛】富士フィルム／ニコン／ニコンイメージング
ジャパン／キヤノンマーケティングジャパン

【協賛】タムロン／オリンパス／シグマ／東京カラー工業社／フレームマン／堀内カラー／学研プラス「CAPA」
編集部 日本写真家協会賛助会員各社ほか

【内容】2000年以降に撮影された作品を中心に、それ以前の作品も含め、日本の海岸線を辿りながら、その風景と風土、人の暮らしを通して見る日本の国土と文化、社会を約200点の作品で展示構成。

◆写真集

タイトル・「日本の海岸線をゆくー日本人と海の文化」

寄稿・椎名誠 平凡社刊 B5判変型 オールカラー

216頁 予価3,200円(税抜き)

◆講演会・イベント

●講演会：講師・椎名誠(作家)

3月5日(土)14時から

東京芸術劇場シンフォニースペース。

●フロアレクチャー、写真集サイン会など様々なイベントの開催を予定。

戦後 70 年「戦争を記録する写真」

河野和典 KOUNO Kazunori (フォトエディター)

戦後 70 年を迎えた 2015 年であるから、反省の意味も込めて、あるいは「反戦」の意志を込めて、あるいはまた「平和」への願いを込めて「戦争を記録する写真」が世の中に溢れるのはある意味とても“健全”である。いっぽうで、やはり戦争の反省から生まれた「憲法九条」などどこ吹く風と言った「安全保障関連法案」が国会で可決されたことは極めて“不健全”と言わざるを得ない。もう一つ、平和の象徴とも言える「オリンピック」だが、東京の「新国立競技場」の原案白紙撤回、五輪エンブレムのデザイン白紙撤回という状況は何とも情けなく、“不健全”な匂いがプンプンと立ちこめる。さらに言えば、戦後 70 年間ずっと米軍基地が沖縄にありつづける状況は異常であり、もう不健全を通り越して完全に“病気”である。最後に、福島原発事故処理が遅々として進まない中、原発再稼働が成されていくのは、何をか言わんや、である。もう少し、科学的に冷静に対処できないものだろうか。

それでは、「戦争を記録する写真」を見ていこう。

写真の見方までも考えさせる特集号

『photographers' gallery press no.12』

— 特集「爆心地の写真 1945 - 1952」 —

(2014 年 11 月 15 日、photographers' gallery 発行、定価 2,500 円 + 税)

この特集号で特に目を引くのは、巻頭の「写真 松重美人の 5 枚の写真 / 1945 年 8 月 6 日」とそれに続く 6 人の出席者、倉石信乃(写真史・明治大学教授)、小原真史(映像作家・IZU PHOTO MUSEUM 研究員)、白山眞理(日本カメラ博物館運営委員)、橋本一径(表象文化論)、北島敬三(写真家・photographers' gallery member)、笹岡啓子(同)による「座談会 松重美人の 5 枚の写真をめぐる」である。

松重美人(まつしげよしと 1913 - 2005 年)は当時 32 歳で、中国新聞社編集局写真部に勤務。1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分に広島に投下された原子爆弾により自宅が被爆するも軽傷だったため会社へ向かう途中、午前 11 時過ぎころ爆心地から約 2.3km の御幸橋西詰で 2 枚、午後 2 時ころ帰宅して自宅で 2 枚、午後 5 時ころ爆心地より南南東に 2.4km の御幸橋東詰(広電

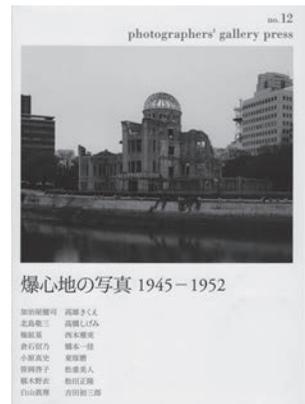
宇品線と皆実線の分岐点)で 1 枚、の合計 5 枚を撮影している。原爆投下直後の惨状、特に被爆者を捉えた写真は、この 5 枚のみで極めて貴重な記録とされている。今号の特集で特筆すべきは、「1945 年から 1952 年のプレス・コード解除(サンフランシスコ講和条約締結)までを中心に、広島で撮影された写真をあらためて見直し、詳細に検証(略)広島での調査取材をもとにした座談会や書き下ろし論考により、写真そのものから問い直す試みでもあります。」とまえばきにあるように、ともすると何気なく通過してしまう写真を、出席者 6 人が、多岐に渡る観点から各自の個性豊かな発言と著述で細かく解説していることである。写真を見ることがはどのようなことか、その根本までも鋭く指摘した、示唆に富む座談会となった。

ドラマ以上にドラマチックなテレビ映像

NHK スペシャル「きのご雲の下で何が起きていたのか」

(2015 年 8 月 6 日 19:30 放送)

この番組は、戦後 70 年特集として、上記、松重美人が 8 月 6 日に撮影した 5 枚の写真の中から、最初に撮影された午前 11 時過ぎころ爆心地から約 2.3km の御幸橋の 1 枚目と 2 枚目の写真にスポットを当てて解析している。いわば『photographers' gallery press no.12』の続編、あるいはテレビ映像版と言えなくもないが、そこは NHK、得意とするドキュメンタリーならではの綿密な取材——当時「御幸橋」にいた 3 人と橋を通りかかった 30 人以上を突き止め発言を得た



爆心地の写真 1945-1952

加藤剛毅 高橋孝之
北島敬三 高橋しほ
橋本一径 西本肇
倉石信乃 橋本一径
小原真史 松重美人
笹岡啓子 松重美人
松本野史 松田正隆
白山眞理 西村敏彦



松重美人が 1945 年 8 月 6 日午前 11 時過ぎころ撮影した 1 枚目の写真

という——をもとに写真をコンピューターグラフィックスで動きのある映像にするとともに、原爆によるやけどの医学的な解明も試みていた。とても訴求力の強い仕上がりで、特に橋のもとに到着した救護のトラックに少女が駆け寄ってよじ登ろうとした瞬間、荷台の上から軍人に「おんな子どもはだめだ！」と一喝され、少女は燃えさかる爆心地方向へ走り去って行くという場面などは、並のドラマ以上にドラマチックに構成されていた。



松重美人が1945年8月6日午前11時過ぎごろ撮影した2枚目の写真



松重美人が1945年8月6日午後5時ころ撮影した5枚目の写真

〈ヒロシマ〉〈ナガサキ〉の惨状を記録

日本写真家協会「日本写真保存センター」、日本カメラ財団主催写真展

「知っていますか…ヒロシマ・ナガサキの原子爆弾被爆から70年」

(2015年8月4日～8月30日、JCI フォトサロン)

〈ヒロシマ〉と〈ナガサキ〉の原爆投下直後の写真を一堂に見るのは初めてであった。撮影者はヒロシマが澤田敏夫、松重美人、岸田貢宜、尾糠政美、川原四儀、宮武甫、佐々木雄一郎、菊池俊吉、林重男、田子恒男、ナガサキが山端庸介、林重男で、合計11名の写真が展示された。焦土と化した両市街地をはじめ、黒こげの死体、重度のやけどの負傷者の姿は悲惨を極める。人間とはこれほどまで愚かなのだということ、見る者に突き付けているようである。展示作品に興味深かったことは、上記『photographers' gallery press no.12』の座談会で橋本一径と白山真理が指摘したように、松重美人と山端庸介の撮影態度がかなり違うことである。ある意味、茫然自失の状態で醜い場面を避けてやっと5枚撮影した松重美人に対して、「百戦錬磨の報道班員で、しかも(軍の)命令で撮りに行っ



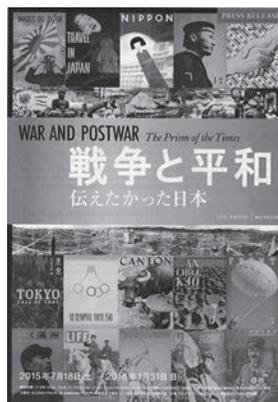
写真展「知っていますか…ヒロシマ・ナガサキの原子爆弾被爆から70年のパンフレット

て、100枚以上撮影した」という山端庸介。被爆者の背後から恐る恐る撮っているような松重に対して、ズバリと、あるいは被爆者の状況が良く分かるように、沈着・冷静に撮影した山端。もちろんそれだけではなく11名の写真は、やはり原子爆弾の恐ろしさを様ざまに捉えて、貴重な記録であった。

〈報道写真〉のあゆみを多くの資料で紹介
戦後70年特別企画展「戦争と平和 伝えたかった日本」
(2015年7月18日～2016年1月31日、
IZU PHOTO MUSEUM)

主催はIZU PHOTO MUSEUMと日本カメラ財団。名取洋之助(1910-1962年)が1933年ドイツより持ち込んだ「ルポルタージュ・フォト」を伊奈信男(1898-1978年)が「報道写真」と訳したところから日本における「報道写真」の歴史が始まる。本展は、名取が創刊した『NIPPON』(1934年)からやはり名取が編集長格を務めた『岩波写真文庫』(1950-1958年)までの〈報道写真〉のあゆみを、戦前・戦中・戦後に登場した各種グラフ雑誌、写真雑誌、写真集、海外向け広報誌、ポスター、写真など多くの資料を駆使して克明に表した歴史展である。今展を企画したのは冒頭の『photographers' gallery press』座談会にも登場した小原真史と白山真理。今展と同時に両氏共著の『戦争と平和 〈報道写真〉 伝えたかった日本』(2015年7月、平凡社、定価2,000円+税)も発行された。白山真理が昨年上梓した『報道写真』と戦争1930-1960』(吉川弘文館)が母体になっているようだ。〈報道写真〉が戦前の大らかさから徐々に戦争に巻き込まれ戦争を鼓舞し、そして戦後また戦争から解放されて行く様子が名取洋之助を中心にした木村伊兵衛、土門拳、伊奈信男らと、原弘、山名文夫、河野鷹思、亀倉雄策ら優れたデザイナーの手によって明らかにされている。

「戦争を記録する写真」はまだあるのだが、最後に江成常夫が今年8月2日と8月15日(終戦記念日)、出身地の相模原市で2つの写真展と講演会(「母国は遙かに遠く」と「まぼろし国・満州と戦争孤児」)を行ったこと、そして大石芳野が『大石芳野写真集 戦争は終わっても終わらない』(2015年7月30日、藤原書店、定価3,600円+税)を上梓したことを記しておきたい。



「戦後70年特別企画展 戦争と平和 伝えたかった日本」のパンフレット

日本写真保存センター企画

写真展「知っていますか - ヒロシマ・ナガサキの原子爆弾」終わる

原爆投下から70年を記念してJCII フォトサロンで8月4～30日まで催した写真展は、8,000人を超える来場者を迎えた。

連日の猛暑にもかかわらず、テレビや新聞記事を見て会場を訪れた人たちの大多数が、写真とは関わりのない方々で、家族連れ、昼休みに訪れたオフィスガール、カメラを手にした若者たちなど多彩だった。原子爆弾による焦土と化した市街の惨状、熱線で火傷を負った被爆者たち、救護を求める母子、直撃を受けて炭化した若者の遺体の写真など、これまで余り見る機会がなかった写真群に、来場者はくぎ付けとなって見入っていた。会場内は異様なほど静寂で、キャプションを読み写真と見比べながらの観察は、日頃の写真展とは相当な隔たりがあった。

被災の凄まじさに圧倒されて立ちすくみ、目に涙を浮かべておられる方もあって、原爆の怖さ、畏怖を全身で感じておられている姿に感動した。まさに写真の真髄である「記録性、精細な描写による迫真性」が表出したドキュメントの凄さに、「記録の重み」を感じられたようだ。その証は会場に置いていたアンケート(401人)に明白に記されている。《衝撃もさることながら、展示されているような事実を伝える写真が、ほとんどメディアで公開されてこなかったこと、直後を撮影したフィルムの破棄が命じられたにも関わらず、相当数の原板が残されていたこと》など、はじめて知った事実で驚いたと綴られ、歴史の記録として今後も繰り返し伝えて欲しいとの声が多数あった。

写真展の企画は2013年秋、山端祥吾氏から父庸介が

撮影したナガサキの原爆被害を記録したモノクロフィルム3本(78コマ分)が、写真保存センターに寄託され、未永く保存して欲しいと託された時に始まる。センターの目的である歴史的、文化的価値を有する写真原板の収集・保存と利活用を図るとの趣意に沿って、企画は進められた。

原爆被害はなんといってもヒロシマであるところから、広島平和記念資料館と松重美人氏の写真原板を保存管理している中国新聞社を訪ね、原爆展の意図を説明し、投下から3カ月以内に撮影された写真原板の貸出しを受けて写真展の開催にこぎつけた。さらに原爆被災調査団に随行した菊池俊吉氏の原板は遺族の田子はるみさんから、林重男氏のネガは長崎原爆資料館と広島資料館から、被爆直後いち早く取材した朝日新聞社の宮武甫氏の原板は同社から提供を受けた。写真展の取材もテレビ、新聞各社がこぞって記事を掲載し、動員に協力頂いた。驚いたのは米軍の新聞 Stars and Stripes 紙が取材し全世界に向けて報じたことである。

さてこの写真展の最大の協力者は日本カメラ財団で、会場の提供、額装、図録の印刷、会場の受付でお世話になった。期間中の休館日も問い合わせが多くて開館されたこと、図録も完売し、JPSが増し刷りした250部も販売に回すなど、予想を上回る観客を迎えることができた。

なお、写真展は2016年2月25日から4日間、横浜で開催されるCP+(みなとみらいギャラリー)で、8月には関西でも催す予定。また3月にドイツ・ケルンの国際交流基金展示場で、以後ドイツ国内を巡回する予定である。
(記・撮影/副会長:松本徳彦)



熱心に見続ける JCII フォトサロン



会場でアンケートを書く観客

8月4日から始まった「知っていますかーヒロシマ・ナガサキの原子爆弾」展に合わせて、JCI ビル 6 階セミナー室で、5日(水)14歳で被爆された橋爪文さんをお招きして「ヒロシマからの出発」と題する体験談をお聞きした。

8日(土)には「記録の重みー被爆直後を撮影したフィルムの保存を」東京国立博物館の田良島哲、写真史家の金子隆一両氏が講演した。それぞれ100名前後の聴講者があり、講演後の質問も、被爆時の強い衝撃による被災状況は、言葉にするのも辛い苦しみや、その後の闘病から立ちあがって体験談を語り続けて核廃絶、平和の尊さを世界に向けて発信していること。また、撮影原板の保存の必要性和文化遺産としての価値を専門的立場から語られるなど有意義なセミナーであった。

「ヒロシマからの出発」 橋爪文(詩人)

8月5日(水)14:00～16:00

8月6日午前8時15分

私は14歳の時に、学徒動員で通っていた通信省広島貯金支局の建物で被曝しました。爆心地からの距離は約1.5キロ。全身にガラスの破片が突き刺さり、右の胸の血管が切れたらしく大量の血が出て、意識がなくなって。同じ職場の20代の女性2人が、日赤に連れていってくれました。

日赤はかろうじて建物が残っているものの、病院の体をなしていない状態。全身が赤黒く焼かだれている人、一瞬のうちに衣服が焼け、皮膚をボロ布のように引きずっている人、飛び出た目玉を自分の手で支えている人、はみ出た腸を長く垂らしている人など、人間の姿を失った人たちであふれかえっているのです。私はわずかに目を開ける力が残っていましたが、その惨状を見たたん、怖い夢を見ているのだと思っ再び意識を失いました。

でも聴覚は残っているらしく、「眠らせたらすぐに死にますよ」という男の人の声が聞こえてきた。その後、私を病院に連れていってくれた友柳さんが、ずっと私の名前を呼び続けてくれました。

そのうち敵機が襲来してきたらしく、私は地下に運ばれました。近くで、友柳さんたちが「何が起ったんでしょうね」と繰り返す声が聞こえてきます。私もやっと身体に力が戻ってきて、「何が起ったんでしょう」とひとこと呟きました。すると私が死ななかつたことに感激して、友柳さんが声をあげて泣きました。その泣き声が、今も耳に残っています。

友柳さんは、「一度家に帰って母を捜して、必ず戻ってくるから。ここを離れないでね」と言い残して、去っていききました。それから1年後、原爆症で亡くなったそうです。

しばらくするときな臭い匂いがして、「火が点いたから逃げろ」という男の人の声がしました。みんな地下室から出ていったようですが、私は動けません。地下室に残ったのは私1人。死ぬことは怖くなく、静かな気持ちでした。

どのくらいたってからか、うっすら目を開けると、左の上のほうの出口から光が差しています。そこから白い煙が入ってきて、だんだん色が濃くなってくる。このまま死ぬのかと思っていると、黒い煙の中にずっと人影が走り、「まだ誰か残っているのか。逃げろ!」という叫び声。私はなんとか立ち上がり、のろのろ歩きました。すると向こうから顔が血だらけで髪が長い、この世のものとは思えない恐ろしい姿の女性が近づいてきます。思わず顔を覆い、指の間から見ると、向こ

うも私のことを恐ろしそうに見ている。近づいたら、それは鏡に映っている自分の姿でした。

日赤の庭に出ると、さっきまでそこにあった街がすっかり消えていました。そして夕方みたいに薄暗いのです。私はまだ夢の中にいるのかと思い、呆然としていました。すると背後から男の子が「君、何歳?」と声をかけてきました。それが16歳の飯田さんでした。彼は逃げる力があるのに、私のためにその場に残留してくれました。そして日赤病院の窓という窓から噴き出している炎をよけるため、植え込みの影に連れていってくれました。

翌日、なんとか力を振り絞り、飯田さんが家に向かうのについていき、広島の一歩南の橋のところまで一緒に行きました。そこに叔母の家があるので。叔母は重傷を負っていましたが、私を見るとへなへなと腰を抜かしました。なんでも30分くらい前に父が来て、家族全員集まったけれど私だけ見つからないと言ったそうです。私は母に会いたくてたまらなくなり、飯田さんとそこで別れ、家を目指して歩き始めました。

街はまだ燃えているところもあり、防火用水槽には必ず白骨遺体がありました。でも、人間の感情を失っていたのか、怖くないのです。初めて人間的な気持ちになったのは、赤ちゃんを抱いているお母さんの白骨を見たときでした。白骨なのに、いとおしそうに赤ちゃんを抱いているのがわかるのです。

それから北に向かい、焼け野原を何時間かかって歩いたのでしょうか。その間、生きていたものにまったく会いませんでした。そしてうちの近くの建物を曲がると、向こうから3人の人間がよろよろもたれあつてこちらに歩いてきた。その中の1人が「文子じゃないの!」と叫びました。母と姉と叔母でした。

焼け跡で肩を寄せ合って

苦しかったのは、それから後の生活です。広島はすべてが焼きつくされ、食べ物も飲み物もありません。水は雨水をためて、なんとかしのぎました。どれぐらいたってからか、剥げた土にプチッと草の芽が見えた時は、ハッとしましたね。緑は命の色です。躍動感がある。その芽が伸びて、10cm、15cmに



なるまで待ち、ひしゃげた鍋に入れて草雑炊にしました。それまでいったい何を食べていたのか、まったく思い出せません。私たちは瓦礫の上に粗末な小屋を建てて、近所の人とうちの家族13人で、肩を寄せ合うようにして暮らしました。広さは2畳くらい。寝ている時くっついていてと体温が伝わってくるので、ああ、この人はまだ生きてしていると分かる。そうやって励まし合って生きていきました。

そのうち比治山のとっぺんに、アメリカによってABCC(原爆傷害調査委員会)が作られました。私もジープに乗せられ、連れていかれましたが、そこでは検査はするけれど治療は一切してくれないのです。しかもアメリカ兵の態度から、私たちを人間扱いしていないことがよく分かる。私はひじょうに屈辱を感じ、二度とABCCに行きませんでした。

戦争だけは絶対にいけない

私は戦後、焼野原で誰も生きていないような風景の中で、ひたすら人間そのものと向き合ってきました。なぜあんなことが起こったのか、考えていたのです。そして世界中の人間が戦争をしないで穏やかに暮らすにはどうしたらいいのか、14歳のあの日から、ずーっと考え続けました。

被爆した日のことは、何十年も思い出すことができません。あまりにも凄惨だったので、忘れたかったのでしょう。貯金支局のある南の方角を向いただけで、嘔吐するほどでした。どうにか皆さんの前でお話できるようになったのは、細かいことを少しずつ忘れていったからだと思います。

幸い3人の男の子に恵まれましたが、40の頃、医師から半年の命だと言われて。私が死んだ後、子どもに何か残したいと思い、童謡を書きました。それがきっかけで詩を書くようになったのです。でも原爆を題材にした詩を書くには、それから10年を要しました。60の時、英語を勉強するためにエジンバラに行きました。そして70歳を目前にした頃から、一人で海外に出かけ、ユースホステルに泊って世界を歩くことを始めました。おかげで世界各国に友人もでき、海外の人に原爆の話をする機会も生まれました。

私がかここで生きてこられたのは、被爆した時に助けてくださった方のおかげです。また極限状態で13人で身体を温め合いながら、14歳の私は苦しみの中で「人間ってすばらしい」と実感しました。それが、生きる力の根底になっていると思います。

若い方々に伝えたいのは、「戦争は絶対にいけない」、そのひとつです。どんな理由があっても、戦争だけは絶対にしてはいけません。

略歴：橋爪 文(はしづめ ぶん)

1931年、広島生まれ。14歳の時に被爆し、瀕死の重傷を負い、急性原爆症状で苦しむ。その後も原爆白内障や大腸がんなどにかかった。日本ペンクラブ、日本詩人クラブに所属。主な著書は『詩集 地に還るもの 天に昇るもの』『フモギの105日』『ヒロシマからの出発』

記録の重み - 被爆直後を撮影した フィルムの保存を 8月8日(土)14:00～16:00

「文化財としての写真」 田良島 哲

私は東京国立博物館に勤務しておりますが、博物館は写真と縁が深い場所です。当館は明治5年にできましたが、創立当初から写真を集め、かなり膨大なコレクションを持っています。

20年ほど前、文化財保護政策の中で写真を文化財としてどう位置付けるか、検討した時期があります。その後、写真を文化財として保存しようということが、ある意味社会的な了解行為となりました。

「文化財」というのはもともと法律用語で、1950年に文化財保護法ができた時に初めて使われるようになった言葉です。文化財の定義としては「建造物、絵画、彫刻、工芸品、書籍、典籍、古文書、その他の有形の文化的所産で我が国にとって歴史上、または芸術上価値が高いもの。ならびに考古資料、その他の学術上価値の高い歴史資料」が、ひとつのカテゴリとして定められています。ところが写真に関しては、守るべき文化的所産という訴えかけをしても、最初のうちはなかなか理解されなかったと想像されます。

おそらく理由はふたつあり、ひとつは写真が近代的な科学技術の産物であり、科学技術は文化財に属さないという切り分けがかなり長いことあった。もうひとつは、写真は基本的に複製芸術であり、原板から焼き付けを多数作ることができるため、これが文化財のひとつのキーワードである希少性と相いれなかったのです。

近代・現代の文化的所産について国レベルで新たな方針を打ち出したのが、1996年に文化庁が出した「近代の文化遺産の保存と活用について」という報告書です。広島原爆ドームを世界文化遺産にしようという動きの中で、どの範囲を文化財と呼ぶかが問題になったからです。この報告書で新しい時代の文化的所産を例示した中に、写真や映画フィルム、ポスター、レコードなどの視聴覚メディアが含まれていたことから、写真を文化財として積極的に位置づける方向が打ち出されました。その後、日本最古の写真である島津斉彬を撮影したダゲレオタイプの写真を皮切りに、明治期の写真を中心とした焼き付け、原板、ガラス原板といったものが継続的に文化財として指定され続けてきました。

では、どういうものが指定されたのか。たとえば幕末に留学生としてオランダに派遣された内田正夫が留学先で収集した写真をまとめた「万国写真帖」。これには2300枚ほどの写真が収め



られています。災害の記録も重要で、明治24年に起きた濃尾地震では、地震後に派遣されたカメラマンによって根尾谷断層の写真が撮影されています。

東京国立博物館では、焼き付け写真とあわせて原板も保存しています。原板の保存が、なぜ大事なのか。私どもの所蔵品に、明治5年に行われた「壬生検査関係写真」という一群の写真があります。これは当時の政府が初めて関西、京都、奈良、大阪、伊勢神宮など現在でいうところの文化財が集中している地域を調査し、文字と同時に当時最新の技術であった写真で記録したものです。この時に派遣された横山松三郎は、近代写真史ではきわめて重要な写真師の1人です。

たとえば京都御所の紫宸殿の焼き付け写真を見ると、一見、建物の背景が空のように見えます。ところがガラス原板を見ると、背景がすべて黒塗りしてある。つまり実際は、そこは空ではなかったのです。このように焼き付けを作るにあたって、原板になんらかの操作がされるというのは、初期の時期からすでに行われていたわけです。だからこそ、原板が重要である。また科学的な記録の真正性を示すためにも、写真原板というものが文化財、歴史上、あるいは科学上、ひじょうに重要な意味を持っているのです。

略歴：田良島 哲(たらしま さとし)

京都大学文学部研究科卒業。文化庁文化財保護部美術工芸課 文部技官などを経て、現在東京国立博物館学芸研究部・調査研究課長。

「原爆写真の思想」 金子 隆一

1995年、私が東京都写真美術館に在籍している時に、「核半減期」という展覧会を開催しました。その時のコンセプトは、1945年に日本人が撮った写真と、それ以降に撮られた写真を大きく二つに分けることでした。

1945年に撮られた写真は、直後であれ、しばらくたって組織された学術調査の一環であれ、あくまで現実をストレートに見つめて記録することが写真を撮る理由であったと言っているのではないかと。それ以降、2015年の今日に至るまで、実に多くの写真家が広島と長崎を撮影しています。

1952年4月8日のサンフランシスコ講和条約行使前は、原爆の写真は発表できませんでしたが、同年8月6日、『アサヒグラフ』が「原爆被害初公開」と銘打ち大特集を組み、ベストセラーとなります。そして1961年、山口県在住のアマチュアカメラマン福島菊次郎さんの『ピンドンーある原爆被災者の記録』が出版されます。

有名なのは土門拳が1958年に出版した『ヒロシマ』です。土門拳は、「僕などは広島を忘れていたというよりは、実ははじめから何も知っていなかったのだ」と語っています。私たちが原爆の写真を見る時、この言葉は、記憶というものを常に蘇らせていく重要なきっかけになると思います。

原水爆禁止日本協議会からの依頼で、英文の写真集『Hiroshima—Nagasaki Document 1961』を出した東松照明さんは、「1945年8月の恐怖は、単なる過去の出来事ではな

く、現在もお続けている痛苦である。死を免れた多くの被爆者が、僕たちが生きている今を、僕たちと同じ時間を生きているのである」と言っている。原爆ドームの壁の染みを撮影している川田喜久治さんは、あの建物の中で何百人という人が一瞬のうちに蒸発してしまい、まさに壁の中に吸い込まれていった。それが時間をかけて外に現れたのだというふうに感じたそうです。



石黒健治さんの1970年の写真集『広島—HIROSHIMA NOW』には、女子高生の後ろ姿と被爆者のケロイド、公衆便所などが等価なものとして収められています。つまり、どんな日常生活から原爆が見えなくなっている中で、われわれはどのように原爆を伝えていくか。ひじょうに大きな問題だということを、石黒さんの写真は教えてくれます。

ここで重要なのが、1945年の写真の原板の意味です。今回JCLLフォトサロンで展示している写真は、2点を除き、オリジナルのネガからそのままストレートに伸ばしたものです。だから画像が欠損しているものは、そのまま出ています。

山端庸介が撮影した防空壕に避難して助かった女性の写真は、1995年の「核半減期」では、コンピュータのデジタル処理によって撮影時の状態を修復回復したネガから制作されたプリントを展示しました。今回は、オリジナルのネガからプリントされたものを使っています。ネガそのものが1945年にどういう状態であったのか、それも含めて「記録」であるからです。語り部がどんどん亡くなっていくように、1945年に撮影された原板もどんどん破壊されていく。100年後にはどうなるのか、分かりません。

デジタル時代の今、画像はいくらでもきれいに復元できます。でも、復元する元になっているものがあるはず。これを日本写真保存センターでは撮影原板として、特別な位置づけを与えています。

山端さんのこのネガは、1945年8月にライカの中に入っていて、放射能が満ち溢れた長崎にいたフィルムです。ほかの写真家の写真も同じです。それをどう受け継ぎ、伝えていくのか。私たちに課せられた重要なミッションではないかと私は思います。

(構成／篠藤ゆり、撮影／出版広報委員：小池良幸)

略歴：金子 隆一(かねこ りゅういち)

1948年生まれ。写真評論家、写真史家、写真集コレクター。立正大学文学部卒業。元東京都写真美術館学芸員。武蔵野美術大学非常勤講師。日本写真史、特に日本の芸術写真(ビクトリアリズム)を専門とし、国内の様々な写真展を企画している。主な著書に『日本写真集史 1956-1986』などがある。

「生きる Post-TSUNAMI」展のドイツ語圏巡回について

ケルン日本文化会館前館長 清田とき子

国際交流基金ケルン日本文化会館では、日本写真家協会がフォトキナ 2012 で展示した標記写真展をお預かりし、その後当館を始めとしてドイツ語圏 6 会場で巡回展示いたしました。会報 No.156 でも報告されていますが、このたび巡回が一区切りしましたので、現地からご報告したいと思います。

2012 年 4 月はじめに、当時専務理事の松本徳彦氏からケルンのフォトキナで東日本大震災に関する写真展を開催するお話をうかがい、その後ドイツ内で巡回できないだろうかとのご相談がありました。日本で作成されたカタログを拝見し、この写真展はできる限り多くの方に見ていただきたいと強く感じ、フォトキナ会場では見本市の入場者しか見ることができませんので、まずは 10 月にケルン日本文化会館で開催し、他の会場探しを始めました。

フォトキナの開催中、ウィーンの写真家アンドレアス・バリリ氏から、フォトキナのない年にオーストリアで行われる国際写真ウィークで是非展示したいとの希望があり、2013 年 4 月に風光明媚な写真ウィークの開催地グムンデン市で開催することが決まりました。市役所と銀行の 2 会場で開催された本展ではオープニングに市長さんが挨拶され、またバリリ氏は、体育館一杯に写真が干された作品を指さして、人にとって家族の記録として写真がいかに大切か話しました。

旧東独のハレ市は大学に日本学科があり、また独日協会の活動が活発な町で、独日協会とタールシュトラーク美術協会の協力により、2013 年 6 月にハレでの開催が決まりました。ハレは直前に大洪水に見舞われて、有名なヘンデル音楽祭が中止になり、美術協会も大きな被害を受けましたが、「このような時にこそ勇気を得るために「生きる」展を開催するべき」との主催者の英断で実施にこぎつけました。展示ホールの隣の部屋ではハレ美術大学に留学中の日本人学生による震災をテーマとした美術作品も展示され、すばらしい日独交流のイベントとなりました。

美しい日本庭園を有するカイザースラウテルン市では、2013 年 10 月に文京区との姉妹都市 25 周年記念式典とあわせて、両市長の臨席のもとテオドル・ツイ



ケルン日本文化会館 会場(2012 年 10 月)

ンク博物館でオープニングが行われました。文京区長を初めとする日本からの一行の中には大きな被害を受けた釜石市からの代表者もいて、親しい人を失う悲しみと苦しみのお話が涙を誘い、「私達に起こったことを忘れないでほしい」との呼びかけが胸に迫りました。

エッセン・デュースブルク大学東アジア学部では、研究室のある建物で定期的に日本の展覧会を開催しており、今回も「生きる」展の開催希望をいただき、2014 年 3 月 11 日にオープニングが行われました。地理学の教授が改めて大震災の状況について講演し、キャプションの中に撮影地の地図が挿入されるなど、大学ならではの学術性の高い展覧会でした。

2014 年 9 月からはマンハイムのライス・エンゲルホルン博物館で「自然・人間・災害 - アトランティスから今日まで」というタイトルの展覧会のもと、「生きる」展が本展の一部門として展示されました。この展覧会はハイデルベルク大学の特別研究プロジェクト、ライス・エンゲルホルン博物館及びダルムシュタット工科大学の 3 者共同による学術的色彩の濃い展覧会で、「人間はいかに災害に立ち向かうか」をテーマに、過去に世界のさまざまな地域でおこった地震、洪水、ハリケーン、火山の噴火などの大災害を、被災に遭った証拠の品や図解のほか、絵画や写真などの作品も用いてと



ケルン日本文化会館 会場



ケルン日本文化会館 オープニング(2012年10月)



ケルン日本文化会館 美術館の長い夜1(2012年11月)

りあげ、被災の状況、克服、予防について紹介するものでした。「生きる」展は時代順に展示された本展では最後の部屋での展示となり、津波の被害の恐ろしさと、展示方法として強調されていた災害の中においても見られる「人間性」、すなわち元気を取り戻そうと笑顔を見せる被災者の姿が、見る人に強い印象を与えました。オープニングで挨拶をされたバーデン・ヴェルテンベルク州学術省のパウアー大臣にもじっくりご覧いただきました。東日本大震災の生々しい記録、それを乗り越え力強く生きる人々の姿は、展覧会の訪問者に感銘を与え、本展だけで27,000人近くの入場者が訪れました。

以上、日本写真家協会の「生きる」展は、2012年9月のフォトキナの後ドイツ語圏6会場を巡回し、計34,000人以上の方にご覧いただくことができ、共催者であるケルン日本文化会館の近年の事業の中でも、時宜を得た大変意義の深い事業となりました。

写真の力と記録することの大切さを改めて強く感じることでできた「生きる」展の開催に関し、日本写真家協会のお申し出と皆様のご協力に感謝申し上げます。鑑賞した誰もが、「私達に何ができるか」考えました。復興までは長い道のりだと思います。被災地の復興を祈念するとともに、そのためにどのような協力ができるか、考え、行動していきたいと思えます。



カイザーラウテルン市テオドル・ツィンク博物館 オープニング(2013年6月)



ケルン日本文化会館 美術館の長い夜2(2012年11月)



ケルン日本文化会館 美術館の長い夜3(2012年11月)



エッセン・デュースブルク大学 会場(2014年3月)

「日本写真保存センター」調査活動報告(19)

敗戦そして海外での眼差し ー収集・保存した写真原板からー 松本 徳彦 (副会長)

ここにきて「写真保存センター」の活動内容が写真家や遺族(著作権継承者)の方々に、理解されるようになって、「お祖父さんが撮ったこんな時代の写真原板があるのですが」といった問い合わせや、歳をとり働けないが「これまで撮ってきた写真を残したいがどうすればよいか」といった電話や手紙での問い合わせが多くなってきた。ありがたいことだ。

保存センターでは、撮影年代や内容についてお尋ねし、可能な限り収集が図れるよう対応している。大切なことはその写真が「いつ、どこで、どんなものを写しているか」をお聞きし「寄贈の有無」を確認して、委員会に諮って収集の手続きを取るようにしている。

渡辺義雄 (1907～2000)

写真界の重鎮としてJPSの会長職を25年間も務めた渡辺義雄の主要な作品の写真原板を収集した。代表作の「伊勢神宮」から「宮殿」、「迎賓館」、「帝国ホテル」などと「奈良六大寺」、「大和古寺」などの壮大な寺院建築をとらえたモノクロ、カラーの写真原板(4×5、5×7、8×10のフィルムと乾板)の数々。それと戦後海外渡航が許可されて世界平和評議会(1956年コロμποで開催)に招かれて撮った、アジア諸国とイタリア、モスクワなどの35ミリモノクロフィルムなども収集した。

渡辺は1907年新潟県三条市で生まれ、県立三条中学校を卒業して上京、25年、小西写真専門学校(現東京工芸大学)に入学。学生時代から各種の写真展で第1席、特選を受賞する。28年、卒業後オリエンタル写真工業の写真部に入社。ガラス乾板の製品テストで腕を磨き、当時先端的な写真表現で話題を呼んでいた木村専一が主宰する「新興写真研究会」に参加(30年)。「フォトタイムス」の編集に参加し、「カメラワーク」と題するシリーズで「レ

ビューを見る」、「カフェを見る」、「サーカス」、「ダンスホールを見る」、「浅草を見る」(32～34年)など都会の風俗を小型カメラでスナップした写真が話題となり、「新興写真の代表的な作品」と呼ばれた。近代化した



イタリア フィレンチェにて



恋人 フィレンチェ 1956年

生活に目を向けることを提唱した美術史家の板垣鷹穂の示唆を受けて撮ったのが「御茶の水駅」(33年)で、駅舎の白く輝くコンクリート壁と影のコントラスト、その抽象的、幾何学的な構成で表した写真が建築写真の代表例として扱われた。

戦後、渡辺は戦中の軍や情報局と関係の深かったことを反省して、母校の東京写真専門学校の教職を断り、また社会的に影響のある仕事にもつかず、しばらくは静観していた。(['アサヒカメラ』50年5月号)。そんなこともあって戦後の復帰は50年頃からと遅かった。折り目正しい律義さが信頼感を生み、公的な要職を長らく務めることになる。

本誌では「伊勢」「仏像建築」関係の作品はすでに定評があるので、56年に撮影した「イタリアの旅」からの作品を掲載することにした。はじめて見るイタリア人の享乐的、官能的な暮らしぶりに驚いた様子が感じられ、カメラの眼も新鮮な驚きを詩情豊かに表現している。

なお、この度の寄贈はご子息の一雄氏が急逝され、継承者が姉の中島ちえ子さんに移り実現したもので、伊勢神宮、宮殿、奈良六大寺大観など膨大な写真原板が、作品とともに保存センターが管理することになった。

菊池俊吉 (1916～1990)

1916年岩手県花巻市に生まれた菊池は、オリエンタ

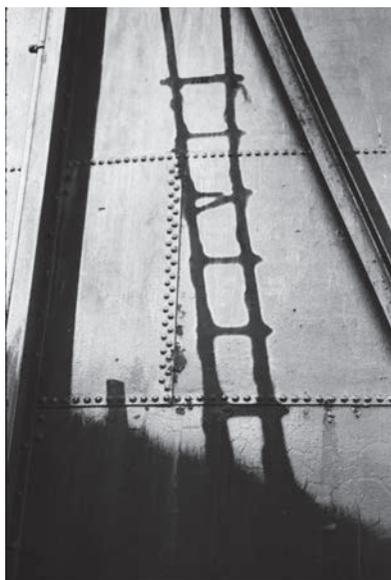


被爆した少女 1945年

ル写真学校を卒業後、東京光芸社を経て、41年外伝機関の東方社に入社。デザイン、印刷技術の粋を集めて制作された豪華なグラフィック誌『FRONT』の撮影に従事。竹槍訓練、銀座の空襲など戦時下の日本を撮影。敗戦後改組した文化社で、45年原爆災害学術調査団の医学班に同行して広島を訪れ、被爆者の医療現場や被災した家並みなど科学的資料となる写真を数多く撮影している。

進駐軍向けの写真集『東京1945年・秋』(1946年)や広島県観光協会の依頼による『LIVING HIROSHIMA』(1949年)の撮影をする。さらに、空襲で焦土と化した東京で栄養失調となった戦災孤児たちや、闇市に群がる民衆、銀座四丁目の服部時計店に生まれた進駐軍兵士用のPXの賑わい。戦勝国と負けた国の落差をとらえる。荒廃から復興への歩みを始めた日本の新世紀の一断面が写し出されている。鈴なりの都電に米国産の乗用車と物量の差は歴然と目にする。敗戦直後のニッポンを事実を誇張することなくあるがままに素直にとらえたドキュメントである。記録に徹した眼は的確である。

保存センターには「知っていますかーヒロシマ・ナガサキの原子爆弾」展で使用した、被爆者の医療現場を捉えた一連の白黒フィルム14本(433コマ)を収集している。



原爆で焼きついた影 1945年



『Maybe maybe』より 1971年

稲越功一 (1941～2009)

1941年岐阜県高山市で生まれた稲越功一は、武蔵野美術大学を中退後、61年モス・アドバタイジング社でデザイナーとして活動を始める。70年フリーとなり、イエローを設立。歌手の沢田研二、矢沢永吉から女優の浅野ゆう子、沢口靖子、大谷直子など、歌舞伎役者、文士、音楽家、芸能人、スポーツ選手などと多彩な人物写真を手がけ、写真集に仕立てる。

さらに世界を旅して、異色の都市空間、印象を映像化した写真とエッセイを組み合わせた作品群がある。

フリーになって間もなくに出版した処女作『Maybe.maybe』(71年)は、ニューヨークの街角でスナップしたもので、その画像は広告写真のようであったり、コンボラ写真のようであったりと、イメージの交錯する不思議な映像空間が話題となった。また87年の『記憶都市』は東京近郊のなにげない光景を静的、シリアスな眼差して捉えた虚無的空間が描き出されている。89年の『PARIS 1989』はパリを旅する人の目で、パリの街々の石畳やセーヌの水面、天使の彫像といった誰もが目にしてきた光景を映像化したもので、ここにもデザイナーの感覚的な表現が見られる。収集したフィルムは5,363本と多い。



『記憶都市』より 1987年

写真家のための「映画の著作権」の考察

北村行夫（弁護士）

デジタルカメラやスマートフォンにある「動画」撮影機能を使うと、簡単に「動画」を撮れるようになり、写真家であっても「動画」を撮る機会が増えています。

いわゆる「動画」の著作権とはどのようなものか？ その著作物は著作権法ではどのようなものになるのか？ 写真の著作権との違い、写真を「動画」にするとどうなるのか？ などについて、当協会の顧問弁護士である北村行夫氏に法律家の見解と契約での注意すべき点などをお尋ねしました。（著作権委員会）

第1：一台のカメラによる静止画写真と映像（動画写真）の撮影

1 動画撮影できるスチルカメラの出現

レンズとデジタル技術の進化により、最近ではスチルカメラは静止画像を撮るだけでなく、動画を撮影することも可能になった。

その結果、写真家は、静止画の世界で鍛え上げたアングル、採光、シャッターチャンスなどの作品創作力を動画に応用する可能性を手に入れたと言える。今後、映画の撮影に関する創作方法の拡大に写真家が寄与する度合いが増えていくと予想される。

2 写真と映画の著作権の差異

そのとき写真家は、とすれば「写真の著作権は写真家に帰属する」というこれまでの常識から、カメラの動画撮影機能を用いて映像を撮るとき「映像の権利も当然に写真家に帰属する」と思いがちである。

しかし写真家の撮影した映画の著作物の著作権は、著作権法の法定譲渡の規定によって著作権を失う可能性があることに注意を払う必要がある。というのは、著作権法は、映画の著作物について「映画製作者」（第2条1項10号）という概念を介在させ、著作権が生み出した著作権は、「法定譲渡」（第29条）という規定によって、生まれた映像の著作権はその瞬間に映画製作者に奪われてしまう可能性があるからである。

第2：「映画の著作物」、「映画の著作物の著作者」、「法定譲渡」、「映画製作者」、「参加契約」

1 なじみのなかった概念の介在

この問題を考えるには、「映画の著作物」とは何かをまず明確にする必要がある。

そのうえで、「法定譲渡」とは何であり、「映画製作者」とは何者かを考察する必要がある。

その間に存在する「参加契約」とはどのような契約かを

理解し、そもそも「映画の著作物の著作者」とは誰を指すのかという前提問題も理解しておく必要がある。

2 「映画の著作物」

著作権法は、映画の著作物を定義していない。著作権法第2条3項では、映画というものに関する一般的な観念があることを前提として、「この法律に言う『映画の著作物』には、映画の効果に類似する視覚的または視聴覚的效果を生じさせる方法で表現される著作物を含む。」と定めている。「含む。」である。

この意味を煎じ詰めてゆけば、映画とは動画を意味しているということになる。すなわち、人・物を動きとして記録した表現物である。その典型が映画であり、判例によれば、ゲームの動く画像も映画の効果に類似する視覚的または視聴覚的效果を生じさせる方法で表現される著作物になるとしている。

これに対し、スライドショーは一見動く画像のような印象を持つが、静止画から静止画を連続して見せているにすぎず、静止画の被写体が動くように見える訳ではないから映画の著作物ではない。写真の著作物である。連写した写真においても、静止画の被写体が動くように見える訳ではなく、連続した静止画にすぎないから同様である。

映画は、人や物の動く状態をそのまま動いているように再現するための記録した表現物であり、その映写である。英語でモーションピクチャー、動く画像というのもそのためである。この方が映像とか映画というより意味が取りやすい。

と言っても、映画は人や物の切れ目ない動きを切れ目なく記録したものではない。その記録を構成しているのは、一コマ一コマの静止画像である。それが、人や物の動く状態を動いているように再現できる理由は、人間の網膜神経に残像現象が生じるため、一コマ一コマは静止画像であっても、前のコマの残像によって次のコマとの間が見えなくなるように見えるのである。通常、人や物の動きを1秒間に30コマに細分され

た静止画として記録すれば、その映像を映写したときに滑らかに動いて見えると言われている。このように映画の著作物は網膜神経の錯覚を利用すべく記録された映像作品である。

3 「映画の著作物の著作者」

映画の著作物においても、映画の著作物の創作を行った者が著作者である。

しかし、映画における創作行為とは何を指すのかの判定は、容易ではなかった。というのは、映画が美術や、撮影機材の操作者、出演者の演技力その他の複合的な要素の総合によって構成されているからである。このことを踏まえ、美術などの個々の権利に分解して考えることも可能だが、それではそれらの総合体としての映画の現実に妥当でないという見解が出されてきた。

そこで法は、「映画の著作物は、・・・制作、監督、演出、撮影、美術等を担当してその映画の全体的形成に創作的に寄与した者とする。」としている。「全体的形成」つまり、一個の総合体としての映画全体を形成した者が「映画の著作物の創作者」として扱われる。

なお、上記条文の省略部分には、「翻案され、または複製された小説、脚本、音楽その他の著作物の著作者を除く」となっていて、これらは映画とは別の各著作物の権利の対象となることが示されている。

したがって、どのような被写体を、どのようなアングルで、どの程度用いて、いかにして全体を構成して映像とするのかを考えて、現にそのように形成した者が「映画の著作物の著作者」である。多くの場合、監督と言われているが、ドキュメンタリーなどの場合には、撮影者が瞬時に上記諸要素を判断している場合もあり得るので、その場合には撮影者が当該「映画の著作物の著作者」である。具体的な映画の内容と各自の役割を踏まえて、著作者を確定しなくてはならない。

4 「映画製作者」、「参加契約」、「法定譲渡」

ところが冒頭申し上げたように、映画の著作物の場合、著作者が誰かという点を見ただけで著作権の帰属先を速断できない。

即断できるのは、映画製作者が関与していない場合、言い換えると、写真家自身が自らの発意と責任で撮影した場合に限る。それ以外は慎重な判断が必要になる。

というのは、映画の著作権に関しては、「映画製作者」という権利主体が介在しており、映画の著作者が「映画製作者」との間で「参加契約」を結んでいると、権利譲渡に関する何らの意思表示なしに映画の著作者から映画製作者に著作権が譲渡される（「法定譲渡」）からである。

ここに言う「映画製作者」とは、「映画の著作物の製作に発意と責任を持つ者」と定義されている（第2条1項10号）。そして、ここに言う「発意と責任」とは、一般に

「映画の製作に関して製作に要する費用とリスクを負担している者」と解釈されている。

単なる発注者は、発意した者ではない。現に製作に財政的・内容的に責任を持つことを発意し、実行した者が映画製作者である。

「参加契約」（第29条）とは、参加約束とも言われ、「著作者が映画製作者に対して当該映画著作物の製作に参加することを約束している」ことである。

この映画製作者が映画著作物完成の瞬間に著作者から著作権を持ち去ってしまうのであるから、映画の通常の創作者とされる映画監督からは強い批判のある規定である。が、法律の定めはそうなっている。

諸外国も、いろいろな定め方で映画製作者に著作権を帰属ないし運用させる構成をとっている。

本規定の立法理由は、映画における実情として、映画の著作権行使は製作者に委ねられていたという事実、映画製作における巨額な製作費の投下のリスクはその負担をした者に利益を帰属させるのが妥当であること、総合芸術としての映画の権利を一本化して行使できるようにすべきであること、などと説明されているが、どれも映画製作者の権利を法的に篡奪するに十分な根拠とは思えない。実際には、巨額の投下資本を要しない作品もあり、また作品によって直接に投下資本の回収を想定していないCM作品のようなものもあり（ミュージックビデオも従来は無償であった）、そもそも投下資本リスクに着目すると、結局のところ発注者が映画製作者と見做される結果になるという不都合も少なくない。

この点は、映画監督ともども、写真家が考えてゆくべき問題ではなかるうか。

第3：映画を撮影する業務の法的な注意点

1 参加契約に注意

写真家が参加契約にもとづいて製作に参加すると、法定譲渡の効力を受ける。したがって、この点で慎重でなくてはならない。とりわけ、映画の一コマ一コマは、静止画像ではあるが、映画著作物の一部であるから、その著作権者は映画製作者に帰属することに留意する必要がある。

2 発意と責任の拡大解釈に注意

そもそも発意とは、単に財政的リスクを負うことではなく、内容的なリスクを負うことに関する責任の発意ではあるまいか。どんなに発注者が原作や、脚本家やキャスティングに口出ししても、それが現実の映像としてどのような表現になるかは、映画の全体的易姓に責任を持つ者の意思と能力に掛かることを考え、映画製作者の問題を考えていく必要がある。

ニコン イメージング ジャパン

表現力を大きく革新させる、 新 NIKKOR レンズ登場

「AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8E ED VR」※
2015年10月発売予定
新たに約4段分(CIPA規格準拠)のVR(手振れ補正)機構を搭載し、NIKKOR初のED非球面レンズを採用。極限の画質を追求した高性能大口径標準ズームレンズ

光学性能に徹底的にこだわり、さらに向上した高い解像力と美しく自然でやわらかいボケ味を両立。



プロフェッショナルの要求に応える高い堅牢性と耐久性も備えています。

「AF-S NIKKOR 200-500mm f/5.6E ED VR」※ 発売
高い光学性能とVR機構を搭載。気軽に超望遠撮影が楽しめるズームレンズ

超望遠500mmまでをカバーし、

[NORMAL]モード撮影時、手ブレ補正効果4.5段(CIPA規格準拠)のVR機構を搭載。動体撮影に適したVRモード[SPORT]も搭載しています。また、電磁絞り機構による高速連続撮影時のAEの安定性で、野鳥や飛行機などの決定的な瞬間の美しい描写が可能です。

「AF-S NIKKOR 24mm f/1.8G ED」発売
小型・軽量・高画質を実現した大口径広角単焦点レンズ

広角24mm、開放F値1.8。ナノクリスタルコートやEDレンズを採用しております。

※Eタイプ(電磁絞り)レンズは、カメラによって使用に制限がある場合がございます。詳細は下記にてご確認ください。

【製品に関するお問合せ】

株式会社ニコンイメージングジャパン
ニコンカスタマーサポートセンター ナビダイヤル
0570-02-8000
www.nikon-image.com

サイバークラフィックス

ORIENTAL 黒白バライタ印画紙の 新製品 ニューシーガル VC-FB III Advance 発売

サイバークラフィックス株式会社は、プロフェッショナル用高級黒白バライタ印画紙 ORIENTAL ニューシーガル VC-FB III Advance を発売致しました。これまでのニューシーガル VC-FB IIIの後継版と

なるこの印画紙は、定評のある白地と色調はそのままに最大濃度を更に高める事により、更に豊かな階調表現に貢献します。また、硬調部の感度をアップする事により、大伸ばしの際の作業効率の向上を図っています。但し、覆い焼きや焼き込みといったテクニカルなプリント作業に悪影響を与えない様、軟調部の感度は殆ど変わりありません。6月下旬より、六切、大四切、大全紙のカット紙を発売しておりますが、10月よりロール(108.5cm×20m)も加わり、いよいよフルラインナップ完成です。



フルラインナップ完成です。

これからも、プロフェッショナルフォトグラファーの皆様のご期待に応える黒白製品を供給して参りますので、引き続きご愛顧のほどよろしくお願ひ致します。

サイバークラフィックス株式会社

担当：堀口

〒224-0053

神奈川県横浜市都筑区池辺町 2991-2

TEL:050-5533-3302

FAX:045-938-6702

E-mail:cgc_sails.751039@cybergraphics.co.jp

http://www.cybergraphics.co.jp

キヤノンマーケティング ジャパン

画質が飛躍的に向上した、大口径単焦点レンズ “EF35mm F1.4L II USM” を 10月中旬より発売

青色(短い波長域)の光を大きく屈折させる異常分散特性を備えたBR光学素子を、凹および凸のガラスレンズで挟み合わせたキヤノン独自開発の複合レンズ「BRレンズ」を初めて採用し、大口径レンズに発生しやすい色のにじみ(色収差)を大幅に低減し、撮影画面の中心から周辺まで優れた描写性能を実現。キヤノン独自開発の研削非球面レンズ1枚を含む2枚の非球面レンズおよびUDレンズ1枚を採用しており、絞り開放時においても画面の中心部から周辺部まで高画質を実現しています。

加えて、特に広角に入射する光に対して優れた反射防止効果を持つキヤノン独自の特殊コーティング「SWC(Subwavelength Structure Coating)」を施しており、フレアやゴーストを抑えた高画質とレンズ鏡筒内部のメカ構造の見直しにより、高耐久性・耐振動衝撃性を実現しています。



キヤノンマーケティングジャパン株式会社

■商品に関するお問い合わせ先 キヤノンお客様相談センター

TEL:050-555-90004

canon.jp/ef

フレームマン

フレームマン、ギンザ、サロンは、写真愛好家の皆様へ、スペシャルプライス企画をご用意しております。

◇ミニギャラリー：作品15点まで
¥30,000(税込)

◇ギャラリーII：作品30点まで ¥150,000(税込)
開催期間は1週間。作品は半切 or A-3。額装費・レンタルフレーム費・会場費・展示撤去作業費、そして消費税まで全てを含んでおります。

審査や制約はございません。先着順にて、大好評受付中です。

会員の皆様はもちろんのこと、ご指導されている写真教室の生徒の皆様や、写真を始めて間もない方、個展にグループ展に、ぜひご活用下さい。

写真愛好家の皆様が集まる場所、賑やかで活気の有る元気が出るスポットとして、フレームマン、ギンザ、サロンは皆様を心よりお待ちしております。



株式会社フレームマン

フレームマン、ギンザ、サロン事務局

担当：筒井(つづい)三田(また)

連絡先：〒104-0061

東京都中央区銀座5-1 銀座ファイブ2F

TEL&FAX：03-357-41036(7時～)

Mail：ginzasalon@frameman.co.jp

http://www.frameman.co.jp

東京工芸大学

「2015 フォックス・タルボット賞写真展」
10月11日(日)~10月25日(日)
「東京工芸大学出身の若手作家作品展
40X40」
11月9日(月)~12月22日(火)

フォックス・タルボット賞は、写真表現を目指す若い人々の奨励と新しい写真家への登竜門としての機能を果たすことを目的に、1979年東京工芸大学短期大学部(当時)が設立した、在学生および卒業生を対象とした写真賞です。

本賞の名称は、イギリスのフォックス・タルボット美術館の協力を得て、ネガ・ポジ法の発明者で近代写真術の父と讃えられるウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボットの名を冠しています。審査委員に田沼武能、細江英公、立木義浩、中谷吉隆、小林紀晴を迎え、入選した作品は写大ギャラリーに正式に収蔵されます。

写大ギャラリーでは10月25日(日)まで、2015年フォックス・タルボット賞受賞作品展を開催致しております。審査員の確かな目で選ばれた新しい写真表現を是非ご覧下さい。

その後、11月9日(月)からは、現在写真家として活躍する本学出身の若手作家による作品展を開催致し



ます。こちらにもどうぞお立ち寄り下さい。(10:00～20:00 開館会期中無休・入場無料)

東京工芸大学 写大ギャラリー
担当：吉野・堀田

〒164-8678

東京都中野区本町2-4-7 芸術情報館2F

TEL: 03-3372-1321 (代)

FAX: 03-5388-7996

http://www.t.kougei.ac.jp/arts/shadai/

堀内カラー

2015 堀内カラーフォトコンテスト作品募集
プリント割引キャンペーン開催



昨年度金賞 堀内カラー賞「初春久保田 稔」

今年で第7回を迎える堀内カラーフォトコンテストにて作品を募集しています。「金賞 堀内カラー賞」は、賞金10万円とHCLフォトギャラリー新宿御苑と名古屋での個展開催権を呈呈、応募期間中は弊社ネット注文と各店頭注文で四ツ切・A4プリント割引キャンペーンが開催されており、応募以外でもご利用いただけます。

【応募要項】

- テーマ：〈ノンジャンルの部〉 〈ネイチャーの部〉
- 応募締切：平成27年11月30日(月) 当日消印有効
- 応募資格：アマチュア写真愛好家

●応募作品：サイズ/A4、四ツ切、ワイド四ツ切、カラー・モノクロプリント(銀塩、インクジェット)、単写真のみ・複数応募可

●審査員：沼田早苗氏

※応募資格がアマチュア写真家になっていますので、会員皆様方の生徒の方々にお勧めいただけますようお願いいたします。

※詳細は <http://www.horiuchi-color.co.jp>

※応募・問合せ先：(株)堀内カラー

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-6-14 フォトコンテスト係

TEL:03-3295-1083 FAX:03-3295-1200

※堀内カラー各店頭でも応募受付いたします。

マンフロット

新賛助会員：マンフロット

マンフロットはイタリア人フォトジャーナリストのLino Manfrotto が自分用のスタジオ機材を製作したのが始まりで、その後、軽量で革新的な三脚とスタンドが人気となり、現在ではバッグ、LED、レフなど、さまざまな撮影アクセサリを扱うブランドに成長しました。

ベネチアとミラノの中間、バッサノー・デル・グラッパ、創業の地に今も本社を置いています。その名の通り、蒸留酒グラッパが特産品の人口4万人の小さな町でデザイン・開発を行っています。



傘下にGitzo、Lastolite、Avenger、National geographic Bags、Genus、Kataを持ち、Vinten、Sachtler等の大型動画機材も扱うVitecグループの一員でもあります。

プロの方におなじみのオートボールやスーパークランプは、初期のマンフロット製品で、シンプルで機能的なデザインが評価されMoMAコレクションに収蔵されるほど。40年以上前にデザインされたものですが、現在もスタジオの定番でベストセラーです。

機能とデザインを重視した製品開発は、今も変わりありませんが、カメラに合わせて進化も続けています。お馴染みの三脚も新しいモデルは、より軽量で便利になっていますので、一度お試しください。

9月にオープンしたアウトレットショップには掘り出し物がたくさん、ぜひチェックして下さい。

http://www.jps.gr.jp/sanjoyo_tell/manfrotto/
マンフロット株式会社

<http://www.manfrotto.jp/>

〒105-0011

東京都港区芝公園3-1-18 芝公園3丁目ビル1F

電話: 03-5404-6871(代表)

FAX: 03-5404-6870

email: info@manfrotto.jp

担当者: 山縣ゆう子

プロフォト

新賛助会員：プロフォト
Profoto Japan Tour 2015 を開催します。



写真の鍵を握る「光」を最高の形でフォトグラファーに提供することを使命とするプロフォト。ライティングの魅力と最新のノウハウを発信するセミナー・製品展示複合型ツアーイベント「Profoto Japan Tour」を開催します。2015年は、9月29日・30日に仙台、10月4日・5日に小樽、10月21日・22日に京都、11月4日・5日に門司港、11月20日・21日に名古屋、12月3日・4日に東京と、全六都市で実施します。豊富なライティングアクセサリの効果を実演・解説する「ベーシックライティングセミナー」、スタジオ運営の秘訣や写真のクオリティの鍵を握る光の性質について解説する「アドバンスセミナー」、B2 250 Air TTL を駆使した「ロケーション撮影ワークショップ」と、充実の内容を各地でお届けいたします。最新のライティング機材をご体感いただける Profoto 製品展示に加えて、協賛のカメラ・カメラ周辺機器メーカー様による製品展示とPRセッションも必見です。詳細は特設サイト profoto.com/ja/japan-tour-2015 をご確認の上、奮ってご参加ください。

プロフォト株式会社

担当：マーケティング・コミュニケーション部

平井真理子

連絡先：〒104-0043

東京都中央区湊1-1-12 HSB 鐵砲洲 3階

TEL: 03-3206-1861

FAX: 03-3206-1864

Mail: info@profoto.jp

<http://profoto.com/ja>

(各社からお送りいただいた原稿をそのまま掲載しました。構成/出版広報委員・伏見行介)

写真の楽しさ、面白さを伝える

— 協力：富士フイルム(株) —

平成 17(2005)年より、レンズ付きフィルムカメラによる小学生を対象とした「写真学習プログラム」を、富士フイルム(株)の協力によって、毎年小学校 50 クラスで実施している。

デジタルカメラは勿論のこと、携帯電話の普及によって手軽に写真が撮れ、インターネットでの情報提供のツールとして写真が活用されているのが現状である。写真の原点ともいえるフィルムによる写真撮影が大幅に減少するなか、あえてフィルムを使つての「写真学習プログラム」は、単に写ったという喜びだけでなく、児童だからこそ必要とされている「事物の観察、物事を注意深く見る、凝視することの大切さ」を写真を通じて会得し体験してもらうことに意義を見だしている。このことは写真という優れた記録媒体を使つての「記録・表現することの意味」を理解し、家庭や社会で広く写真を活用してもらおうとの願いがある。

「写真学習プログラム」は、協会の写真教育事業として 10 年間に延べ 526 人の会員による指導で、19,522 人の児童に、「写真学習プログラム」の授業を実施して、「写真への興味を喚起すること」を体験してもらっている。

また、多くの方々にこの児童たちの作品を見ていただこうと、「写真学習プログラム」参加児童の作品を特別企画「PHOTO IS」小学生の眼」として、富士フイルム(株)・富士フイルムイメージングシステムズ(株)が主催する「PHOTO IS」想いをつなぐ。30,000 人の写真展」で展示している。写真愛好家や一般客からは、展示された小学生の作品を観て、素直で力強い感性だと驚きの声が寄せられていた。



【2014 年 4 月～2015 年 3 月実施分】

No.	実施校	県名	No.	実施校	県名
1	福山市立藤江小学校	広島県	26	東条町立東栄小学校	愛知県
2	福山市立金江小学校	広島県	27	川崎市立宮崎小学校 1 組	神奈川県
3	神山町立神領小学校 4 年生	徳島県	28	川崎市立宮崎小学校 2 組	神奈川県
4	神山町立神領小学校 5、6 年生	徳島県	29	川崎市立宮崎小学校 3 組	神奈川県
5	杉並区立久我山小学校 1 組	東京都	30	川崎市立宮崎小学校 4 組	神奈川県
6	杉並区立久我山小学校 2 組	東京都	31	川崎市立宮崎小学校 5 組	神奈川県
7	常陸大宮市立大宮北小学校	茨城県	32	大和町立鶴巣小学校	宮城県
8	和光鶴川小学校	東京都	33	日野市立日野第二小学校 1 組	東京都
9	世田谷区立桜丘小学校	東京都	34	日野市立日野第二小学校 2 組	東京都
10	西宮市立名塩小学校 A 組	兵庫県	35	日野市立日野第二小学校 3 組	東京都
11	西宮市立名塩小学校 B 組	兵庫県	36	多摩市立東落合小学校 1 組	東京都
12	西宮市立名塩小学校 C 組	兵庫県	37	多摩市立東落合小学校 2 組	東京都
13	都城市立高城小学校	宮崎県	38	桜井市立初瀬小学校	奈良県
14	都城市立有水小学校	宮崎県	39	江戸川区立小岩小学校	東京都
15	鶴居村立鶴居小学校	北海道	40	江戸川区立小岩小学校	東京都
16	多賀城市立天真小学校 1 組	宮城県	41	横手市立福地小学校	秋田県
17	多賀城市立天真小学校 2 組	宮城県	42	南房総市立千倉小学校 1 組	千葉県
18	鳥取市立日進小学校 1 組	鳥取県	43	南房総市立千倉小学校 2 組	千葉県
19	鳥取市立日進小学校 2 組	鳥取県	44	南房総市立千倉小学校 3 組	千葉県
20	網走市立西が丘小学校	北海道	45	大洲市立粟津小学校 5 年生	愛媛県
21	豊橋市立松山小学校い組	愛知県	46	大洲市立粟津小学校 6 年生	愛媛県
22	豊橋市立松山小学校ろ組	愛知県	47	みやま市立山川南部小学校	福岡県
23	遠野市立土淵小学校	岩手県	48	みやま市立山川南部小学校	福岡県
24	丹波市立中央小学校 4 年生	兵庫県	49	中央区立有馬小学校	東京都
25	丹波市立中央小学校 6 年生	兵庫県	50	中央区立有馬小学校	東京都



【平成 26 年度実施校児童の作品から】



福山市立金江小学校生の作品



神山町立神領小学校生の作品



西宮市立名塩小学校生の作品



都城市立高城小学校生の作品



鶴居村立鶴居小学校生の作品



多賀城市立天真小学校生の作品



鳥取市立日進小学校生の作品



網走市立西が丘小学校生の作品



豊橋市立松山小学校生の作品



遠野市立土淵小学校生の作品



丹波市立中央小学校生の作品



川崎市立宮崎小学校生の作品



日野市立日野第二小学校生の作品



南房総市立千倉小学校生の作品



大洲市立粟津小学校生の作品

平成 27 年度「報道写真論」講座報告

共催：専修大学、公益社団法人日本写真家協会

平成 23 年度から始まった専修大学文学部人文・ジャーナリズム学科での「報道写真論」の講義に、27 年度は清水哲朗、石川文洋の両氏に講師をお願いした。

専修大学のジャーナリズム学科開設趣旨は、学生たちの真実を見抜く目を育て、批評力と行動力を養うことを目的とし、メディアの第一線で活躍する写真家や実務者に実作と体験談をもとに、いまメディアの現場で、何が起きているかを理解してもらうことを方針としている。この講座には 23 年度は桑原史成氏、24 年度は長倉洋海、英伸三各氏、25 年度は宮嶋茂樹、樋口健二各氏、26 年度は大石芳野、山本皓一各氏を派遣し講義を行っていただいた。27 年度の講義内容のレポートを報告する。教室は川崎市多摩区東三田 2-1-1 の専修大学生田キャンパス。

●清水哲朗

平成 27 年 4 月 7 日～ 5 月 26 日(7 回)

講義を始める前は、大学で“ジャーナリズム”という専門分野を学ぶのであれば、さぞかし社会に対して熱くギラギラとしたものを持ち、時には論破をしかけてくるかなと身構えていた。しかし多いときで 100 名を超す受講生の中で将来ジャーナリストになりたいという人は片手で足りるほどで意外なほどに物静かだった。過去に講師を務めていたのがバリバリのドキュメンタリー分野の諸先輩方だったので拍子抜け感はどうにも拭えず。(おかげで、日ごろジャーナリストとして活動をしていない後ろめたさと大学で学んだ経験のない自分が講義を引き受けてしまったことへの不安は払拭されたのだが)

講義は事前に提出したシラバス(講義概要)に沿って行った。初回は「フリーランスで活動する」をテーマにライフワークで 18 年間撮影しているモンゴル作品を取材の裏話と共に披露。状況ムービーも上映し、反応は上々だった。また、カラーとモノクロによる表現や印象の違いなども説明。もっと技術を教えて欲しいという要望もあった。第 2 回は「取材って何?」。前半は自主取材と依頼取材の違い、取材のノウハウ、インタビューのコツなどを文字化して教え、後半は自身が取材したノモンハン事件現場の現況と所有しているソビエト軍が撮影した当時の貴重な写真、祖父の戦地での写真などを見せた。第 3 回は「写真のチカラ、文字のチカラ」。写真のみで見た場合、キャプションと写真を同時に見た場合、キャプションを見た後に写真を見た場合によって印象がどのように変化するかを実感してもらった。第 4 回は「写真集から学ぶ、あれこれ」。国内外の若手作家から過去の名作まで 30 名超の作品を解説つきで上映。写真表現の奥深さと現場に潜入する写真家の行動力に学生の好奇心はかきたてられっぱなしだった。第 5 回は「記録の重要性」。前半はモンゴルを撮り続

けている理由、写真家から見たピューリッツァー賞受賞作「ハゲワシと少女」についてと死生観描写についての持論を述べ、後半は震災前から撮り続けている石巻の作品とスライドムービーを上映。



キャンパスで講義中の清水哲朗さん

第 6 回は「引き際を考える」。夢や目標のある学生たちにあえて年齢ごとにぶつかる壁や諸問題、ゴールから逆算する活動、取材の引き際について語った。過去は変えられないが未来は変えられるプロフィール作りや将来設計を具体的に伝えた。第 7 回は「まとめ」。講義の補足を少しだけ行い、残り時間で課題写真「日常」を提出した 91 名分の写真を上映してそれぞれ講評。予期せぬ展開にどよめきが起り、自分の写真が他人に見られ評価される意味を身をもって経験させた。大反響だった。毎回講義スライド作成に多くの時間を費やしたが、学生たちの反応もよく、写真の可能性を大きく知ってもらえたので写真家冥利に尽きる機会だった。

●石川文洋

平成 27 年 6 月 2 日～7 月 21 日(6 回)

専修大学で 6 回の講義をしました。学生たちを前にして私も若返ったような気持ちになりました。良い体験を得る機会を下さった専修大学、日本写真家協会に深く感謝致します。

以前に調べた 1853 年のクリミア戦争から日本のアジア・太平洋戦争までの戦争写真報道についても触れようと考えていましたが 6 回の講義では時間が不足なので「私が見た戦争」について現場で撮影した写真を見て頂きながら話すことにしました。

若い人たちに戦争の実態を知ってもらいたい。沖縄の言葉「命(ぬち)どう宝(命こそ宝)を強く訴えたいという気持ちを講義の基本としました。

第 1 回講義。ジャーナリストが最前線で長期にわたって自由に取材が出来たベトナム戦争。

①今年 4 月、戦争終結 40 周年の様子。式典パレード。今なお生まれる枯葉剤被害児。「虎の檻」刑務島のあったコソン島の現在。石川の写真が常設展示されている戦争博物館。

②何故、ベトナム戦争を撮影するようになったか。

③南ベトナム政府軍の作戦。

④何故、ベトナム戦争が起こったか。

第 2 回講義。

①米軍の作戦。

②戦火の中の民衆。

③戦場の村の少女との再会。

④戦場のジャーナリスト。

第 3 回講義。

①沖縄の歴史と文化。

②サイパン・テニアンでの慰霊祭に同行。沖縄戦集団自決生存者たち。

第 4 回講義。

①何故、カンボジア内戦が起こったか。

② 1970 年、カンボジア・クーデターと内戦、米軍カンボジア侵攻作戦、ベトナム人虐殺現場。

③ 1979 年、カンボジア大虐殺現場、無人のプロンペン。

④ 1980 年、9 年ぶりのアンコールワット訪問。現在のカンボジア。

第 5 回講義。

①ボスニア・ヘルツェゴビナ。バルカン半島戦争の歴史。

② 1994 年 2 月 5 日、バルカン戦争史に残るサラエボ市場死傷者 263 人の事件直後。サラエボ戦時下の民衆の生活。

③廃墟となったソマリアの首都モガデシオと難民キャンプ。アフガニスタン。難民キャンプ、再開された学校、地雷撤去、地雷・不発弾の負傷者、多国籍軍、様々な人々。

第 6 回講義。補充・沖縄、ベトナム戦争と沖縄、本土復帰、米軍基地、オスプレイと辺野古。ベトナム、枯葉剤の被害児。学生の質問に答えて。報道写真の意義、リアルタイムで状況を伝え歴史の記録として後世に伝える。中東で犠牲になった山本美香、後藤健二の取材活動を支持評価する、ほか。

(写真提供／専修大学、構成／小池良幸)



沖縄の新聞を手に講義する石川文洋さん

清水 哲朗(しみず・てつろう)

1975 年横浜市生まれ。日本写真芸術専門学校卒業後、写真家竹内敏信事務所で 3 年間アシスタントを務め、23 歳でフリーランスとして独立。ライフワークとしているモンゴルでは独自の視点で自然風景からスナップ、ドキュメントまで幅広く撮影。2005 年「路上少年」で第 1 回名取洋之助写真賞受賞。2012 年夏 15 年間のモンゴル取材をまとめた写真集『CHANGE』を現地で上梓。本年 12 月には新刊写真集『New Type』を出版予定。2014 年日本写真協会賞新人賞受賞。公益社団法人日本写真家協会会員 www.tokyokarasu.net

石川 文洋(いしかわ・ぶんよう)

1938 年那覇市生まれ。東京の定時制高校を卒業後に就職した毎日映画社をやめて香港へ。65 年から 4 年間、ベトナムに滞在し帰国後、朝日新聞出版局のカメラマン。84 年からフリーの報道写真家として沖縄やボスニアなど世界各地の紛争地を撮影、取材している。『写真記録ベトナム戦争』『戦場カメラマン』『報道カメラマン』『私が見た戦争』など著書多数。写真展に『戦争と兵士と民衆』(1970 年)『北朝鮮』(1984 年)『戦争と平和 ベトナムの 50 年』(2014 年)他。82 年・83 年に日本雑誌写真記者協会賞、05 年にはベトナム政府より文化通信事業功労賞を受賞する。

今さら聞けない ”記録メディア”についてのアレコレ

デジタルカメラの撮影に欠かせないのが記録メディア。しかし、その使い方が正しいかどうか、自信のない人も多いに違いない。そこで今回は、フラッシュメモリーメーカーのサンディスクにわかりやすく解説してもらったお話の中からピックアップして紹介しよう。詳しい内容は、近日中に JPS のホームページで公開の予定。

■ 知っておきたいさまざまな表示の意味

記録メディアを選ぶ基準は、容量、価格、信頼性などいくつかが挙げられますが、データを書き込む速度や読み出す速度は、非常に重要なポイントです。記録メディアの書き込み速度が遅いと、せっかくのカメラの性能を活かせないだけでなく、撮影もはかどりません。ストレスを抱えながらの撮影では、いい仕事ができないということにもなりかねません。

最近のデジタルカメラで多く使用されている記録メディアと言えば、SD メモリーカードと CF カード（コンパクトフラッシュ）ですが、機器の互換性や転送速度などの規格が、それぞれ規定されています。

SD メモリーカードの規格は、SD アソシエーション (<https://www.sdcard.org/>) によって定められています。ただし、SD アソシエーションが決める速度は、最低限の書き込み速度としてのスピードクラスで、最大速度は各 SD メーカーが独自に定めています。

スピードクラスとは、動画をスムーズに撮影するために設定された最低保証速度で、Class 2、4、6、10 で表示され、カメラによって参照すべきスピードクラスが異なります。UHS スピードクラス 1 および 3 は、UHS 対応のカメラを使う際に参照すべきスピードクラスです(表 1)。

さらに、大容量のデータ転送が求められるようになってきたことからより高速なデータ転送を可能とする新しいバスインターフェースも規定されています。(表 2)

スピードクラスの表示(表 1)

	マーク	連続データ書き込みにおける最低保証速度	動作する SD バスモード	対应用途
UHS スピードクラス		30MB/s	UHS-II UHS-I	4K 2K ビデオ録画
		10MB/s		フル HD ビデオ 動作 HD 静止画 連続録画
スピードクラス		10MB/s	High Speed	HD ~ フルHD ビデオ 録画
		6MB/s		
		4 MB/s	Normal Speed	SD ビデオ 録画
	2MB/s			

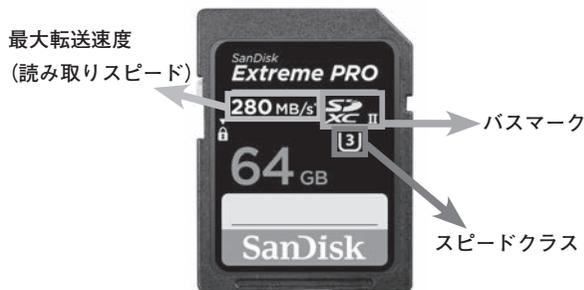
これらの表示の意味を知ってメディアを選ぶことが、カメラの性能を十分に引き出すことにもつながります。

一方、CF カードの規格は、コンパクトフラッシュアソシエーション (<http://www.compactflash.org/>) が定めています。ちなみに XQD カード、後述する CFast カードの規格について定めているのもコンパクトフラッシュアソシエーションです。

コンパクトフラッシュは、1994 年にサンディスクによって開発され、サンディスクの登録商標になっています。歴史の長い CF カードには、SD カードのような、容量の規格は存在せず、対応する容量は接続機器によって違ってきます。

最近のデジタルカメラでは、データの書き込みを CPU ではなく DMA が担うことで、書き込み速度の高速化を実現する UDMA (Ultra Direct Memory Access) が主流となっています。既存の CF カードと基本的な構造は同じで

SD メモリーカード

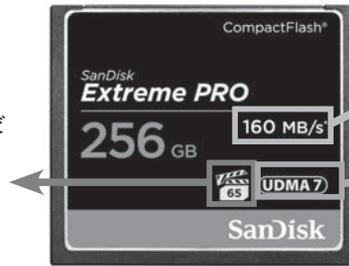


バスインターフェースの表示(表 2)

バスインターフェース	カードタイプ	バスマーク	バススピード	仕様バージョン
UHS-II	SDHC および SDXC		156MB/s 312MB/s	4.00
UHS-I	SDHC および SDXC		50MB/s (SDR50) DDR50 104MB/s (SDR104)	3.01
High speed	SD, SDHC および SDXC	---	25MB/s	2.00
Normal speed	SD, SDHC および SDXC	---	12.5MB/s	1.01

CFカード(コンパクトフラッシュ)

VGA
最低転送速度の規格。主に業務用のビデオカメラでの利用が必要となる。



最大転送速度
(読み取りスピード)

UDMA 対応マーク
対応する速度規格の表記

UDMAの表示と速度(表3)

モード	最高転送速度	モード	最高転送速度
UDMA0	16.7MB/s	UDMA4	66.7MB/s
UDMA1	25.0MB/s	UDMA5	100MB/s
UDMA2	33.3MB/s	UDMA6	133MB/s
UDMA3	44.4MB/s	UDMA7	167MB/s

すが、データの転送ルールや信号のタイミングが改良され、より高速のデータ転送が可能になりました。また、UDMAからCRC照合によるデータ化けのチェックを行っているため、データの信頼性という点でも向上しています。

UDMAは高速DMA転送の規格で、表3で示すようにバススピードが定義されています。転送レートが速ければ速いほど、カメラの連写性能も向上するという事です。

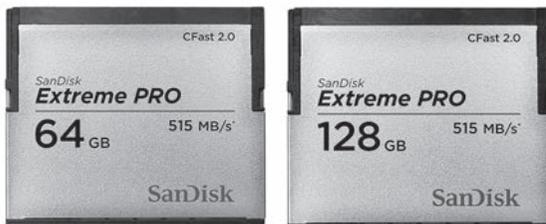
■ 高速化のための新規格 CFast2.0

次世代のメモリーカードの規格として登場したのが、CFast2.0です。従来のCFカードに比べて、2倍以上の転送速度となっていることから、高速・大容量データの転送に適しています。バススピードは最大600MB/秒(6Gbps)を実現。プロによる動画撮影の高い要求にも応えられるものとなっています。

カードの形状はCFカードとほぼ同じですが、接点の構造がCFast2.0ではSATA3のインターフェースを採用しています。CFカードにあったピンを排除しているため、カードの信頼性と耐久性が向上しています。

ただし、CFカードとはスロットの互換性がないため、

CFast



サンディスク エクストリーム プロ CFast2.0 カード。最大転送速度は515MB/sで容量64GB、128GBがラインアップされている。

従来のカメラで使えるものではありません。また、CFastが将来的に動画撮影で主流となっていくかどうかは、採用するカメラメーカーがどのくらいあるかということにかかってきます。今後のカメラメーカーの対応に期待することにしましょう。

■ 記録メディアを賢く使いこなすポイント

SDメモリーカード、CFカードといったフラッシュメモリータイプの記録メディアは、一生モノというわけではありません。フラッシュメモリーのセル(素子)は、データの読み書きの回数が決まっているのです。SDメモリーカードでは、コントローラーが特定のセルだけを使わないように制御をしています。

データが読み出せなくなることを心配して、あえて容量の少ない記録メディアを使っている人を見かけますが、セルごとで見ると、大容量の記録メディアの方が書き込み回数が少なくすむわけですから、結果として記録メディアとしての寿命も長くなります。容量いっぱいまで使い切らないことも、記録メディアを長く使う秘訣になります。

また、記録メディアの大敵は不安定な電流供給です。書き込みや読み出しの途中で電源が落ちると、データが壊れるだけでなくコントローラーも破損してしまう可能性があります。そうなると、データの取り出しもできなくなってしまいます。バッテリー駆動のパソコンでデータの読み書きを行う場合などは注意しましょう。

さらに、カメラのバッテリーが少なくなった状態での撮影は、電流が不安定になることもあります。こうした状態も記録メディアにとってはよくありません。普段から記録メディアやバッテリーの予備を十分に用意して撮影に臨むことが、記録メディアを上手に使いこなすことにもなるのです。

いずれにしろ記録メディアは消耗品であるということを前提にして、不具合を感じたらすぐに買い換えるといった使い方がベスト。サンディスクの記録メディアは永久保証で、購入した際の領収書と保証書があれば交換してもらうことができるというのもお忘れなく。

(記/出版広報委員:柴田 誠)

* 並行輸入品につきましては、永久保証いかんにかかわらず一切の保証はされません。(サンディスク広報)

2015 年 第 11 回「名取洋之助写真賞」決まる

公益社団法人日本写真家協会が新進写真家の発掘と活動を奨励するために、主としてドキュメンタリー分野で活躍している 35 歳までの写真家を対象とした 2015 年第 11 回「名取洋之助写真賞」の選考審査会を、8 月 31 日（月）JCII 会議室で、飯沢耕太郎（写真評論家）、広河隆一（フォトジャーナリスト）、田沼武能（写真家）の 3 氏によって行いました。

応募者はプロ写真家から大学在学中の学生までの 16 名 16 作品。男性 13 人女性 3 人。カラー 10 作品、モノクロ 3 作品、混合 3 作品でした。

選考は 1 組 30 枚の組写真のため審査会場の制約もあり受け順に 8 作品ずつ 2 回に分けて行い、第一次審査で 7 作品を選び、最終協議の結果、下記に決定しました。

○一次審査通過者

増田 貴大	「終わりの気配」	志村 賢一	「Export works」
児玉 和也	「風の吹く場所」	鳥飼 祥恵	「amputee boy -けんちゃん-」
片岡 和志	「命の記憶」	松岡 正明	「物質の記憶とゆらぎ」
高橋 健太郎	「HIROSHIMA2015」		

○最終審査通過者

鳥飼 祥恵	「amputee boy -けんちゃん-」
増田 貴大	「終わりの気配」



選考風景(平成27年8月31日 JCII会議室 撮影・小城崇史)

■ 2015 年第 11 回「名取洋之助写真賞」受賞



鳥飼祥恵（とりかい さちえ）1982 年 富山県出身。32 歳。

2010 年 都内の写真学校を卒業。

2012 年 フリーランスとして活動開始。2014 年 JCII 主催水谷塾 修了。東京都在住。

受賞作品 「amputee boy -けんちゃん-」(カラー 30 枚)

作品について 上肢、下肢の切断障害を持った選手がプレーするアンブティサッカーの撮影で出会った少年賢ちゃんに魅了された作者は、身体障害者の子どもにレンズを向けることに迷いを抱きつつ、保護者に連絡をとる。撮影の快諾を受け、賢ちゃんの所属するチームに足を運ぶ。そこでまわりの大人たちの賢ちゃんを気遣うおせっかいで明るい姿を見た。昔の日本には当たり前のようにあった懐かしい人間関係をとらえた作品。

受賞者のことば 「賢は強運の持ち主なんです」。けんちゃんのお母様に初めてお会いした時、こんな言葉をもらいました。事故で片足を失った子が強運だと明言され、正直戸惑いました。しかし、今はその意味が明確に理解できます。きっと今回の受賞も彼の強運にあやかっただのだと思います。けんちゃんはもちろん、ご家族、そして、アウボラーダ川崎の皆さんにこの賞を捧げます。「けんちゃん」が「けん君」そして「石井賢」となる日が今から楽しみです。

■ 2015 年第 11 回「名取洋之助写真賞奨励賞」受賞



増田貴大（ますだ たかひろ）1980 年 大阪府生まれ。35 歳。

2000 年 (20 歳) より写真を始める。

2003 年 宝塚造形芸術大学(現：宝塚大学)美術学科 洋画コース卒業。

2004 年 グループ展 第 2 回「モノクロ倶楽部」(千スペース/大阪)。

2005 年 MIO 写真奨励賞審査員特別賞受賞(選考：平木収先生)。大阪府在住。

受賞作品 「終わりの気配」(カラー 30 枚)

作品について 山陽新幹線(新大阪～広島)の車内から、沿線に暮らす人々を撮影した作品。カメラによって切り取った人々の一瞬から「死の臭い」を感じた作者。肉眼では捉える事の出来なかった死の気配を、写真という技術によって可視化の域に近づける可能性に気づき、作者は写真術を得た意義を強く感じたという。

受賞者のことば 本当に嬉しいです。今迄針の筵に包まれて写真を撮っていました。身内からはイイ歳して何やってんだと溜息はつかれるし、世間からは「この人、毎日電車の窓に張りついている」と白い目でみられるし、全身がチクチク痛かったです。でも今回賞に選んで頂いたお陰で、ようやく針の筵から解放されました。自分のおいている事に引け目を感じなくなりました。これからは気持ち良く撮影ができます。それが何よりも嬉しいです。

2015年第11回「名取洋之助写真賞」総評

田沼武能(写真家・公益社団法人日本写真家協会前会長)

今年の名取洋之助写真賞に応募された中で一番輝いていたのは鳥飼祥恵さんの「amputee boy - けんちゃん-」であった。けんちゃんは交通事故で左足を失った。そのハンディにもめげず明るく懸命に生きるけなげな姿が捉えられている。作者はスポーツ写真の教室に通い学んだという。サッカースポーツに専念する彼のクラッチ(杖)を使い全身で躍動する光景を捉えているが、それ以上に彼の心理を、人間けんちゃんの生きる姿に心が惹かれる。母親や妹たちとの絆、アンプティサッカー協会のインストラクターの熱心な指導にも感動を呼ぶ、心温まるヒューマンなフォトストーリーである。画面の展開も女性的な繊細さがありながら、力強さも盛り込まれており、名取洋之助写真賞にふさわしい作品である。



奨励賞、増田貴大さんの「終わりの気配」は、新幹線の車窓から見える社会、漠然と見る沿線にもこれだけの人間ドラマが繰り広げられている。そんな発見を感じる作品である。しかし、作者はそこに「終わりの気配」「死の臭い」を感じるというが、いささかコメントには難があるように思う。

日本写真家協会は若いフォトジャーナリストの育成を願い名取洋之助写真賞を創設した。時代を記録し伝え、残すためには大切な役割を担う写真のジャンルである。若い写真家の登場を切に望みます。

飯沢耕太郎(写真評論家)

初めて賞の選考に参加させていただいて、ドキュメンタリー写真の現在のあり方について、いろいろ考えさせられた。東日本大震災を経て、新たな方法論の模索が始まっているが、まだ地に足がついたものにはなっていない。その過渡期の状況が、今回の応募作品にもよくあらわれていて、迷いや踏み込みの甘さが目立つものが多かったのは残念だった。



その中で、審査員全員が高く評価したのが、名取洋之助写真賞を受賞した鳥飼祥恵さんの「amputee boy -

けんちゃん-」である。障害のあるサッカー少年を丹念に取材した作品だが、しっかりとコミュニケーションをとりつつ彼や周囲の人たちにカメラを向けていることがよくわかる。人間関係が希薄になりつつある今、一人の男の子の成長をポジティブな眼差しで見守っている「ちょっとおせっかいな大人たち」の姿が、いきいきと浮かび上がってくる。

別な意味で面白かったのが、名取洋之助写真賞奨励賞を受賞した増田貴大さんの「終わりの気配」である。山陽新幹線の車窓から沿線の光景を写しとめたものだが、ロバート・F・ケネディの「葬送列車」を見送る人々を撮影したポール・フスコの名作「RFK funeral train」(1968)を思い出した。たしかに、生と死とが交錯する現代日本の断面図が見えてくる。

広河隆一(フォトジャーナリスト)

今回の応募作品の審査は、私にとってかなり苦しい作業だった。半分見終わった時に、私が賞に推したい作品は見当たらなかった。だから鳥飼祥恵さんの作品「amputee boy - けんちゃん-」を見た時、私は安堵した。交通事故で片足を切断した男の子がサッカーに打ち込む姿と、周りの人々が彼を支える様子が見事に写し込まれていた。名取洋之助賞に値する作品、これから応援し続けていきたい作家がとうとう見つかったと思った。「応募してくれてありがとう」というのが正直な気持ちだった。



日本写真家協会の会員は、あらゆるジャンルの写真分野にかかわる。写真の多様性と可能性は大きな魅力だ。増田貴大さんの「終わりの気配」のテクニックには舌を巻くし、表現力は非常に優れている。しかし名取洋之助賞というからには、フォトジャーナリズムの特集部門が対象ということになると私は考えている。これが名取洋之助賞でなく、芸術を含むすべての部門の写真を対象とした日本写真家協会賞のようなものなら文句なしで入選かもしれない。

日本はカメラ大国であるのに、フォトジャーナリストの層が非常に薄い。日本写真家協会には、若きフォトジャーナリストを育てる根本的な取り組みを期待したい。

「名取洋之助写真賞」について

公益社団法人日本写真家協会(JPS)は、社会に貢献する事業として「JPS展」や「日本写真家協会賞」の表彰並びに顕彰を行っています。2005年からは「名取洋之助写真賞」を創設しました。

名取氏は、1950年の協会設立初期から写真企画展への助言。更に、写真著作権の重要性を進言されるなど、さまざまな面で協力を戴いています。没後、名取洋之助に関わった日本工房、サンニュース、岩波写真文庫の創設に関してわが国のフォトジャーナリズムの発展に大きく貢献されたことを顕彰し、主として若いフォトジャーナリストの育成に役立つことを望み、この写真賞を創設しました。

●名取洋之助(1910～62年) ドイツに留学していた名取洋之助は23歳の若さで、1930年代ヨーロッパで勃興していたフォト・ルポルタージュをわが国に導入し、木村伊兵衛らと33年「日本工房」を興す。その後、土門拳、藤本四八、亀倉雄策らと「NIPPON」を創刊し、フォト・ジャーナリズムを確立する。戦後は47年に『週刊サン・ニュース』を創刊。50年に『岩波写真文庫』を創るなど、写真家であると同時にすぐれた企画、編集者でもありました。

■ 2015年 第11回名取洋之助写真賞

鳥飼祥恵 「amputee boy —けんちゃん—」 (カラー 30点)



■ 2015年 第11回名取洋之助写真賞 奨励賞

増田貴大 「終わりの気配」 (カラー 30点)





おめでとうございます

—— このたびは受賞おめでとうございます。1959（昭和34）年の会社設立以来、写真の表現形態については絶えず変化しただけでなく、デジタル化の流れは御社の業務にも多大な影響を与えていると思いますが、激動の時代をどのように生き抜いてこれたのでしょうか。

堀内：印刷会社とのご縁で弊社を設立してから、早いもので半世紀が経ちました。印刷のカラー化と軌を一にするように写真のカラー化も進み、弊社はフィルム現像やカラープリントなどのサービスを提供することで、プロ写真家の皆様と共に歩んできましたが、写真のデジタル化が急激に進行した結果、事業内容も変わりつつあります。と、申しましてもやはり基盤となるのは写真です。現在は従来から続く現像・プリントといった写真サービス事業に加え、フォトアート、プライダルアルバム制作、タレントプロマイド制作、デジタルアーカイブ、ビジュアルコンテンツ制作、ディスプレイ制作と全部で7つの事業を展開しております。大学図書館や博物館などを中心としたデジタルアーカイブ事業は、貴重な資料をアーカイブ（保存）するお手伝いをしますが、以前は8×10フィルムで撮影していたものが大型スキャナーを使って作業するようになりました。ビジュアルコンテンツの制作事業も、3Dの作成や画像処理といった領域に広がってきています。

—— 作品を作者から託される形での制作業（プリント）は、作者の意図を反映させるまでの打合せなどが大変だと想像します。作者と御社の技術者間のコミュニケーションについて、会社として心がけていることがありましたら教えてください。

堀内：良いプリントは、作家の意図とプリントを仕上げる制作スタッフの共同作業という意識がないと成立しません。そのためには弊社の営業スタッフと作家のコミュニケーションが欠かせません。弊社はプロラボとして、写真展制作のお手伝いを長く続けてきました。経験の積み重ねと、多くの写真展を観て各々の目を高めることで、作家とのコミュニケーションに役立てるよう心がけております。営業スタッフが実作業に携わるわけではありませんが、常に最新のプリント技術についての知識を持つことで、良いご提案ができるのではと考えております。

—— 御社は、ラムダプリントをはじめとする超大型のカ

ラープリント技術を導入することにより写真表現の可能性を拡大し、写真文化の発展に大きく寄与されています。他の追随を許さないこの技術について、開発の経緯や今後の展望などを教えてください。

堀内：プリント制作は弊社全ての事業の核となる部分です。ラムダは写真の大判出力ソリューションとして高い評価をいただいております。レーザー光線で露光する明室タイプの出力機ですが、データ自体はデジタルデータを入力しており、導入してから今年で16年になります。色のデータを数値で管理するCMS（カラーマネジメントシステム）を採用することにより、品質・出力の安定を実現することができま

した。競争の激しい中「写真品質」にこだわる高品質な分野、例えば高級化粧品や交通広告の分野などでも多く使われています。これからも品質にこだわった制作を続けていきたいですね。

—— 時代の流れと共に、御社にとっての顧客も様々な変化があったことと思います。御社から見た「変化」は、どのようなものだったのでしょうか。

堀内：世の中全てがフィルムからデジタルにシフトしていく中で、弊社も新たな事業の立ち上げなどによりお客様が個人（プロ写真家）だけではなく法人（企業）のお客様が増えました。しかし会社のDNAとして基盤にあるのはやはり「写真」です。いい写真を残していきたい、そのためのお手伝いをという気持ちに変わりはありません。

—— 当会（JPS）はプロ写真家の団体ですが、当協会に対し、写真作品の最終媒体となるプリント制作を行う立場からの要望およびメッセージをいただけますか。

堀内：荣誉ある協会賞を頂戴し大変感謝しております。フォトアート事業に携わる人間にとどまらず、会社として写真文化に対する貢献をご評価いただき光栄に思っています。写真の最終媒体となるプリントの品質向上に努めてきましたので、これからも協会の皆様と写真文化の貢献に役割を果たしていけたらと思います。このたびの受賞を励みに、これからも精進していきたいと思っております。

—— ありがとうございます。

（取材：平成27年9月11日 堀内カラー本部にて
聞き手／常務理事・加藤雅昭／出版広報委員・小城崇史
撮影・構成：小城崇史）

第41回日本写真家協会賞 株式会社 堀内カラー



堀内 洋司 さん

（株式会社堀内カラー 取締役社長）

JPS 2015 年新入会員展

『私の仕事』

東京

アイテムフォトギャラリー「シリウス」
2015年
7月16日（木）～7月22日（水）

大阪

富士フィルムフォトサロン大阪
2015年
8月14日（金）～8月20日（木）



むすめと！
ソラリーマン（赤澤父娘）
青山 裕企



ホーチミンの夜
今井 孝弘



物は囁き、
そして僕は口を閉ざす
岩瀬 修一



夏休みのお手伝い
岩永 豊



踊る喜び
上田 進一



あれから4年・気仙沼
太田 真三



三度の津波を生きた老女
～自宅東側～
小倉雄一郎



なみだ
おちあいまちこ



晴れの日
金城 泰哲



国境の島に生きる
～ツシマヤマネコ～
川口 誠



熱気に包まれて
北井 考博



KSP
木村 哲夫



秋 雨
久保田秀典



野で育つ
小西 貴士



R
小宮 広嗣



水面花
阪本 康裕



ヤンパルエス村の農夫
佐々木 伸



失われた時の記憶 大川小学校
佐瀬 雅行



春がいっぱい

佐藤 健治



Ferrari FF

篠原 晃一



捕食の瞬間

鈴木あやの



Finding "Nemos"

田井 基文



エンペラ族の親子

高木サダ子



夜明け

高砂 淳二



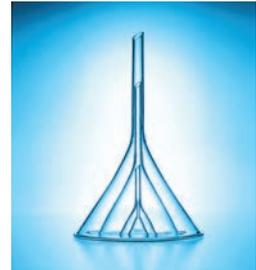
東京 神保町駅界隈

竹屋 謙市



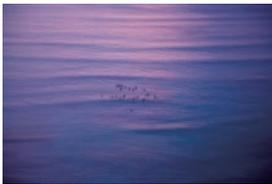
Wild-scape - 発影 -

辻 博希



june blue

寺師 太郎



NALU #73

富田 泰東



招福楼～進肴

二村 海



やきそば

根岸 亮輔



石巻市

野田 知明



stolen moments #5

早坂 元興



荒廃と緊張

日野 文彦



測ってみよう!

守本 智樹

展示作品各自2点から編集部でセレクトした1点を50首順に掲載しました。
(構成: 小池良幸)

JPS2015 新入会員展実行委員会:
青山裕企 (委員長)、木村哲夫 (副委員長)、今井孝弘、岩瀬修一、高砂淳二、
竹屋謙市



オープニングパーティーで挨拶する熊切会長 (撮影: 今井孝弘)



恒例の三本締めで挨拶する木村名誉会員と新旧会長 (撮影: 今井孝弘)



7月16日 東京展オープニングパーティー (撮影: 今井孝弘)



大阪・富士フィルムフォトサロン大阪展示会場 (撮影: 植村耕司)

昨今、著作権事情あれこれ

～電子出版権以降の写真をめぐる著作権環境について～

瀬尾太一（日本写真著作権協会常務理事）

足掛け5年にわたる大変な論争と、いろいろな思惑を超えて、2015年の1月1日から電子出版権が施行されました。これまでの写真をめぐる著作権環境においても、非常に大きな変化と言えるでしょう。その施行からはや10ヵ月が過ぎました。ここで現在の状況、問題点、そしてそれが写真家にとってどのような意味を持っていくのか、写真家の未来に思いを馳せつつ、つれづれと書いてみたいと思います。

まず、現在、最も大きなテーマとしては「教育のデジタル化」が挙げられます。生徒一人一人にタブレット端末を配るとか、電子教材による授業が実験的に行われるなど、毎日のように話題は尽きません。しかし、このような流れの中で、とても大事な要素が遅れている現状があります。それは機械が進歩しても、教材はどうするのか、という問題です。これまでの紙の教材をただ電子化すればよいのかというと、それでは電子化された特徴を本当に活かすことは思われません。つまり、ハードの進歩に対して、ソフトがあまり進んでいるとは言えない現状があるのです。この電子教材を検討するにあたって、やはり問題とされたのは著作権です。いつものように、著作権があるからソフトがたち遅れる、という意見がみられました。これは権利制限をして無償、無許諾で利用できるようにするべきではないか、という意見です。

ここで考えることは、写真を始めとする著作物の利用について、例えば社会的に有益な目的だからと言って、創作で生計を立てているものがある以上、無償はよくないのではないかと、ということです。かといって、いちいちすべてに許諾を必須とすることが困難な現実もあります。この件についての対応を考えた時に、教育利用のみならず、何とかこの両方が並立できる方法を考えなければいけないと思いました。利用についての配慮は行いつつ、すべて無償化する方向性に歯止めをかけたいきたいという願いがあります。

著作権譲渡という不平等契約

次は、以前からの問題なのですが、不平等な契約についてです。これは電子出版権の設定によって、より厳しさを増してきているのですが、著作権譲渡を前提とする契約を強要されることが多くなってきているという問題です。特に、取材などにおいて、その場でデータの受け渡しを行い、すべてのデータを提出することによって、まったく撮影者に写真が残らないケースなど、深刻な状況も見受けられます。

写真家は自分の著作権を保持していることで、生涯の職業として成立している側面があります。他の分野の表現とは異なり、写真は時間の経過によって価値が

落ちるわけではなく、逆に上がってゆく場合も多くみられます。しかし、それも撮影の時に、すべては奪われてしまうとしたら、たぶん写真家という職業は成立しなくなってしまうのではないのでしょうか。また、著作権保護のどのような運動も、著作権を保持していなければ、そもそも関係なくなってしまう。

この問題については、個人で対応しようとするとは仕事を失いかねませんので、団体において、それも個別の事柄としてではなく、地道に取り組んでいかなければならない問題だと考えています。

商習慣のアメリカ化

3点目の話題は、著作権のみではありませんが、ビジネスのアメリカ化とも言える現状についての問題です。これは、契約に基づき、すべてを裁判で決めていくような商習慣が日本にも入ってきている、ということです。具体的には著作権法において、細やかに決められている各事項を、アメリカのフェアユース規定のように、大まかなものに置き換え、実際には個別に裁判で決めてゆこう、という風潮です。IT技術の進歩が大変早く、社会環境が瞬時に代わってゆく現代において、このような方法をすべて否定することはできません。ただ、裁判の制度や賠償金の金額、そして何よりも裁判をすること自体が浸透していない日本においては、特に個人にとって厳しい環境になってゆくと思われれます。この問題はTPPに関連して、今後、さらに大きな課題となってゆくでしょう。

このような問題点をまとめていて、ふと気がついたことがあります。それはこれらの問題が、すべてIT社会の進展と定着、それに伴うアメリカ型商習慣の波を受けての問題点とくることができそうだと、ということです。同時に、今の日本にとって、それをまったく受け入れるだけでよいのか、については疑問があります。

写真家は、写真を通して現実を見つめてゆく職業です。日本には独自の商習慣、風土、歴史、文化があり、それをまったく無視したところでは、現実的な社会の変化を成し遂げられないということ、私たちは体感的に知っています。今、写真業界が著作権に関して直面している問題点にしても、もう一度足元を見つめ直して、日本的な解決方法を探らなければならない時期に来ているのではないのでしょうか。単純に1か0、YesかNoではなく、もっとグラデーションのある解決方法です。これからは受身の取り組みではなく、積極的に解決策を提案してゆくことで、種々の著作権問題も解決の方向に向かうと思われれます。

写真家が一步先に進むべき時代が到来したのかも知れませんね。

2015JPS 展 報 告

写真展事業担当理事 熊谷 正

第40回JPS展は東京展6月11日～26日、名古屋展7月15日～20日、関西展8月25日～30日の会期で予定通り開催しました。

応募状況は、一般部門1,925名6,586枚、18歳以下部門131名275枚、ヤングアイ参加校17校、会員作品部門50名150枚でした。これらの数字は例年より若干減少しましたが、18歳以下部門の応募は若干増加という状況です。応募作品内容は、多彩なジャンルにわたり、表現の多様性がうかがえますが、デジタルでの加工修正作品が目立つようになり、ストレート写真と相まって審査の大変さを実感しています。特にストレートな風景写真の過剰な画像修正、加工による作品や安易な作品作りの傾向が見受けられます。またインクジェットプリンター出力によるプリント紙の選び方やプリント設定に多くの課題があるように感じます。

上位入賞者は、文部科学大臣賞が和歌山県在住の大浦美保さん「時を経て」3枚組、東京都知事賞は大阪府在住の西川靖弘さん「駆けける少女」単写真、18歳以下部門最優秀賞は広島県在住の金本凜太朗さん「humans and」です。多くのすぐれた入選作品が選ばれ、総展示枚数657枚の写真がJPS展を盛り上げてくれました。

会員作品部門は「プロの眼」と題して会員50名の3枚組写真を額装して展示、入選作品との差別化を図りました。ヤングアイは各校ごとの一枚のパネルに共同作品として展示しました。地方展の展示は会場の都合で一部変更がありましたが、東京展に準じての展示にしました。

東京展の表彰式と講演会は、6月13日に東京都美術館講堂にて開催しました。今回は会場の客席数が多かったため、同伴された受賞者の関係者、ご家族が会場内での高覧となりホッとしています。

表彰式後の講演会「編集長に聞く～コンテスト応募指南」は『フォトコン』編集長の藤森邦晃さんと熊切圭介会長の対談を行いました。JPS展に応募される方の関心が



表彰式(6.13 東京都美術館講堂、撮影・天神木健一郎)

高かったようで、大勢の方に聴講していただきました。

名古屋展の表彰式(東海地区入選者紹介)と講演会は、7月18日に愛知芸術文化センター12階にて開催しました。表彰式は山口勝廣専務理事の出席で、上位入賞者の紹介と入賞作品の講評を行いました。星景写真家木村芳文さんによる講演会、JPS会員によるイベント「デジタル一眼カメラで撮る『家族写真』」など盛りだくさんとなりました。

関西展の表彰式(関西地区入選者紹介)と講演会は、8月28日に京都市国際交流会館で開催しました。表彰式は熊切会長が出席され、上位入賞者の紹介と入賞作品の講評を行いました。JPS会員の中田昭氏による講演会「『京都』四季のうつろい」は好評でした。会期初日のイベント「浴衣で写真教室」は台風の接近で参加者が少なかったのですが、(株)ニコン・(株)ニコンイメージングジャパンより貸し出されたデジタル一眼カメラで浴衣を着た女性たちが思い思いのポートレートを撮り合い、エプソン販売(株)からお貸りしたインクジェットプリンターで出力した素敵な写真が出来上がりました。そのプリントを会場の一角に展示し、好評でした。

JPS展は、年間を通じての作業となります。一貫した安定的な運営が望ましいので、前任の作り上げたフォーマットを受け継ぎながら、さらに充実した運営をしていきたいと思えます。



東京展講演会(撮影・天神木健一郎)



東京展展示会場にて(撮影・天神木健一郎)



東京展展示会場(撮影・小松好雄)

第40回2015JPS展の報告

作品受付:2014年12月15日(月)~2015年1月2日(火)
 作品審査:2月7日(土)
 審査員:田沼武能(審査員長)、安珠、中村征夫、林義勝、
 藤森邦晃(『フォトコン』編集長)
 後援:文化庁ほか
 総展示数:657枚(公募:280名490枚、会員:50名150枚、
 ヤングアイ:17校17点)
 総入場者数:6,291名
 入場料(各展共通):一般700円(団体割引560円)、学生
 400円(団体割引320円)、高校生以下無料、65歳
 以上400円(関西展、名古屋展は65歳以上無料)
 ※団体割引は20名以上
 応募総数:2,056名 6,586枚
 一般部門:1,925名 6,586枚
 18歳以下部門:131名 275枚

入賞・入選者総数:280名490枚
 一般部門:246名 433枚(文部科学大臣賞1名、東京
 都知事賞1名、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、奨励賞
 5名、優秀賞25名、入選208名)
 18歳以下部門:34名 57枚(最優秀賞1名、優秀賞9
 名、入選24名)

入賞者氏名:
 文部科学大臣賞 大浦美保 時を経て 3枚組 カラー
 東京都知事賞 西川靖弘 駆ける少女 単 カラー
 金賞 菅原秀明 田舎にて 3枚組 カラー
 銀賞 杉本英夫 新たな門出 3枚組 カラー
 銀賞 大倉清司 地球を感じて 単 カラー
 銅賞 佐藤 豊 記憶の滲出 3枚組 カラー
 銅賞 浅野和夫 にらめっこ 単 カラー
 銅賞 上田智子 Smile 単 カラー
 (奨励賞以下略)

18歳以下部門
 最優秀賞 金本凜太郎 humans and 3枚組 カラー
 (20歳以下部門優秀賞以下略)
 会員作品:「プロの眼」 50名(3枚組写真) 150枚

イベントコーナー:「ヤングアイ」参加校 17校
 公益社団法人日本写真家協会会長賞:九州産業大学 芸術学
 部写真映像学科「風染みて」幸喜ひかり、比嘉緩奈
 ヤングアイ奨励賞:宝塚大学 造形芸術学部制作力創造学科
 「刹那の向こうがわ」桑田紗季、松本真依
 参加校:
 専門学校 札幌ビジュアルアーツ 写真学科、筑波大学 芸術専
 門学群、現代写真研究所、東京工芸大学 芸術学部 写真学科、
 学校法人 専門学校 東京ビジュアルアーツ 写真学科、学校法
 人 専門学校 東洋美術学校 クリエイティブデザイン学科、
 学校法人 専門学校 日本写真芸術専門学校、日本大学 芸術学部
 写真学科、学校法人 写真学園 東京総合写真専門学校 写真芸
 術第二学科、学校法人 専門学校 名古屋ビジュアルアーツ 写
 真学科、名古屋芸術大学 メディア造形学部 映像メディア
 学科、学校法人 日本写真映像専門学校、学校法人 ビジュ
 アルアーツ専門学校 大阪 写真学科、大阪芸術大学 写真学科、
 宝塚大学 造形芸術学部 制作力創造学科、九州造形短期大学
 造形芸術学科 写真専攻、九州産業大学 芸術学部 写真映像学
 科

【東京展】
 後援:文化庁、東京都、東京都写真美術館
 会場:東京都美術館 ギャラリーB・C



名古屋展示会場(撮影・高島誠次)

会期:6月11日(木)~6月26日(金)9:30~17:30(最
 終入館は閉館の30分前)、6月15日(月)休館
 表彰式・講演会:6月13日(土)東京都美術館 ロビー階講
 堂 13:00~14:30 表彰式、15:00~16:30 講演
 会「編集長に聞く~コンテスト応募指南~」講師:
 藤森邦晃(『フォトコン』編集長)、熊切圭介(日本
 写真家協会会長) 参加者数:約200名
 祝賀パーティー:6月13日(土)17:00~19:00 東京都美
 術館2階レストラン「MUSEUM TERRACE」
 フロアレクチャー:期間中随時
 協力(会場モニター提供):EIZO 株式会社、パナソニック
 株式会社
 入場者数:3,067名

【名古屋展】
 後援:文化庁、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名
 古屋市教育委員会
 会場:愛知県美術館 ギャラリーE・F室
 会期:7月15日(水)~7月20日(月・祝)10:00~
 18:00(最終入館は閉館の30分前)、金20:00閉館、
 最終日17:00閉館
 表彰式・講演会:7月18日(土)愛知芸術文化センター12
 階アートスペースA室、13:00~13:50 東海地区
 入選者紹介、14:00~15:30 講演会「新しい星景
 撮影手法」講師:木村芳文(山岳・星景写真家)
 参加者数:約150名

イベント:7月18日(土)愛知芸術文化センター12階ア
 ートスペースE・F室、10:00~12:00「デジ
 タル一眼カメラで撮る『家族写真』」講師:JPS展
 名古屋展委員 参加者数:6組16名
 入場者数:1,490名

【関西展】
 後援:文化庁、京都府、京都府教育委員会、京都市、京
 都市教育委員会
 会場:京都市美術館別館
 会期:8月25日(火)~8月30日(日)(最終入館は閉館
 の30分前)
 表彰式・講演会:8月28日(金)京都市国際交流会館イ
 ベントホール、13:00~14:30 関西地区入選者紹介
 とビジュアルパフォーマンス、15:00~16:30 講
 演会「『京都』四季のうつろい」講師:中田昭(JPS
 会員) 参加者数:約170名
 イベント:8月25日(火)「浴衣で写真教室」講師:JPS
 会員参加者数:10名
 協力:エプソン販売株式会社、株式会社ニコン、
 株式会社ニコンイメージングジャパン
 入場者数:1,734名

第40回2015JPS展
 写真展事業担当理事:熊谷 正
 委員長:小松好雄 副委員長:石田研二 委員:荒谷良一、
 今井康夫、斎藤 泉、外崎久雄、西村 満、増田雄彦、森下泰樹、
 山口一彦
 名古屋展実行委員長:森田廣実 副実行委員長:青木孝夫
 委員:加藤智充、五木田友宏、小玉亘宏、鈴木一生、塚本伸
 爾、原田佐登美、松原 豊、村山直章
 関西展実行委員長:永野一晃 副実行委員長:三村博史
 委員:神崎順一、柴田蘭蘭、清水 薫、辻村耕司、中島佳彦、
 西村仁兒、山岡正剛、横島克己



関西展イベント「浴衣で写真教室」(撮影・永野一晃)

第41回 2016 JPS 展案内

写真展事業委員会

2016年の第41回JPS展は、東京都写真美術館の改修工事のため、引き続き上野の東京都美術館にて開催することになります。展示スペースの制約が厳しい状態ですが、出来る限り観やすい展示に努めて行きたいと思っています。

● 会員作品の展示休止について

2015、2016年の2年限定で会場となる上野の東京都美術館では展示スペースの制約があり、展示が窮屈ということ、また、名古屋展では、3年に1度のトリエンナーレ開催と重なり、狭い会場しか借りられない状態です。

2年間のテーマを設定して来た「プロの眼」が終了するのを機に、2016年の会員作品部門は休止します。

2017年の東京都写真美術館での開催時には、改めて検討をする予定です。

● 公募部門

前回に準じます。応募規定は右枠内を参照。

■ イベント等

講演会、セミナー、撮影会を開催予定。

■ 作品集

展示作品を写真集として発刊、販売。

■ メールマガジン

JPS展メールマガジンを配信していますのでご購読ください。下記アドレスから登録できます。

<http://www.jps.gr.jp/jps-ten-magazine/>

* 応募要項配布のお願い *

写真教室などの講師をされている会員の皆様、ぜひ生徒さんへの配布にご協力ください。

また、店舗やギャラリー等で配布していただける方は事務局までお知らせください。



<公募：一般部門、18歳以下部門 応募規定>

● **応募資格**：アマチュア、プロフェッショナル、年齢、性別、国籍を問いません。ただし、JPS会員は除きます。

● **応募部門**：

一般部門 年齢を問いません

18歳以下部門 1997年4月1日以降生まれの方

● **テーマ**：自由

● **応募プリントサイズ**：A4または六つ切8×10インチ(203×254mm)。カラー、モノクロ共プリントのみ。デジタル加工も可。ただしデジタル加工・合成等の欄に印を入れること。著作権は、必ず応募者のものであること。

● **出品点数**：単写真=制限はありません。組写真=5枚までを1組の制限として何組でもかまいません。組写真は、左より順に並ぶように構成して番号を付けてください。ただし、写真と写真は貼り付けないこと。また台紙にも貼らないで応募してください。

● **受付手数料**：

★ **一般部門**：1枚につき2,200円(組写真の場合も1枚2,200円)

★ **18歳以下部門**：1枚につき600円(組写真の場合も1枚600円) 郵便局より下記郵便振替口座へ2016年1月20日(水)までにお振り込みください。

通信欄に応募枚数、ご依頼の郵便番号、住所、氏名、氏名フリガナ、電話番号を必ずご記入下さい。

★ 作品の中に受付手数料を同封することは厳禁とします。応募作品返却希望者は、返却料2,000円を加算してお振込ください。(海外からの応募の場合は返却できません)

郵便振替口座番号 00110-5-651936

口座名 日本写真家協会 JPS 展

● **受付及び締切**：郵送または宅配便に限りです。

(持参は受付いたしません)

2015年12月15日(火)から2016年1月20日(水)まで。

最終日消印有効。

● **審査員**：熊切圭介(審査員長)、宮澤正明、山口規子、

吉村和敏、佐々木広人(『アサヒカメラ』編集長)

(審査員の都合により変更することがあります)

● **審査結果**：2016年3月中旬頃、**応募者全員に文書を送付。**

ホームページ(URL：<http://www.jps.gr.jp>)とメールマガジンでも発表します。(電話でのお答えはいたしません)

● **展示用作品**：入賞・入選作品は、後日指定する期日までに各自にて半切に引伸し、再提出していただきます。なお上位入賞作品については大型サイズになる場合があります。

● **展示及びパネルの製作費**：入賞・入選作品は、当協会特注のパネルにて展示しますので、**一般部門は1枚につき8,400円、18歳以下部門は1枚につき4,200円**を指定の日時までに納入していただきます。納入がない場合は、入賞・入選が取り消しとなります。

● **賞(一般部門)**：

文部科学大臣賞 1名(賞状、楯、賞金50万円、副賞)

東京都知事賞(予定) 1名(賞状、楯、賞金30万円、副賞)

金賞 1名(賞状、楯、賞金15万円、副賞)

銀賞 2名(賞状、楯、賞金10万円、副賞)

銅賞 3名(賞状、楯、賞金5万円、副賞)

奨励賞 5名(賞状、楯、賞金2万円、副賞)

優秀賞 20名程度(賞状、楯、副賞)

入選 200名程度(賞状、記念品)

(18歳以下部門)

最優秀賞 1名(賞状、楯、副賞)

優秀賞 10名程度(賞状、記念品、副賞)

入選 10名程度(賞状)

● **展示会場・会期**

東京都美術館…2016年6月11日～6月26日(予定)

愛知県美術館…2016年7月(予定)

京都市美術館別館…2016年7月(予定)

● **作品集**：第41回2016 J P S 展作品集の刊行を予定。

● **応募先・お問い合わせ**：〒102-0082 東京都千代田区一番町25番地 JCIIビル303 公益社団法人日本写真家協会
第41回2016JPS展 TEL.03-3265-7453 FAX.03-3265-7460

写真解説

神への憧れ (表紙写真) ————— 中西裕人

聖堂は正面の扉のみ鍵を差し込んで外から開けられる構造になっており、両側にある子扉は内部から鉄の心張り棒で固く閉ざされている。聖堂内部の準備が整うと、係の修道士は内部から心張り棒をはずす。

子扉が開くの待つ修道士から、祈りの時を待ち望む神への憧れの心がみえる。

茜の記憶 (表4写真) ————— 江口慎一

これは京都の下鴨神社の糺ノ森で撮影したひとこまで。参道に沿って流れるせせらぎの中で出会った、紅葉の落ち葉のひとつをモチーフにして撮っています。水と光と色が奏でる演出効果に注目し、マクロレンズを使用してクローズアップの絵作りを試みました。落葉のエッジに焦点を合わせ、流れのフォルムとを絡めた構成を図っています。流れの表面に映る艶やかな紅葉の色調に配慮しつつ、そのコクのある彩りと波紋のパターンを画面に織り交ぜながら、瑞々しい秋の季節感やその場の穏やかな空気感の表現を求めました。

華僑の故郷・開平楼閣 ————— 増田彰久

19世紀の中ごろアメリカ西部は大陸横断鉄道の建設に沸いていた。中国広東省の中南部に位置する開平の農民が華僑として北米大陸へ大量に流出した。年に一度、稼いだ大金を持って故郷へ帰ってくると、それ専門の盗賊がいたという。そのため開平の水田地帯に突如、防衛的な性能を備えた望楼タイプの高層楼閣が1800棟も建てられ華僑洋館と呼ばれた。開平の高層楼閣には世界のどこにもお手本がない。その造形は無骨で、素朴で、そして優雅さが混在し、強い存在感に溢れている不思議な近代建築の大切さを伝えたいのである。

テメットの砂丘群 ————— 大塚雅貴

ニジェール共和国北部にあるテメットの砂丘は、高さ200メートルを超す大きさ。下から見上げれば、呑みこまれそうな急斜面が迫り、頂上からは波のようにうねる砂丘が果てしなく続く絶景が見られる。ここには、風によって運ばれた砂が、そそり立つ山にせき止められて巨大な砂丘が生まれる。聞こえるのは、耳元を横切る風の音だけ。夕方のやさしい風は、繊細で規則的な風紋を描き、頂上付近では渦を巻いて斜面を滑る。首都ニアメから4WD車で約3日。尽きることのない砂漠への好奇心が撮影を続ける原動力となっている。

会津の氏神さま ————— 齋藤ジン

写真展「西方白虎」は、明治元年勃発した戊辰戦争の激戦地である会津地方の原風景を撮り下ろした作品。

新政府軍と会津軍との戦いにおいて今なおその息吹が感じられる場所を探し向き合い、さらに会津の風土や、春夏秋冬を織り交ぜた「会津物語」。

写真は、会津地方に残る田園風景。五穀豊穡を願った稲荷神社であり氏神様として田園地帯に祀られている。

私が小さい時には、六本杉、二本杉など周りの杉の木の本数で場所を表していた。杉の木は、豪雪からお稲荷様を守る雪囲いなのだろう。

ヤンバルクイナのペア ————— 湊 和雄

1981年に発見された新種の鳥ヤンバルクイナ。生息地の沖縄本島北部の総称「山原(やんばる)」を全国的に広めるきっかけにもなった。翼が小さく退化し、ほとんど飛ぶことができない。代わりに発達した脚で夜間、樹上に登って休むという変わった習性を持つ。毎週のように通う山原の森では、年間100羽近くのヤンバルクイナに遭遇する。だが、このようなペアに出会うのは年に一度あるか否かの確率でしかない。約7mの距離から500mmの超望遠レンズで狙った。全長約30cm。国指定天然記念物。

ドローンで見た雪氷の壺 ————— 林 明輝

石川県・白山山麓の百四丈滝。標高1700メートルに位置し、滝上部の湧水が一気に90メートルの落差で流れ落ちるため、冬期でも凍らない。しかし、滝つぼの水しぶきによって周囲は同心円状に凍りつき、春先までに、高さ数十メートルにもなる雪氷の壺が形成される。滝の水量が少なかったり、落差が低ければ、冬期には水瀑となってしまう、雪氷の壺は形成されない。「凍らない滝の流れ」と「飛沫によって凍りつく雪氷」との絶妙なバランスの上に成り立つ、世界的にも例がない滝だ。初めてドローンによる空撮を敢行。真上からの俯瞰を試みた。

幸運の町・三閉伊 そして三閉伊 ————— 大島 洋

「三閉伊」とは岩手県の三陸沿岸を中心とする上閉伊郡、下閉伊郡、それに九戸郡をくわえた一帯を指している。江戸末期の弘化と嘉永の時代、この地を中心に三閉伊通り百姓一揆が起こった。私は20代の半ばから30代にかけて、一揆の跡を追ってひたすら歩いた。2011年3月11日の地震と津波は、この沿岸の町や村をまるごと呑みこんだ。もし私に問われているものがあるとしたら、更にこれからの5年、そして10年を「三閉伊」とどのように関わっていくことができるかということなのだと思う。

群衆 ————— 和久六蔵

ある地方空港開港イベントで、招待された人々に真新しい滑走路が開放された。メインイベントの人文字写真撮影時での一枚。集まった人々が割り当てられた場所に立ち、上空の撮影機に向って手を振る様子は地上からは見ようによっては、少し異様な光景でもある。

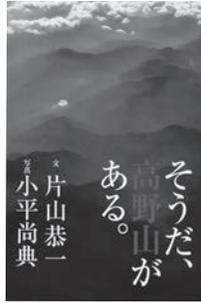
しかしながら、出来上りの写真には点としか写り得ない事を知りつつも家族一緒の日がな楽しい一仕事に、彼等の様子は仕合わせそのものだ。

カズ工婆さん ————— 佐藤秀明

新潟県上越市のひなびた山村で面白い婆さんに出会った。山の畑で育てた豆の出来具合が気に入ったのか、その豆に微笑みかけている所だった。カメラを向けると突き放すように言った。「こんげんな年寄り撮らねえでもっと若い姉ちゃん撮れて」それからしばらくその婆さんの後をくつつくようにして撮らせてもらったのだが、若い時の苦勞がたたったのか体を壊して今年の夏に亡くなられた。ひょいと耕運機の荷台に飛び乗る姿はとてフォトジェニックだった。

JPS ブック レビュー

協会に寄贈された会員の出版物を到着順に掲載致します。
(2015・4月～9月)
①発行所 ②発行年月
③サイズ(タテ×ヨコ)、頁数
④定価 ⑤寄贈者
⑥電子書籍ストア



そうだ、高野山がある。

文・片山恭一
写真・小平尚典

- ①バジリコ ②2015年4月
③21×14cm、215頁 ④1,600円
⑤小平氏



亜細亜ノ夜景

丸々もとお
丸田あつし

- ①河出書房新社 ②2015年4月
③17.8×24.7cm、131頁 ④2,500円
⑤丸田氏



人を引きよせる天才
田中角栄

撮影・山本皓一

- ①笠倉出版社 ②2015年7月
③25.7×18.2cm、143頁
④900円 ⑤山本氏



「糺の森」の四季 光と遊ぶ

序文・新木直人
写真・井上隆雄

- ①賀茂御祖神社 ②2015年4月
③21.7×30.5cm、370頁 ④ -
⑤井上氏



音楽写真家 木之下晃
たいせつな出会い

木之下晃

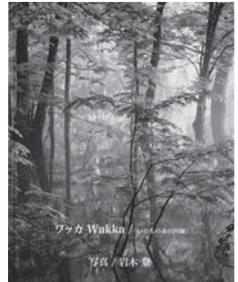
- ①木之下晃アーカイヴス
②2015年4月 ③22×22cm、101頁
④ - ⑤発行所



じいさんとばあさと
田んぼの神様

佐藤秀明

- ①三五館 ②2015年5月
③18.2×22.7cm、95頁
④1,800円 ⑤佐藤氏



ワッカ Wakka/
いのちの水の回廊

岩木 登

- ①岩木登 ②2015年
③30×24cm、80頁
④24,000円 ⑤岩木氏



神々集う出雲の國
神在月

写真・古川 誠

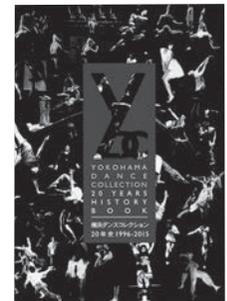
- ①山陰中央新報社 ②2015年4月
③29.7×21cm、111頁
④1,800円 ⑤古川氏



近代建築のアジア
第1巻 中国Ⅰ
第2巻 中国Ⅱ

写真・増田彰久
文・藤森照信

- ①柏書房 ②2013年6月、2014年1月
③25.7×19.7cm、270頁、262頁
④15,000円 ⑤増田氏



横浜ダンスコレクション
20年史 1996-2015

写真・塚田洋一

- ①横浜赤レンガ倉庫1号館
②2015年1月 ③18.2×12.7cm、64頁
④ - ⑤塚田氏



茶毘の夏
和久六蔵

- ①蒼穹舎 ②2015年5月
③24.4×26cm、80頁
④4,000円 ⑤和久氏



京都の花街
—芸妓・舞妓の伝統美—
溝縁ひろし

①光村推古書院 ②2015年6月
③21.2 × 15cm, 303頁
④2,800円 ⑤発行所



[ドローン]写真集
空飛ぶ写真機
林 明輝

①平凡社 ②2015年5月
③30.3 × 23cm, 111頁
④3,800円 ⑤林氏



星の絶景を撮る
田中達也

①玄光社 ②2015年1月
③28 × 21cm, 130頁
④1,800円 ⑤田中氏



増補新版
毒ガスの島
樋口健二

①こぶし書房 ②2015年6月
③21.7 × 15.5cm, 214頁
④2,400円 ⑤樋口氏



第35回 JPS 関西メンバーズ展
「ジャパン！」作品集
関西メンバーズ

①関西メンバーズ ②2015年
③21 × 29.7cm, 110頁
④ - ⑤川畑秀樹氏



世界で一番美しい
海のいきもの図鑑
吉野雄輔

①創元社 ②2015年6月
③21.7 × 30.3cm, 231頁
④3,600円 ⑤発行所



蛍の本
田中達也

①日本写真企画 ②2015年5月
③21.7 × 15.3cm, 112頁
④1,800円 ⑤田中氏



世界のカマキリ観察図鑑
海野和男

①草思社 ②2015年6月
③19.8 × 22cm, 132頁
④2,200円 ⑤発行所



SAHARA 砂と風の大地
大塚雅貴

①山と溪谷社 ②2015年5月
③25.7 × 18.2cm, 96頁
④2,750円 ⑤大塚氏



自然のたまし絵
昆虫の擬態
海野和男

①誠文堂新光社 ②2015年5月
③26.4 × 18.8cm, 152頁
④3,000円 ⑤発行所



島の博物事典
加藤庸二

①成山堂書店 ②2015年6月
③21.6 × 15.3cm, 680頁
④5,000円 ⑤発行所



西方白虎
齋藤ジン

①齋藤ジン ②2015年
③14.8 × 21cm, 28頁
④500円 ⑤齋藤氏



アマゾン 森の貌
高野 潤

①新潮社 ②2015年5月
③18.2×10.3cm、176頁
④1,400円 ⑤高野氏



いそのなかまたち
中村武弘

①ポプラ社 ②2015年6月
③20.8×26.2cm、36頁
④1,200円 ⑤中村氏



**戦争は終わっても
終わらない**
大石芳野

①藤原書店 ②2015年7月
③21.5×19cm、227頁
④3,600円 ⑤発行所



ぎふ地歌舞伎衣裳
撮影・近藤誠宏

①岐阜新聞社 ②2015年8月
③29.7×21cm、123頁
④3,000円 ⑤近藤氏



新大陸が生んだ食物
—トウモロコシ・ジャガイモ・トウガラシ—
高野 潤

①中央公論新社 ②2015年4月
③17.3×11cm、182頁
④1,000円 ⑤高野氏



**シンクロ姉妹猫
うちのとらまる**
太田康介

①辰巳出版 ②2015年8月
③14.8×19.5cm、112頁
④1,200円 ⑤発行所



北の国のシマリス
矢部志朗

①パイ インターナショナル
②2015年4月 ③16×15cm、104頁
④1,300円 ⑤矢部氏



枯葉剤は世代をこえて
亀井正樹

①新日本出版社 ②2015年8月
③20×22.5cm、118頁
④2,400円 ⑤亀井氏



**地平線の彼方から
人と大地のドキュメント**
野町和嘉

①クレヴィス ②2015年6月
③21×15cm、160頁
④1,500円 ⑤発行所



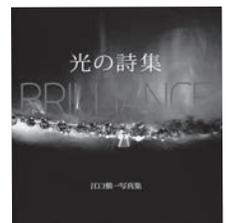
**倉敷
ダニエル・オストの花と心**
ダニエル・オスト
撮影・宮野正喜

①JTBパブリッシング ②2015年7月
③26.7×21.8cm、143頁
④6,500円 ⑤宮野氏



**鉄道でまわる
フランスの旅**
櫻井 寛

①朝日新聞出版 ②2015年7月
③21×14.8cm、112頁
④1,500円 ⑤発行所



**光の詩集
Brilliance**
江口慎一

①日本写真企画 ②2015年7月
③22×21cm、108頁
④1,800円 ⑤江口氏



個性派マクロ表現術
江口慎一

①日本写真企画 ②2015年7月
③28×21cm、96頁
④1,600円 ⑤江口氏



横浜もよう
古澤誠一

①ハマンフォトグラフィ
②2015年8月 ③20×22cm、60頁
④2,000円 ⑤古澤氏



美しき美瑛の光と空
阿部俊一

①Photo Stage ACE
②2015年5月 ③30.3×22.7cm、96頁
④3,500円 ⑤阿部氏



出会いの顔
高木康允

①高木康允 ②2015年5月
③20.7×22.7cm、84頁
④- ⑤高木氏



花別クローズアップ技法
秋冬編
江口慎一

①日本カメラ社 ②2015年8月
③28×21cm、128頁
④1,850円 ⑤江口氏



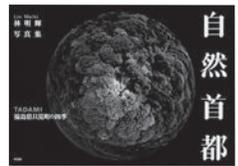
心に残る
「三国志」の言葉
小松健一

①新潮社 ②2015年8月
③18.2×10.5cm、191頁
④1,500円 ⑤発行所



季の彩 光の色
塚本伸爾

①塚本伸爾写真事務所 ②2015年8月
③20×23.6cm、132頁
④2,500円 ⑤塚本氏



自然首都
福島県只見町の四季
林明輝

①平凡社 ②2015年9月
③26.7×37.2cm、127頁
④3,400円 ⑤発行所

寄贈図書

田中達也殿.....星・月・夜空の撮影術
 旅行読売出版社殿.....監修・芳賀日向・行ってみたい撮ってみたい日本の祭り
 Evi Aryati Arbay 殿.....DANI
 JCI フォトサロン殿.....立木義浩・北へー 1986 -
林謙一・昭和16年富士山観測所
松村明作・「Evidence NAGASAKI」・ありふれた長崎 爆心1Km.
編集・松本徳彦、白山真理・
 「知っていますか…ヒロシマ・ナガサキの原子爆弾」被爆から70年
内田九一・皇城と西国・九州巡幸
 東京都写真美術館殿.....WORLD PRESS PHOTO 15
 浦田進殿.....8月6日の朝
 泉美術館殿.....監修・松本徳彦・復興の記憶 ヒロシマを見つめた写真家たち
 遠藤広隆殿.....南部馬の里
 豊里友行殿.....辺野古
 近藤誠宏殿.....加藤麻美、監修・近藤誠宏・奥飛騨に響く 種蔵の里
 キヤノンマーケティングジャパン(株)キヤノンフォトサークル殿
Canon Photo Annual 2015
 クレイビス殿.....編集・多田亞生、他・生誕100年 写真家・濱谷浩
 日本写真文化協会殿.....坂本潤一・貌
第61回全国写真展覧会作品集

全日本写真連盟殿.....第75回国際写真サロン
いつまでも守り続けたい 日本の自然 2015年版
 勉誠出版殿.....決定版 広島原爆写真集、決定版 長崎原爆写真集
 二科会写真部殿.....第63回展二科会写真部作品集
 日本カメラ社殿.....神保君雄・家の日々
 日本写真協会殿.....日本写真年鑑 2015、「東京写真月間 2015」図録
 日本肖像写真家協会殿.....人像 2014
 日本大学芸術学部写真学科殿.....LOCUS 2015
 日本リアリズム写真集団殿.....2015年「視点」第40回展作品集
写真集で見る JRP50年・現研40年
 ぶどうばん社殿.....並木すみ江・逢いたくて、愛されたくて…
 平凡社殿.....白山真理、小原真史・戦争と平和と報道写真が伝えたかった日本
平凡社百年史 1914-2013 本巻【別巻】
 光村推古書院殿.....日本風景写真協会会員・遺したい日本の風景 X 自然と営み
名古屋タイムズ・アーカイブス委員会・昭和の名古屋 昭和20~40年代
松田一郎、松田司郎・イーハトーブ 宮沢賢治の心象を求めて
 リコイメージング(株)ペンタックスリコーファミリークラブ事務局殿
PENTAX RICOH PHOTO ANNUAL 2015-2016
 東川町<写真の町>実行委員会殿.....写真の町 東川賞 コレクションカタログ



Message Board



在籍40年表彰会員による メッセージボード 「創立65周年に想う」

日本写真家協会創立65周年記念表彰

創立65周年(5月12日)を記念して、在籍40年以上の正会員233名と賛助会員56社を多年の在籍と協力に感謝し、平成27年5月22日の総会会場に於いて表彰しました。

今回在籍40年の会員の皆さまより「創立65周年に想う」のメッセージを寄せていただきました。



◆野村英男 (1958年入会)

憧れのJPSに入会させて頂いたあのときの感動、そして会員としての誇りを持ち続けてきました。創立65周年を記念し、在籍40年正会員233名の先輩諸兄を代表し田沼会長より感謝状をお受けいたしましたことは、私にとって更なる誇りであります。

現在はライフワーク「太陽を撮る」の挑戦を通し地球温暖化防止に向け太陽光エネルギーを感じ伝達する作品を提示し提案をいたしています。私は太陽を撮るために生まれてきました。

(東京都港区在住)

◆山崎1郎 (1972年入会)

協会に40年以上在籍という事で感謝状をいただき恐縮。あつという間の40数年は波乱万丈、生涯現役を貫こうと思っている小生には通過点に過ぎず、まだまだ夢あり、実現に向け精進して行く覚悟です。今後も気力・体力維持に努めます。

(北海道札幌市在住)

◆義永庸人 (1971年入会)

戦後70年。あの忌まわしい戦争の爪痕も生々しい昭和25年、本協会が創立した。

世情が混沌としたなかで闇米、闇市が庶民の暮らしを支えていた時代である。そんな物資の乏しいなか、協会設立に奔走した先達には敬意を表したい。しかし、それにしても会員数が増えない。ニュースが届く度、退会者の名を目にするのが心が痛む。せつなく知古を得た仲間たちが一人、また一人と名簿から消えて去

て行く。この現状を何とか打開する必要がある。アンケートなど実施して検証し、退会者の減少に歯止めをかける努力をする必要があるのではないだろうか？敬愛する熊切新会長に期待している。

さて、私事で恐縮ですがeBook『わたしは三女』および『ごきぶりたろうのぼうけん』

Amazon International Services, Inc) を上梓しました。アマゾンホームページでタイトルを入力し検索していただければサイトが表示されます。

(大阪府大阪市在住)

◆若林のぶき (1963年入会)

私はJPS在籍約52年その50年を振り返ってみると、その頃JPSは銀座の本当に狭いビルの1室にあった。しかし会員は事務所によく立ち寄って会員同士でよく仕事の話をしたり色々会の手伝いもした。写真家としても希望を持っていた。私も最初の頃からカメラは4×5判を主に6×6判カメラをサブカメラとして仕事していた。会員の友も同じであった、フィルムホルダにフィルムをセット1枚1枚魂を入れて撮影した。

(神奈川県横浜市在住)

◆平川幸児 (1971年入会)

仕事の関係もあって、写真の本質について考察する昨今である。デジタル化が進み、撮影後の後処理が大切な要件(フィルム写真も同様だが)となっている。写真のジャンルにもよるが、撮影時の状態からどこまで画像に手を加えてもよいのかが問われてくる。そもそも、写真とは何か。画像に手を加えないことが真を伝えることになるのか。否、使用レンズやフレーミング次第でも現実とは異なったものになる。嘘をつくこともできるのである。また、画像処理ソフトを使って邪魔な物を消す・物の一部を移動させるなど日常茶飯事なことだろう。では一体、画像の加工はどこまで許されるのだろうか。写真術は日進月歩。写真の世界も同様、進化は当然の流れであろう。しかし、今写真は、ある意味で絵画化の方へ向っている感もある。写真の始まりは、絵画の影響を色濃く受けていたことを考えると皮肉なものである。

(福岡県福岡市在住)

◆和田州生 (1973年入会)

写真の道に進んで半世紀がたちました。28歳で広告制作会社スタジオニッポンを設立し、クリエイティブディレクター・アートディレクター・写真家と複数の方面から仕事に携わってきました。大手代理店とのコンペで度々勝利を収めスタッフと大いに喜んで日々が懐かしく

思い出されます。苦しいときもありましたが沢山の素晴らしい体験をさせていただきました。写真の世界は奥が深くどこまでいっても満足することはありません。日々勉強の明け暮れです。だから写真は楽しいです。

今、私が写真の道に進むきっかけを作ってくれた鹿児島県最南端の島「与論島」で、新しいプランが進行しています。乞うご期待！若い写真家の皆様の奮闘を祈ります。

(鹿児島県与論町在住)

◆小池 汪 (1974年入会)

私が入会して2年、1974年の会員名簿には日本工房で働いていた土門拳、藤本四八さんの名があり、正会員として活躍していた。この名簿に小柳次一さんも正会員として記載されている。小柳さんは名取洋之助さんから声をかけられて日本工房へ。「おめえ、写真とれんのかよ」土門さんにこう言われたと述懐している小柳さんは8年にわたり日中戦争から太平洋戦争へと戦場を5000キロ駆け抜けた。傷ついた日本兵、戦火に泣く中国の人たちへカメラを向け多くの記録を残している。小柳さんが残した手帳には



「戦死を覚悟」の文字もある。3人の大先輩とともに私の名前も載っているこのJPS会員名簿は私の宝物である。

(神奈川県川崎市在住)

◆安藤清吾 (1969年入会)

47年程前のことです。当時私は音響メーカーの宣伝部に所属するカメラマンでした。前日現像を依頼したポジを持って取引先カメラ店と、ラボの人が来社しました。話は現像処理の手違いからカラーバランスのおかしな仕上がりになってしまった事でした。確認すると印刷原稿には無理な状態でした。即、撮り直しを決めてスタジオと撮影する商品の配送を手配しました。ラボ側は弁済として3箱のエクタクロームを置いてゆきました。現像ミスによる補償は代替え品にておこなう。この時代の不合理ともいえるルールでした。そんな事もあって、カメラマン同士の情報交換や体質改善などの必要性を感じ、「そうだ日本写真家協会へはいろいろ」ということになりました。思えば簡単な動機です。

(千葉県千葉市在住)

◆近藤 晃 (1974 年入会)

時間に追われているといつの間に馬齢を重ね在籍 40 年にもなった。このような機会がなければペンを持つ事ありません。有難く一筆啓上します。過去を振り返る事なく前向きに物事を考え行動している。羽田空港に通い 40 年近くになりましたが、私のモットーですが NO.1 でなくオンリーワンを目指しています。当協会が 65 年を迎えられたのは先輩の方々や賛助会に協会の役員様の様で感謝しております。今後は若い人達の奮起を期待します。

(東京都大田区在住)

◆小山貴和夫 (1973 年入会)

私にとって JPS は学びの場でした。入会直後に技術研究委員会に参加し、故樋口忠男会員、故三堀家義会員など諸先輩からご指導を受けました。お陰様で銀塩モノクロ写真の真髄を極めたのではないかと思います。'91 JPS 展実行委員会で財務副委員長、'92 で財務担当委員、'93 で再度財務副委員長として参加しました。多くの応募作品に接することで鑑賞眼が鍛えられました。『日本現代写真史 1945 ~ 1995』では、年表担当として編纂に参加し戦後写真史を学びました。企画委員の時は『声のライブラリー』を英伸三会員と担当し、恩師長野重一先生を始め先輩諸氏の生き様に接することができました。多くのことを学べたことに感謝しています。

(千葉県松戸市在住)

◆水越 武 (1972 年入会)

私の写真人生の重要な役割を日本写真家協会が果たしてくれた。もし入会していなかったら今より自分の人生が貧しいものになっていただに違いない。会員番号は 902 で、会員になってから 43 年たつ。入会当時は愛知県に居たが、5 名以下の珍しい存在であったと記憶する。それが今では 50 名を超える会員が名古屋を中心に写真活動をしている。これは政治だけでなく経済も文化も東京に一極化することに疑問を持ち抵抗する私としては大変喜ばしいことだ。現在は北海道に住んでいるが、地方の人ほどさまざまな面で地元の作家に冷淡である。それは写真界に限ったことではない。少しでも理解して頂くために、熱い心と勇気を持って忍耐強く努力したい。

(北海道弟子屈町在住)

◆英 伸三 (1964 年入会)

昭和 49 年春から『日本現代写真史』展の編纂及び写真集の編集に参加した。まず昭和 20 年から 45 年までの 25 年間に写真専門誌、各種雑誌、写真集などに発表された写真 30 数万点の中から 3 万点を選び、西武美術館を主会場に都内 7 か所で 1700 余点を展示し、52 年、590 頁の

写真集を平凡社から刊行した。全作業は 3 年半に及んだが、松本徳彦をチームに、今年 1 月に亡くなった木之下晃などと、名作といわれる作品や各ジャンルの写真を見ながら語り合った至福の日々だった。その後の 25 年間の写真を加えた 2 冊目は桑原史成が中心になって完成させたが、私と上記の 3 人は奇しくも共に昭和 11 年生まれである。次の世代の会員にも写真界の記録を残す仕事を期待したい。

(東京都狛江市在住)

◆森永 純 (1966 年入会)

【私の場合】

JPS に在籍していることをベースに、私は 2 本立という生き方になってしまった。一つはプロフェッショナルとしての頼まれ仕事をする。もう一つは「自分の作品」を創ることである。写真家というものは、多かれ少なかれ同じ型のスタイルである。ただ私の場合、いささか異常ではないかと考えている。というのも、昨年の夏、『波』という写真集を私は自分の作品として出版したが、40 年間も、時間がかかってしまった。何故だろう。撮影の対象物の不安定さ、天気のお悪さなど無駄足に終わってしまったことを繰り返していた。根気よく続けるしかないことに気付いたのは 10 年目のころであった。

(東京都渋谷区在住)



◆清水啓二 (1971 年入会)

在籍 40 年余と知らされた時、入会当時の晴れやかな気持を思い出す。職業として写真を撮って行かなければならない自分が自己満足に落ち入らないようにと会員に加えてもらったことは重要だったし、これからも気持を忘れず続くだろう。平凡な写真家として人生が終りに近づいている現在、業界はすっかり様変わりしている。こんないいカメラ、フィルムとよるこんだのは過去のこと。今じゃデジタル、データでのやりとり、おじさんはつらいね。

(東京都新宿区在住)

◆大塚清吾 (1975 年入会)

【四十余年経っても忘れられない言葉】

「大塚君、いつまでも歌舞伎の世界にいたらだめだよ。若いんだから外へ出なくちゃ。そう、沖繩はいいよ。美人がいっぱいて酒は浴びるほど飲めるし。撮るものなんかもたくさんあるから」

この木村伊兵衛先生の言葉ですぐに、3 年ほど勤めた松竹写真部を辞め、晴海港から船で沖繩へ渡った。1969 年 7 月の、本土復帰 3 年前のことであった。その後、NHK 特集の「シルクロード」「大黃

河」「海のシルクロード」「大英博物館」「上海博物館」などなど、その時代にしかない貴重な取材の機会に恵まれた。「木村先生に見ていただきたい」という強い思いを常に抱きながらこれまでやってきた。今の私をつくってくれた冒頭の言葉は、忘れられるものではない。

(佐賀県佐賀市在住)

◆山村善太郎 (1970 年入会)

貴協会より表彰状を頂き正直、「えっ!! そんなに長く・・・」と思うと同時に、今まで健康でいられ大好きな写真を創っていただけるのは神さまと周りの方々のおかげと、感謝の気持ちが湧き出て来る。想えば 1970 年、当時の JPS 会員の方々が私が憧れていた写真家の名前が連なり、その作品は私にとって教科書のようなものだった。30 代 40 代頃には協会運営のお手伝いをさせて頂いた。活気あふれる仲間達は「協会は何をしてくれるかより協会に何をすれば良いか」の活発な意見が飛び交い刺激の塊の場でもあった。その頃の若手の勢いや幹部会員のコミュニケーションが今の JPS の繁栄に繋がったのではないと思う。5 年後の創立 70 周年は東京オリンピック開催年にあたり、私事で恐縮だが在籍 50 年で喜寿を迎える年である。JPS に憧れ JPS の将来を担う若い写真家達に「何をしてあげれば良いか」を自問、そして彼等の「化石」にならない内に答えを出さないといけないと思う。結びに、貴協会が私を励ますこのたびの表彰に感謝しつつ皆々の御繁栄を心より願う。

(大阪府池田市在住)

◆佐々木恵子 (1971 年入会)

何と JPS に 44 年間も在籍しました。その前から数えるとかメラマン生活 51 年間。東京オリンピック女子村に入れると言うことで講談社「ヤング・レディ」のカメラマンとして雇われました。最初の仕事は 3 回も振り直しに行き、芸能人の方ですけどとても良い方で、快く応じて下さいました。ビートルズ、マイケル・ジャクソンと持ち前の調子の良さで撮って来ました。今も昔も「カメラマンはどこにいるのですか?」と聞かれています。

(神奈川県逗子市在住)

◆増田彰久 (1971 年入会)

日本の西洋館を求めて各地を歩いて 40 数年がたった。当時だれも見向きもしない西洋館を好きだから、面白いと撮影していった。世の中の動きというのには不思議である。撮りはじめて 10 数年がたった頃から、その西洋館に多くの人の目が集まってきた。週刊誌の連載や本の出版の話が出てきた。そして 20 年前、次に何を撮ろうかと考えていたとき、目に止まったのが産業革命遺産だった。これも世間から忘れられ、その構築物たちを括り示す言葉すら無かった。それが 10 数



Message Board



年前から「近代化遺産」と呼ばれ注目を集めてきた。今では西洋館と同じように撮り始めた物件が社会的な意味をもち、評価されるのは嬉しいものである。

(東京都町田市在住)

◆山本偉紀夫 (1974 年入会)

在籍 40 年の感謝状を頂き、今迄賞状らしき物もらったことのない私には、突然のご褒美みたいな物でうれしく思いました。写真の道もかれこれ 51 年、長くやって来ましたが、辛く思ったことは一度も無く、多くの人々に助けられて今があるかと思っています。写真に関しては銀塩時代からデジタル時代へ銀塩で叩き込まれて来た私には大変でしたが、写真が暗室から明るい所で表現出来るのは朗報でした。今はドキュメンタリーを離れアートの世界へと楽しく遊ばせて頂いています。

協会には一つだけ思いがあります、それは会員だけの写真展をやって頂きたい、公募 JPS 展のそえのみみたいな会員の写真展、あれを見るたびにさげなくなります、なぜ全国の会員が作品を出し合せて集まれる写真展が出来ないのか残念でなりません。毎年支払っている会費が無駄に思えないような企画でなんとかお願いします。

(京都府京都市在住)

◆桜井 秀 (1963 年入会)

お世話になった写真家集団 VIVO 解散に伴いフリーとして過ごしていたが、1963 年に博報堂写真部に入社と同時に日本写真家協会に入会を許され、大感激し大いに希望に燃えた事を思い出します。プライベートの海外ロケに於いても会員カードを提示する事でスムーズにいった事、今思えば随分協会にはお世話になっております。インターネット時代となり情報も入手し易くはなったが、やはり会員との直接情報交換などで若さをもらい写真界に居る事を実感しております。

(埼玉県さいたま市在住)

◆野瀬拓夫 (1969 年入会)

いま国会・首相官邸周辺が騒がしい。60 年や 70 年安保で揺れた時代を思い出す。写真学生の宿題として、また仕事として市街戦さながらにデモ隊と機動隊が激突する議事堂や空港周辺に連日駆けつけたのが懐かしい。

写真学校を卒業し小さな出版社に入った。そこは美術を主なテーマとする月刊誌を発行していたが数年の後休刊に追い込まれた。JPS に入会させていたのはそんな頃だった。雑誌は再刊されるが、こちらはある団体の写真の仕事で大阪に移っていた。爾来いまに至る。

先日永年表彰を頂いた。ほとんど協会に貢献することも無く面映い限りだが、これからも体が動く限りこの仕事を続けようと思う。

(大阪府富田林市在住)

◆樋口健二 (1971 年入会)

「プレスカードの効用」

日本写真家協会々員になる事は私の憧れであった。その理由は、私のテーマが日本の産業公害、労働災害、原発被曝問題、さらに開発に伴う自然破壊の取材に必要な不可欠であったからで、プレスカードの有効性は、はかり知れない力となってくれたのである。例えば初仕事の「四日市」公害の撮影時には無名のカメラマンであった私は企業側から相手にされない様な扱いを受けたりした。だが、入会後、日本写真家協会発行のプレスカードを提示すると、突然の取材にも関わらず、例外を除いてほとんどは撮影を許可されて来た。つまり、協会が写真界に置ける権威となっていたからに他ならない。40 余年、カードは肌身離さず持参している。感謝という他あるまいと思う。

(東京都国分寺市在住)

◆熊切圭介 (1961 年入会)

私が JPS に入会したのは 1961 年。安保闘争で時代が激しく揺れ動いた直後だった。5 年後の 1965 年に、中国で開催された日中青年大交流の催しに齋藤康一、佐藤省三の両氏と、写真家協会の代表として参加した。演劇や美術、音楽の人達 16 人で日本青年文化代表団を組織したが、個性豊かな人が多く面白い旅だった。約一ヶ月半にわたる旅だったが、移動の最中共産主義体制についての論議が白熱したこともあった。当時は日本と中国は国交回復前だったので、中国社会についての十分な知識もなく、見るもの聞くものすべてが刺激的だった。日本に帰国して暫くして文化大革命が起り、中国の複雑な貌を見た思いだった。現代、中国の写真家や団体とあまり交流が無いのが残念だ。

(東京都豊島区在住)

◆羽賀康夫 (1965 年入会)

私は日本写真家協会正会員に入会して 60 年になりました。その間、日本写真家協会会員として恥じる事のないよう努めてきました。

作品を残すため機材は最高のものを使い、私はレンズを通して私が表現したいものを撮り続けて写真集・写真展を国内外で発表。特に、この新潟県の美しく豊かな風土を長年撮り、今では自分がイメージするシーンの空気感、過ぎてきた歴史・音を閉じ込め思うように表現できるようにになりました。貴協会の発展を祈念します。

(新潟県新潟市在住)

◆大谷英之 (1963 年入会)

「証言 60 年安保闘争の記録」

いまから、50 年前、安保反対のデモが増場と化し日本列島に激震を走らせた。当時 29 才の私は写真芸術論を語る程一流でも二流三流にも入れぬ番外地で「写真は記録だ。」「誰よりも一歩前でシャッターを押すんだ。」をモットーに我流で歴史の流れを切り取ることに無我夢中で撮りまくった。それを 7 月 26 日大分市で写真展を、大分大学名誉教授の司会によって講演を行った。

(大分県由布市在住)

◆橋本健作 (1963 年入会)

「ワクワクするカメラ技術革新の時代に生きた幸せ」

高校時代 1952 年に写真の道を志す決意をし造形写真家 北代省三に師事しました。その時の私のカメラはニコン S でした。1961 年頃から月光フォトギャラリーなどで、海の造形やスポーツの作品の個展を行いました。この頃から、写真家・浜谷浩先生に師事しました。そして、1963 年にそのご推薦で JPS 会員となりました。その教えを生かした写真集『Sailing in the Sunshine』を 1970 年に石原慎太郎氏の序文で出版しました。私のカメラ人生を振り返ると、ドキドキするようなカメラ技術の劇的な進歩と共に歩んでこられて、幸せであったと思います。5 回のオリンピックに公式写真家として参加しましたが、毎回新機構のカメラでの取材でした。東京オリンピックでは、中判の一眼レフのゼンゾプロニカ、35mm 判の一眼レフではニコン F が共に自動絞りとクイックリターンミラーを実現していました。以来、TTL-AE (自動露出)、多ポイント AF (自動焦点)、モーター・ドライブ、手振れ補正、顔認識から瞳認識、デジタル化、ミラーレスなどなど技術の進歩を楽しみ活かして仕事をして来られました。私自身の、「動体予測フォーカス」の考案 (1988 年「写真工業」で公開) がミノルタ a 7700 i、ニコン F4、キヤノン EOS に初採用され、「十字キーによる AF ポイントのコントロール」の発明 (特許を公開) がニコン F5 に初めて使用されました。技術の進歩に多少なりとも貢献できて幸せでした。

(神奈川県逗子市在住)

◆野町和嘉 (1974 年入会)

スマホで撮った、新聞や駅貼りの巨大広告が気になる。プロが計算ずくで撮影した写真はずだが、一見して、誰にでも撮れそうな旅先や日常の一瞬である。最近のスマホには簡易な照明も内蔵されていて、誰が何を撮ってもとにかく写

ってしまう。いまや誰もが持ち歩いている、この多機能携帯電話の10年後の進化は誰にも予測は出来ないが、流通する写真の大半が印刷物ではなく、液晶画面に映るバーチャルな存在となることは確実だろう。日々更新される膨大な画像として、素人もプロも横一線に並んで発信し続ける、そんな時代に写真家はどのように生きて伸びてゆくのだろうか、と気になる。思えば、佳き時代に写真家をやってこられたとつくづく思うのである。

(東京都新宿区在住)

◆横山健蔵 (1974年入会)

日本写真家協会に入会して40年と聞きました。『もう40年』、というより『まだ40年』という思いです。

まだまだ撮りたいものがあるのです。
(京都府京都市在住)

◆近藤誠宏 (1973年入会)

写真を職能としての者にとって、賞とは無縁の世界と思っている。今回、正会員としての永年所属に協会からの感謝状を受けるとは、長生きに感謝百拜。

32才で入会。今74才。若き頃は中央思考ありあり、個展や雑誌発表も試みた。年令を重ねる程に、自分の住んでいる地域が大切と思えるようになった。多くの仲間とテーマ性の大切さ、地元で出版文化をと問うて来た。

個展20回開催、著書5冊。少しは役に立てたのかなと思っている。

(岐阜県岐阜市在住)

◆蛭海 進 (1969年入会)

「JPS野球部は強かった？」

みんな忙しかったろうに早朝多摩川の河原に集まり、投げたり走ったりしたもんです。

ユニフォームはすぐ作り、勝手な背番号つけましたが、これはリバーシブルのグラウンドコートを作ったときの記念です。

この日集まりはよくなかったけれど、

試合を組んだ日には山下喜一郎投



手、清水啓二捕手、福永一興投手、廣田尚敏一塁手……と多士サイサイ。写真は昭和62年11月。

(東京都大田区在住)

(順不問敬称略)

(通常のメッセージボード)

◆白川義員 (1962年入会)

今、愛媛県美術館で私の「永遠の日本」写真展が開かれている(7月25日～9月6日)。この写真展こそ次代を背負う若い中学生や高校生に見せるべきという主催社の意向で夏休み期間中になった。この写真展が私の日本国内における第142回目の個展になる。外国を含めれば「永遠のアメリカ」(日本語版「アメリカ大陸」)写真展がアメリカだけで155カ所で展示され、その後全米写真家協会最高写真家賞受賞記念展が23カ国で開催されたから、世界中ならばすでに500回近くなる。国内142回のうち118回が、壁面の全長が220mを超える大写真展で、もちろん有料である。今どき写真展に入場料を払って、大勢見に来て下さるのであるからありがたいことである。四国四県の皆様には是非見てほしいと願っている。

(東京都港区在住)

◆飯田秀雄 (2005年入会)

今年4月より、産経新聞、群馬県版に妙義点描と題して、月に一度、第1日曜日に写真と文で妙義山の連載が始まった。作品は平成10年頃が大部分で40年にかけて撮影した作品が認められた事は大変嬉しく思っています。

ですが文章力の無い私は四苦八苦の状態です。原稿の締め切り日近くなると、若い頃に文章の組立ての勉強をしておけば後悔する毎日で。

(群馬県富岡市在住)

◆吉野雄輔 (2001年入会)

6月5日発売で、創元社から「世界で一番美しい海のいきもの図鑑」という写真集を出版しました。地球上のもうひとつの世界、海。美しい色をした魚や不思議な姿形をした生き物など、5ミリのクラゲから50トンのクジラまで、生き物の「いのち」の図鑑なのです。

写真には、小さな世界しかうつらない

けれど、広い海や宇宙にイメージが

広がっていくような、大げさですが、そんなものを目指しました。

(東京都世田谷区在住)



◆馮 学敏 (2000年入会)

駐日中国大使館が企画、私と日本人写真家佐藤憲一が7月8日から18日まで中国新疆ウイグル自治区5000kmを走行して道々撮影した。新疆ウイグル自治区設置60周年という記念すべき年に11月末東京の中国文化センターにて写真

展「新疆印象」開催予定です。中国最西部、47民族が暮らしています。総人口2000万人ほどおり、方東東西文化が交差しているため多民族が共に暮らし多元文化が共存する、多様多様な民族風習と豊かな文化芸術を紹介する。

(神奈川県川崎市在住)

◆永井 勝 (1986年入会)

10月30日より3週間、新宿のエプソンイメージングギャラリーエプサイトで個展を開きます。内容は骨董市や森や海岸、路傍などで収集した物をテーブルの上で再構築したSTILL LIFEです。一見なんの関係もないモノとモノの思いがけない出会いは、シュルレアリスムのな物語りを囁きはじめます。



今後1年間「インクジェット写真プリント作品」としてエプサイトより販売されます。

(埼玉県朝霞市在住)

◆漆原 宏 (1978年入会)

「図書館を撮り続けて」

映画「三丁目の夕日」の冒頭、都電が日本橋を渡ります。社会人最初が都電のガラス窓越しの東京タワーでした。そして十数年後、写真の仕事に。

紹介されて図書館の写真撮る者となり、以来現在も撮り続けています。

図書館人に魅せられたのです。それが全てです。以来、図書館だけ撮り続けています。本は、3冊出しました。内2冊が写真集です。もう1冊は、図書館づくりの本です。2013年出版の本は、全カラーで小さな本で、「はくは、図書館がすきー漆原宏写真集」といいます。2015年4月、撮り続けた写真が認められ、「第17回図書館サポート・フォーラム賞」を受賞しました。

(東京都台東区在住)

◆宇納 敏 (1969年入会)

東京都町田市の北部丘陵の里山谷戸を撮影はじめてから15年ほどになります。ここには多くの里山谷戸が残っています。また歴史に残る場所も多くあります。近年住宅開発などでその姿が大きく変わっています。とても残念です。自然がくれた美しい風景をいつまでも残したいものです。里山谷戸は日本人の心の原風景です。いつもそんなことを思いつつカメラを向けています。

(東京都町田市在住)

◆岩城昭輝 (1993年入会)

某写真館に入社、当時白黒が主で、カメラはアンソニー、レンズはニコラベルシャイト、このレンズは厄介者で絞りを



Message Board



入れて、ピントを取り、シャッターは、観音開き、現像は、パイロPH値が高くハイエストを生じさせます。プリント現像はグリシンを用い、焼枠で露光量は、振り子を数え、両手で焼き込み、覆い焼を操作し、枚数が多いと、たいへんな事でした。温調の仕上りは極上のプリントです。

カラープリントは、ダイトランスファーに、挑戦しました。フィルムからフィルムへの、転写で、階調が失われず、豊かなグラジェーションを保ちます。私の、写真人生は、デジタルを含め、40年前の記憶と共に、二重の歩みです。

(和歌山県白浜市在住)

◆土屋敏朗 (2012年入会)

名古屋で生まれた「写真の撮られ方セミナー」、古い師・あさくら雅の本当の自分を見つける古い講座、そして、どんな風に撮りたいのかを引き出す講座。写真家・土屋敏朗は、見せたい自分をどのように演出したらよいかを豊富な経験から具体的かつ実践的にお伝えして、撮影する!

<https://www.youtube.com/watch?v=geVyVDSrbkg>

このセミナーは7月初旬の2日間の開催、満員御礼、大盛況でした!

そして、7月末と8月半ばに追加開催!すぐに満席になるほどの人気セミナーです。今回、このセミナーは、さらに進化しました!魂レベルまでの効果を感じて



ただける「ありすのシターヒー

リング」がセミナーとコラボするので

申し込みはこちら→
<http://uriage-up.org/page16>
<<http://1.facebook.com/1.php?u=http%3A%2F%2Furiage-up.org%2Fpage16&h=UAQFKE6NW&enc=AZOkqrqlxmT15b-7zdcOZYxStVqUeGAvc600K9v8qxfgvnxuWvdDYs-7UdMyYNNh3mY&s=1>>

(愛知県清須市在住)

◆加藤雅昭 (1987年入会)

「国立霞ヶ丘陸上競技場既存樹木移植等工事」と称して新国立競技場建設に向けて大量の樹木が伐採されてしまった。この「移植等」というところがミソで、実のところは1,500本以上もの大木が伐採され、移植は200本あまりに過ぎず、極端に日陰が少ない広場は苛酷な熱環境

が心配されている。奇抜さゆえ『アンビルの女王』とも揶揄されるザハ・ハディド女史によるデザインの競技場が巨額建設費を理由に正式に中止になったとのニュースは記憶



に新しいところ……。巨額な放映権収入の都合で、最も過酷な真夏の開催となった二度目の東京オリンピック、観客や選手たちが熱射病でバタバタと倒れてしまうような「記憶に残る」大会にならぬようお願いしてやまない。(東京都荒川区在住)

◆岩崎和雄 (1983年入会)

本年10月9日より15日迄フジフォトサロン東京において「祇園閣」の写真展を行います。明治の実業家大倉喜八郎翁と建築家伊東忠太博士の残した祇園閣は、祇園祭の山鉦の姿を模し、東山の高台から京都を見渡す為だけに建てられた高樓です。この建物が建てられた経緯は、喜八郎翁が博士に「若い頃、さしていた傘が風でオチヨコになった。その有様が忘れたいのでその様な姿の建物を建てて欲しい」と依頼した事に始まります。私はこのエピソードだけで祇園閣の撮影を決めました。この奇想天外な夢を現実にした二人の世界と、明治の男達の息遣いが表現できればと思います。

また、10月7日から22日迄墨田区役所1階アトリウムで「すみだ建築アルバム」に蔵春閣の写真を出展します。

(埼玉県宮代町在住)

◆高砂淳二 (2015年入会)

写真家・高砂淳二と、詩人・覚和歌子のコラボ写真集『yes!』発売。

写真家・高砂淳二と、映画「千と千尋の神隠し」主題歌「いつも何度でも」などの作詞で知られる詩人・覚和歌子とのコラボレーション写真詩集『yes!』(小学館)が、9月24日発売されます。

自然の中のディテールから宇宙の銀河までの壮大な写真と、時間や空間を越えて聞こえてくるような詩とが融合して、不思議な世界観が広がります。どうぞお見逃しなく。(東京都渋谷区在住)

◆足立 寛 (1993年入会)

写真専門学校の老舗であり、多くの写真家を輩出している東京ビジュアルアーツ(旧東京写真専門学校、東京写真専門学校)は、創立者安達健之助が1964年東京オリンピックの年を境に広告およびエディトリアルなどへのニーズが高ま

り、写真家の力が必要となるとの理念で開校し、昨年創立50年を迎えました。

この学び舎で共に切磋琢磨した仲間達、卒業生の組織である校友会も本年創立50年を迎え、「校友会創立50周年記念写真展」を来る11月26日(木)から12月2日(水)まで、東京四谷のポートレートギャラリー(東京都新宿区四谷1-7日本写真会館5F 03-3351-3002)で開催致します。卒業生写真家有志72名と恩師を交え、個性ある視点の写真展と自負しておりますので、是非多くの皆様にご高覧いただきたくご案内させていただきます。(東京都世田谷区在住)

◆内堀タケシ (2009年入会)

4月8日、成田第3ターミナルの運用が始まった初日、沖縄の辺野古に向かった。

辺野古キャンブシワブ・ゲート前にはブルーシートのテントがズラリと並び、美ら海を守ろう、米軍基地反対などの横断幕や、ヘリ基地反対のノボリが心地よい沖縄の風に揺れていた。



敗戦後70年、沖縄は基地問題に揺れ続け日本政府の米軍基地押しつけに耐えてきた。その中でも日米地位協定の弊害は米軍基地を抱える沖縄にとって大問題だ。日本人には人権がないと感じる。そうして東京に戻って、ふと気になり始めたのが横田基地のある福生だ。東京都にある大きな米軍基地はどうなっているのだろうか?行ってみると驚いた。C130輸送機2機が着陸訓練なので低空で小学校の真上を何度も飛び回っていた。夜、福生のBarの1軒では英語だけの会話。日本語がたどたどしくて聞き取れない。ここ東京にも米軍の大きな影が尾を引いていた。

沖縄辺野古のような基地反対運動の盛り上がりは感じないが、日本全土で日米地位協定は守られ、米兵は日本の出入国管理外として日本の土地を歩いている。先般、米兵および軍属はNHKの受診料不払いを日米地位協定によって正当化するという新聞記事を見た。またオスプレイの配備通告を受け取った福生市長は寝耳に水と言ったが、米軍による配備計画に口も出せない日本政府は、あの小学校の上空を低空で飛ぶ軍用機にNOは言えずに受け入れ続けるのだ。

(東京都三鷹市在住)

受賞・出版・写真展 2014年・日本写真家協会会員 (1月～12月)

作品による会員の動きを記録する意味から年1回受賞・出版・写真展をされた方々の記録を掲載しております。資料は会員のアンケートの回答をもとに作成しておりますので掲載もれもあることと思いますがご了承下さい。

■受賞

会員名	受賞名	時期	理由
江口 友一	日本産業広告賞	11/20	日刊工業新聞に9/17日掲載された三菱電機の新開30段広告原稿が評価された
小野 吉彦	第5回辻静雄食文化賞	6/3	書籍「食と建築土木」(写真・小野吉彦)に対して
桑原 史成	第33回土門拳賞	4/16	受賞作の「水俣事件」は、半世紀にわたり水俣市に通い続け、「事件」を記録し続けたモノクロ作品。ジャーナリストィックで距離感を保った一貫した姿勢によるドキュメント写真で、日本の写真界に刺激と重みを与えた点が高く評価された
齋藤 康一	第9回飯田市藤本四八写真文化賞	5/11	人物写真一筋に振り続け、そのポートレートは各界の著名人におよぶ。作品の記録性は貴重であると同時に厚みのある「昭和の肖像」としての価値が評される
酒井 広司	第30回写真の町東川賞特別作家賞	8/9	「偶景」シリーズに至る北海道を撮影した一連の作品に対して
清水 哲朗	日経ナショナル ジオグラフィック写真賞 2013 ピープル部門優秀賞	2/3	タイトル「携帯電話」に対して
清水 哲朗	平成26年日本写真協会賞新人賞	6/2	1997年からモンゴルに通い、風景とそこに暮らす人の営み取材し続け、写真集と写真展に結実させた。国境を越え、人と人を写真の力で結びつけるその活動に対して
白川 義員	第62回愛媛新聞賞	1/7	多年積み重ねてきた世界的業績に対して
須田 一政	平成26年日本写真協会賞作家賞	6/2	40数年にわたり、日本各地を旅して出会った光景を一貫した作風で写しとめ、それらの作品を東京都写真美術館「風の片」展で結実させた。その長年の写真制作活動に対して
田沼 武能	平成26年日本写真協会賞功労賞	6/2	現役を貫いて精力的に作家活動を続けるとともに、日本写真家協会会長、日本写真保存センター設立推進連盟連盟代表をはじめとした要職につき、永年にわたり写真界に多大な貢献を果たした功績に対して
常盤とよ子	第63回神奈川文化賞	11/3	写真家として文化の振興に貢献
野町 和嘉	平成26年日本写真協会賞国際賞	6/2	写真集の国際出版等を通じ日本写真文化を国際的に知らしめた功績に対して
宮武 健仁	日経ナショナル ジオグラフィック写真賞 2013 グランプリ	2/3	タイトル「輝く光景」に対して
本橋 成一	第61回産経児童出版文化賞J賞	5/5	写真絵本「うちは精肉店」に対して
本橋 成一	第5回辻静雄食文化賞	6/3	映画「ある精肉店の話」(プロデューサー・本橋成一)に対して
山 縣 勉	Lens Culture Portrait Awards 3rd Prize	4/10	優れたポートレート作品として

■出版

(写真集・写真関係著書・電子書籍・CD-ROM・DVD・ビデオ等)

会員名	著書名	発行所	発行月	定価
芥川 仁	里の時間 (共著)	岩波書店	10/21	980
荒川 好夫	よみがえる新幹線 0系・100系・200系	学研パブリッシング	5/	2,800
荒川 好夫	蒸気機関車 D51 大事典 (共著)	戎光祥出版	8/	1,800
荒川 好夫	よみがえる 583系	学研パブリッシング	9/	2,800
荒川 好夫	2015年カレンダー「昭和の名列車」	交通新聞社	9/	1,241
荒川 好夫	2015年卓上カレンダー	鉄道総合技術研究所	12/	-
安 珠	Dream Linking ☆つなぐ夢・千年忘れない	朝日新聞出版	7/18	1,500
安念 余志子	光のどけき	風景写真出版	2/1	1,800
池田 進一	東北朝市紀行	こぶし書房	11/30	1,800
石田 研二	Daytime Infrared Images 2014	コスモスインターナショナル	8/15	
石橋 睦美	日本人なら一生に一度は見ておきたい 民話と伝承の絶景 36	山と溪谷社	10/25	1,700
伊藤 孝司	無窮花の哀しみ	風媒社	2/28	1,800
薄井 大遼	素王の人 十二代目市川團十郎	JCI フォトサロン	4/29	800
内山 晟	デジタル一眼レフカメラと写真の教科書 動物園&水族館の撮り方編	インプレス	11/1	2,000
海野 和男	海野和男の昆虫撮影テクニック 増補改訂版	誠文堂新光社	5/30	1,600
海野 和男	昆虫-里山に飛翔する生き物たち-	NHK 出版	7/20	2,400
海野 和男	Insects	Penang Butterfly Farm	10/18	RM15.00
海野 和男	Where is the Insect	Penang Butterfly Farm	10/18	RM13.00
江口 欣照	ヤンバルクイナ	小学館	3/3	1,300
櫻並 悦子	明日へ。東北の息吹 東日本大震災からの3年-2011-2014-	朝日新聞出版	5/30	2,000
岡崎 裕武	もう病気が怖くない! たまねぎ氷&にんにくジャム	ダイアプレス	6/1	1,000
小河 俊哉	空の辞典	雷鳥社	4/2	1,500
奥田 實	野菜美	新樹社	7/22	3,600
小野 吉彦	これだけは見ておきたい 日本の産業遺産図鑑 (共著)	平凡社	4/25	1,800
風間 耕司	富山写真語 万華鏡 264~275	ふるさと開発研究所	1月~12月	各500
加藤 庸二	絶対行きたい! 日本の島旅	PHP 研究所	5/2	1,300
鎌澤 久也	世界のともだち 11 ベトナム ふたごのソンとチュン	偕成社	3/	1,800
亀田 昭雄	東日本大震災から3年 Vol.3	アトリエ Winds	7/25	3,000
川北 茂貴	カメラの潜在機能を引き出すデジタル一眼テクニック (共著)	玄光社	4/23	1,600
川北 茂貴	デジタルカメラで撮る日本の夜景美	玄光社	8/20	1,944

会 員 名	著 書 名	発 行 所	発 行 月	定 価
川 口 邦 雄	第二界 山よお前は美しすぎる	日本カメラ社	9/30	3,500
川 津 英 夫	ケルトの風に抱かれて	日本写真企画	9/15	800
北 中 康 文	シャッターチャンス物語	日本写真企画	7/1	1,389
木 之 下 晃	栄光のパーンスタイン	響文社	7/16	3,200
桑 原 英 文	奈良 大和路の紅葉	淡交社	10/20	1,600
桑 原 史 成	写真で読む 水俣を忘れない	草土文化	8/10	1,800
桑 原 史 成	The Minamata disease Disaster	ヌンビ出版	11/20	30,000 ユーロ
小 澤 太 一	ナウル日和	日本カメラ社	11/26	3,200
小 柴 一 良	パリの印象	用美社	12/1	2,800
小 城 崇 史	Nikon D810 完全マスターガイド	朝日新聞出版	8/30	2,000
小 城 崇 史	Canon EOS 7D Mark II 完全マスターガイド	朝日新聞出版	10/10	1,900
小 平 尚 典	おやさと写心帖 MY ファースト天理	天理教道友社	5/1	1,200
小 松 毅 史	小松毅史の花風景 三天写真 撮影講座	日本カメラ社	3/30	1,800
櫻 井 寛	駅弁入門 (共著)	幻冬舎	3/20	1,300
櫻 井 寛	ななつ星 in 九州の旅	日経 BP 社	4/30	1,000
櫻 井 寛	世界の鉄道	幻冬舎	12/20	1,300
笹 本 恒 子	100歳のファインダー 日本初の女性報道写真家 笹本恒子	東京新聞	4/26	1,800
笹 本 恒 子	100人の女性たち	JCII フォトサロン	9/2	800
佐 藤 日 出 夫	犬と、走る	集英社インターナショナル	4/30	1,800
三 田 崇 博	世界遺産写真集「オセアニアの遺産」	読書館	10/1	2,900
三 田 崇 博	生駒の火祭り	読書館	11/1	1,000
嶋 田 忠	凍る嘴	平凡社	11/5	3,800
清 水 哲 朗	世界のともだち 05 モンゴル 草原でくらすバクター	偕成社	2/	1,800
下 瀬 信 雄	結界	平凡社	10/30	4,200
白 井 厚	叙景	春夏秋冬叢書	6/10	1,800
(故) 管 洋 志	一瞬のアジア	新潮社	3/30	3,200
関 口 哲 也	道東「十勝の詩」	クナウマガジン	6/12	2,800
平 寿 夫	熊野地域の庚申塔と庚申信仰 (共著)	自費出版	11/14	2,000
高 城 芳 治	Birdscape ~日本の野鳥風景 デジタル写真集	相互 phoxs	7/4	300
高 城 芳 治	2015年カレンダー 「世界の野鳥風景」壁掛け、卓上	TBLP	10/2	1,200、800
高 橋 喜 代 治	東久留米 武蔵野の面影	けやき出版	10/26	2,000
竹 内 敏 信	日本人の原風景	IBCパブリッシング	7/8	3,200
竹 重 満 憲	周南・下松・光の昭和 (共著)	樹林舎	7/17	9,250
谷 角 靖	AURORA (電子書籍)	青菁社	1/	400
谷 角 靖	NORTHERN LIGHTS	青菁社	9/26	1,500
田 沼 武 能	トットちゃんと地球っ子たち 30周年 黒柳徹子ユニセフ親善大使 訪問記録	新日本出版社	11/10	500
田 沼 武 能	時代を刻んだ貌	クレヴィス	12/15	3,000
田ノ岡 哲哉	四季の花撮影②	日本カメラ社	1/29	1,800
田 村 彰 英	変遷 1995-2012 仙川-街が生まれる	東京アートミュージアム	1/11	2,000
中 川 喜 代 治	江戸の相撲と力士たち (共著)	太田記念美術館	6/1	1,500
中 川 喜 代 治	江戸妖怪大図鑑 (共著)	太田記念美術館	7/1	2,500
中 川 喜 代 治	歌川国貞 (共著)	太田記念美術館	10/1	2,500
中 川 喜 代 治	いいね、花のある生活 (共著)	岡田茂吉美術文化財団	10/1	1,200
長 倉 洋 海	世界のともだち-メキシコ	偕成社	9/	1,800
長 倉 洋 海	その先の世界へ	クレヴィス	10/10	2,500
長 倉 洋 海	アフガニスタン ほくと山の学校	かがわ出版	10/20	2,000
長 根 広 和	四季を走る鉄道撮影術	アストロアーツ	4/19	2,000
中 村 成 勝	秘景「黒部」黒部渓谷と雲ノ平を取り巻く山々	山と溪谷社	8/1	2,500
夏 梅 陸 夫	四枚組写真構成でみる 誕生花と花言葉 (6冊)	アイロゴス	4/	各 500
夏 梅 陸 夫	花のアート作品集 大胆に光を取り込んだ花の写し方	アイロゴス	11/	500
西 村 豊	ごたっ子の田んぼ	アリス館	4/6	1,400
西 村 豊	京都 天神をまつる人びと〜ずいきみこしと西之京〜 (共著)	岩波書店	9/9	2,700
西 山 治 朗	慈悲の人 登山禪師を歩く	学研パブリッシング	5/27	1,000
野 町 和 嘉	LE VIE DEL SACRO	national Geographic ITALIA	1/1	9,50 ユーロ
芳 賀 日 出 男	日本の民俗 祭りと芸能、暮らしと生業	KADOKAWA	11/25	各 1,280
長 谷 川 修	これからはじめる商品撮影の教科書	技術評論社	11/10	1,980
長 谷 川 毅 郎	寿辞 大工・植田家と浪江町の歩み	新宿書房	7/31	2,800
秦 達 夫	By the way ~ニュージーランドの憧憬~	相互	10/1	1,000
秦 達 夫	遠山郷霜月祭「あらびるでな」	信濃毎日新聞社	12/1	2,000
(故) 林 忠 彦	日本の作家	小学館	9/23	2,200
(故) 林 忠 彦	文士の時代	中央公論新社	9/25	1,300
原 楨 春 夫	天地の靈気	遊人工房	10/10	4,600
樋 口 健 二	新版 四日市 電子書籍	こぶし書房	10/20	1,200
平 田 実	ACTION,the 1960s	タカ・イシイギャラリーフォトグ ラフイーノフィルム	4/25	2,500
福 田 豊 文	どうぶつえんのみんなの1日 (共著)	アリス館	4/25	1,600
福 田 豊 文	びっかびか すいぞくかん (共著)	ひさかたチャイルド	6/16	1,200
福 田 豊 文	どうぶつデラックス 135	講談社ビーシー	6/25	740
福 田 豊 文	まるごとわかる 猫種大図鑑	学研パブリッシング	7/22	1,500
古 川 誠	憧憬-ラフカディオ・ハーンの足跡を旅して (共著)	ハーベスト出版	12/1	1,800

会 員 名	著 書 名	発 行 所	発 行 月	定 価
本 田 祐 造	四方十川燦燦	日本写真企画	4/10	2,800
増 田 彰 久	近代建築のアジア 第2巻 中国Ⅱ (共著)	柏書房	1/31	15,000
増 村 征 夫	和名の由来で覚える 372 種 野と里・山と海辺の花 ポケット図鑑	新潮社	4/1	750
増 村 征 夫	和名の由来で覚える 300 種 高山・亜高山の花 ポケット図鑑	新潮社	7/1	710
松 尾 順 造	ステンドグラス巡礼	長崎文献社	9/1	1,400
松 本 コウ シ	午前零時のスケッチ	日本カメラ社	6/22	2,980
松 本 コウ シ	泳ぐ夜	日本カメラ社	6/24	2,980
丸 田 あ つ し	絶対に見たい! 美しい世界の夜景 (共著)	宝島社	6/5	1,400
丸 山 勇	ブツの言葉 (共著)	新潮社	8/30	1,400
水 野 克 比 古	SAKURA	IBCパブリッシング	3/10	2,800
水 野 克 比 古	京都を愉しむ また会いたくなる京の桜	淡交社	3/28	1,400
水 本 俊 也	ヒューマンライツ・ナウ 2014年カレンダー	ヒューマンライツ・ナウ	1/1	1,000、1,200
溝 縁 ひ ろ し	四国遍路道 弘法大師伝説を巡る (共著)	淡交社	5/6	1,600
南 川 三 治 郎	聖地 伊勢へ	中日新聞社	4/20	1,200
宮 入 芳 雄	ほくは高尾山の森林保護員	こぶし書房	2/28	1,800
宮 澤 正 明	第六十二回神宮式年遷宮 御遷宮対策委員会 公式記録写真集「遷宮」	御遷宮対策委員会	3/31	5,000
宮 嶋 茂 樹	国防男子	集英社	5/17	1,800
宮 嶋 茂 樹	国防女子	集英社	5/17	1,800
宮 嶋 茂 樹	不肖・宮嶋 陸海空カレンダー	TRY-X	10/	2,500
宗 形 慧	月刊「たくさんのふしぎ」11月号 村を守る、ワラのお人形さま	福音館書店	11/1	667
村 上 昭 浩	森と人カレンダー 2015 林業の仕事 技と心 (共著)	全国林業改良普及協会	11/19	762
森 井 慎 紹	にっぽんの祭り 振り方&狙い方	日本写真企画	5/30	1,500
森 下 泰 樹	和風総本家 十二代目 豆助 オフィシャルフォトブック	新紀元社	1/6	1,200
森 田 敏 隆	日本の原風景 町並 重要伝統的建造物群保存地区	光村推古書院	3/28	2,800
森 田 雅 章	スモーカーマウンテンレポート in Philippines「あとの子どもたちは」	Asukanet Publishing	9/20	7,825
森 永 純	WAVE ~ All things change ~	かぜたび舎	8/15	10,500
諸 河 久	よみがえる 485 系 (共著)	学研パブリッシング	1/7	2,800
諸 河 久	全国私鉄超決定版 電車・機関車・気動車 1700 (共著)	世界文化社	6/30	3,500
諸 河 久	モノクロームの国鉄	イカロス出版	7/20	2,000
矢 部 志 朗	小さな森の物語〜十勝・鎮守の杜の動物たち〜	北海道新聞社	9/19	1,759
山 口 一 彦	夢彩 dream color (電子書籍)	インテリアあーと	3/1	250
山 口 一 彦	室蘭の顔 人土の人	北海印刷	7/1	2,500
山 口 規 子	家庭で作れるサルデーニャ料理 (共著)	河出書房新社	9/30	1,600
山 下 僚	風化する記憶「トーチカ」 変様	クナウマガジン	10/10	2,037
山 本 皓 一	誰も知らない「アジア国境」タブー地帯	宝島社	3/18	980
山 本 皓 一	田中角栄という生き方	宝島社	6/19	900
吉 田 繁	JPCO シリーズ 06 Border	桜花出版	3/20	3,000
吉 竹 め ぐ み	ARAB Bedouin of the Syrian Desert : Story of a Family	Skira	10/6	50 ドル
吉 森 信 哉	デジタル一眼スーパー撮影術	マキノ出版	9/3	980
若 林 の ぶ ゆ き	私の歩んだ時代のカメラたち	パレード	6/10	2,000

写真展 (一門展・巡回展・常設展などの写真展は省略させていただきました)

会 員 名	写 真 展 名	会 期	会 場
浅 尾 省 五	水の国の天使たち	5/23 ~ 6/22	廿日市市・はつかい美術ギャラリー
阿 部 典 子	思い出のノーサイド KITAMI ORIGINAL 2014	7/26 ~ 8/3	北見市・コミュニティプラザバラボ 5F 憩いの広場
阿 部 典 子	思い出のノーサイド GO 2008-2014	11/13 ~ 11/19	アイデムフォトギャラリー「シリウス」
阿 由 葉 し げ る	出会いの瞬間	2/11 ~ 2/16	中央区・銀座煉瓦画廊
荒 川 好 夫	北海道 冬 蒸気機関車 C62 栄光の記録	9/12 ~ 2/22	北海道・有為記念館
安 珠	Dream Linking ☆つなぐ夢・千年忘れない	7/18 ~ 9/21	東京、その他
安 珠	KOKORO+ANJU	8/30 ~ 11/8	バリ・ボン・マルシェ
安 念 余 志 子	光のどけき	2/5 ~ 2/17	リコーイメージングスクエア新宿
飯 田 耕 治	movement	12/17 ~ 12/24	台東区・スタイケントーキョー
池 上 直 哉	SYNCHRONICITY	2/1 ~ 3/8	江東区・sprout curation
石 田 研 二	Daytime Infrared Images < flare >	7/29 ~ 8/9	中央区・EIZO ガレリア銀座
石 田 研 二	Daytime Infrared Images「晴れた日に」Part II	8/12 ~ 8/24	目黒区・ギャラリーコスモス
伊 知 地 国 夫	写真で楽しむ 科学のふしぎ	3/22 ~ 3/27	富士フィルムフォトサロン福岡
伊 丸 岡 秀 蔵	熊と熊貓	3/20 ~ 3/30	石狩市・石狩市民図書館 (エントランスホール)
岩 本 恵 次	和美-こころの憧憬-	2/28 ~ 3/6	ギャラリー・アートグラフ
上 野 照 文	阿波の煌めきⅡ	8/6 ~ 8/11	徳島市・阿波銀プラザ
薄 井 大 還	素王の人 十二代目市川團十郎	4/29 ~ 6/1	JCIII フォトサロン
宇 納 敏	四季町田 里山谷戸の詩	3/18 ~ 4/8	町田市・ぼっぽ町田、他
烏 里 烏 沙	夢境・家園-こころのふるさと-	3/5 ~ 3/17	リコーイメージングスクエア新宿 ギャラリー I & II
烏 里 烏 沙	蔵地印象	12/1 ~ 12/5	港区・東京中国文化センター
海 野 和 男	毎日更新 15 年「小諸日記」Since1999	7/17 ~ 7/30	オリンパスギャラリー東京
海 野 和 男	昆虫の肖像	7/26 ~ 9/7	小諸高原美術館
櫻 並 悦 子	明日へ。-東北の息吹 東日本大震災から3年-	5/9 ~ 5/19	コニカミノルタプラザギャラリー B

会 員 名	写 真 展 名	会 期	会 場
老 川 良 一	Cycle of Bali 輪廻のバリ	2/11～2/16	名古屋市・ノリタケの森 ギャラリー (第一展示室) 会場、岐阜市
大内山真一郎	大内山真一郎の世界展	12/24～1/19	目黒区・代官山フォトギャラリー
大西みつぐ	放水路	6/18～7/1	銀座ニコンサロン
大西みつぐ	まちの息づかい・江東、砂町、ある日ある時・	11/16～11/30	江東区砂町文化センター2階展示ロビー
大沼英樹	虹の贈りもの	6/5～6/11	アイデムフォトギャラリー「シリウス」
大沼英樹	PEACE LINE II	6/19～6/24	仙台市・南町通りオープンギャラリー くるるーど
大山謙一郎	炎えた女	2/6～2/18	高知県・高知よさこい情報交流館
岡 克 己	写言2	6/26～7/2	オリンパスギャラリー東京
奥田倉之	桜咲く日	2/14～2/24	コニカミノルタプラザギャラリー B
織作峰子	Premonition	3/24～4/26	中央区・Art Gallery M84
柿本完二	ふおるむ	5/15～5/21	ニコンサロン bis 大阪
金井杜道	ネパール風景・1978	3/24～3/29	中央区・ギャラリーミハラヤ
金井杜道	三月堂のほとけさま	9/2～9/14	京都市・ギャラリー H2O
金崎ただとし	JAPANISCHE IDYLLEN	3/1～6/30	ドイツ・GASTFELD
金本孔俊	神秘的大地アラスカ	12/18～12/23	神戸市・神戸デュオギャラリー (I)
亀村俊二	「風」と「こころ」	8/25～8/31	京都市・ホームギャラリー horizon
唐木孝治	唐木孝治フォトアート展	2/3～2/15	中央区・ギャラリーヴィヴアン
川口邦雄	第二界山よ お前は美しすぎる	10/3～10/9	フレームマン エキシビジョンサロン銀座
川廷昌弘	光の空-阪神淡路大震災から20年-芦屋	12/13～2/8	芦屋市立美術館
木之下晃	「世界の音楽家」木之下晃ヴィンテージ・プリント展	11/9～11/23	上野学園石橋メモリアルホールホワイエ
木村佳代子	わわしい女たちⅢ	7/10～7/16	ポートレートギャラリー
木村 恵一	江戸の美	1/6～1/15	ポートレートギャラリー
金城真喜子	Flower Variation	9/2～9/13	中央区・EIZO ガレリア銀座、その他
金城真喜子	Light&Nature～Photography and the Art of Projection	12/10～12/22	リコイメージングスクエア新宿 ギャラリー I & II
久保田弘信	戦渦の子どもたち	7/5～9/7	長野県・八ヶ岳小さな絵本美術館
熊谷 正	傀儡人形遣いとの出会いから	2/16～2/28	新宿区・ギャラリーパー 26 日の月
熊切圭介	都市像	1/30～2/5	キャノンギャラリー銀座
桑原 史成	第33回土門拳賞受賞作品展 「不知火海 The Minamata disease Disaster」	5/7～5/20	銀座ニコンサロン、酒田市、他
郡山 貴三	いい人スマイル パートⅡ	10/23～10/29	キャノンギャラリー銀座
小澤 太一	ナウル日和	10/16～10/22	キャノンギャラリー銀座
小林紀晴	ring wandering 悲しき迷走	11/19～12/2	銀座ニコンサロン
小平尚典	中村修二・自分に怒れ	12/18～12/21	港区・ピリオン
小平博之	シュベルト歌曲集「冬の旅」	11/17～11/22	練馬区・基督兄弟団 成増教会 多目的ホール、山形市
小松 健一	三國志巡禮	11/4～11/14	港区・東京中国文化センター
小山貴和夫	「スイス寸描」「幕標 マッカーホルンに魅せられた人々」	7/22～7/27	新宿区・247photography Roonee
齋藤 康一	第9回飯田市藤本四八写真文化賞受賞作品展	5/10～6/15	飯田市・飯田市美術館、東京
齋藤 康一	時代の肖像	10/15～10/29	福島テルサ4階ギャラリー
坂下 康裕	Life～夏彦ファミリー～	5/15～5/21	キャノンギャラリー銀座
坂田 峰夫	坂田峰夫展	6/10～6/28	渋谷区・GALERIE ANDO
桜井 秀	HOLLYWOOD	5/22～5/28	キャノンギャラリー銀座
笹本 恒子	笹本恒子100歳展	4/5～6/1	横浜市・日本新聞博物館2階企画展示室、広島市、調布市
笹本 恒子	100人の女性たち	9/2～9/28	JCII フォトサロン
佐藤 昭一	THE FALLS	4/15～4/20	JCII クラブ25
佐藤 尚	里の風景	8/29～9/11	富士フィルムフォトサロン東京
佐藤 秀明	ユーコン	9/10～9/22	リコイメージングスクエア新宿 ギャラリー I & II
佐藤 仁重	NIKKO～出会いの瞬間～	4/25～5/1	富士フォトギャラリー新宿
三田 崇博	心の旅で感じる世界遺産	1/17～3/23	神奈川県・あーすぶらざ
三田 崇博	中南米の自然と歴史	4/4～4/6	京都府立けいはんな記念公園
三田 崇博	世界の湖と日本の湖	10/7～11/3	滋賀県立琵琶湖博物館
三田 崇博	オセアニアの遺産	11/6～11/9	横浜市・あーすぶらざ 2階展示ホール、京都府、奈良市
信太 一高	三國連太郎の器	8/29～9/8	静岡県沼津市立図書館
渋谷 利雄	一能登の天花-能登キリシマツツ写真展	4/22～4/27	金沢市・石川国際交流サロン
嶋田 忠	凍る嘴	11/13～11/19	キャノンギャラリー銀座
清水 薫	「滋賀を巡る鉄道情景」～その豊かな自然と共に～	1/7～2/9	京都市・集西楽サカタニギャラリー
清水 薫	JR 湖西線 美しき琵琶湖と自然の中を	11/5～11/17	滋賀県・コラボしが21ギャラリー
清水 薫	近江路を駆ける東海道新幹線	11/18～11/28	滋賀県・コラボしが21ギャラリー
清水 淳	NEVER SEEN / 初めて見る世界	4/3～4/9	オリンパスギャラリー東京
清水 哲朗	BURGED	3/13～3/19	オリンパスギャラリー東京
周 剣生	悠遠なる世界遺産	3/17～3/20	港区・東京中国文化センター
庄司 博彦	シリア・ウォッチング	1/21～2/9	富士市立中央図書館
庄司 博彦	誰も撮らなかつた富士山	2/1～2/28	富士宮市・おーそれ宮
庄司 博彦	花はどこへ行った。～被災地からの報告～	3/9～3/16	富士市立中央図書館
白井 厚	叙景 description scene	6/18～6/30	リコイメージングスクエア新宿 ギャラリー II
白旗 史朗	白旗史朗作品展	1/3～1/9	富士フィルムフォトサロン東京 ミニギャラリー
杉山 正己	インパル作戦から70年	11/1～12/25	千代田区・靖国神社 遊就館本館1階広間
菅田 隆雄	瞬輝幻影 尾瀬	6/20～6/26	中央区・フレームマンエキシビジョンサロン 銀座ギャラ リー I & ミニギャラリー
菅田 隆雄	瞬輝幻影 尾瀬2	10/7～10/12	仙台市・宮城県美術館県民ギャラリー1、京都市、福島市

会 員 名	写 真 展 名	会 期	会 場
鈴木 智明	追憶一僕の安曇野	3/7～3/13	富士フィルムフォトサロン名古屋
鈴木 智明	歩の軌跡	12/10～12/17	名古屋市・フォトサロン サン・ルゥ
須田 一政	わか東京	1/18～2/1	港区・ZEN FOTO GALLERY
須田 一政	田辺一鶴	7/25～9/13	横浜市・PAST RAYS
関口 哲也	道東「十勝の詩」	6/12～6/17	帯広市民ギャラリー A-1
関口 照生	支倉の道	2/13～2/26	名古屋市・東海東京証券ミッドランド・プレミアサロン、東京
平 寿 夫	時を蓄えて来た植物たちー固有植物の島ソコトラからー	4/22～4/27	京都市・ヤマモトギャラリー
高 井 潔	茅葺きの家	2/27～3/5	キャノンギャラリー銀座
高尾 啓介	2013・14 日本の覇者達	12/1～12/4	沼津市 プラサ ヴェルデ
高城 芳治	世界の野鳥風景'14	9/24～10/15	ジュンク堂書店三宮店
高城 芳治	野鳥彩時季 Part- II	12/10～12/15	池田市・ギャルリ VEGA
高橋 敬市	剣岳遠近	5/13～7/21	富山市・ギャルリ・ミレー
高橋 敬市	剣岳	11/20～11/26	金沢市・フジカラーギャラリーかなざわ
高村 達	Dots of Sun	12/9～12/26	中央区・EIZO ガレリア銀座
高屋 力	叙情的鉄道風景～北近畿タンゴ鉄道編～	4/26～6/1	京都・福知山観光ギャラリー
竹田 武史	ヘルマン・ヘッセに捧ぐ シッタールタの旅	4/4～4/14	コニカミノルタプラザギャラリー C
田沼 武能	むさしの日記	5/15～5/21	オリンパスギャラリー東京
田ノ岡 哲哉	華宇宙 Flowers - 魅惑の花姿	11/4～11/9	ギャラリー 2104
垂井 俊憲	山上の聖地 高野山	4/25～10/26	和歌山県・高野山 開創1200年ギャラリー、大阪
塚本 伸爾	風薫る	5/27～6/1	名古屋市・セントラル・アートギャラリー、高山市
辻 良雄	山の民	6/20～6/26	オリンパスギャラリー大阪
土田 ヒロミ	フクシマ2	2/26～3/11	銀座ニコンサロン
土田 ヒロミ	フクシマ2	2/28～3/9	新宿区・photographers' gallery
中井 精也	1日1鉄!	3/29～6/8	高岡市・ミュゼふくおかカメラ館、忍野村
中井 精也	さんてつ、がんばべし! - 三陸鉄道復活への軌跡-	6/6～6/12	富士フィルムフォトサロン東京
中井 精也	中井精也のニッポンゆる鉄旅情30景	9/12～10/1	FUJIFILM SQUARE
長倉 洋海	その先の世界へ	9/25～10/1	キャノンギャラリー銀座
長倉 洋海	もう一つの世界	11/19～12/2	京都工芸芸術大学学生館1F
長野 良市	阿蘇の然	4/11～4/17	富士フィルムフォトサロン東京
長野 良市	大河の源流 黄河・長江	6/27～7/3	オリンパスギャラリー大阪
中村 征夫	海への旅	1/15～1/27	中央区・日本橋三越本店 新館7階ギャラリー
中村 梧郎	枯葉剤と子どもたち	7/1～9/30	福島アウシュヴィッツ博物館
奈良原 一高	スペインー偉大なる午後	7/3～10/13	島根県立美術館
奈良原 一高	王国	11/18～3/1	東京国立近代美術館 ギャラリー4
西村 豊	ハヶ岳山麓の隣人ー栗鼠 冬眠鼠 狐との40年ー	8/1～9/23	長野県・富士見町 高原のミュージアム
西村 豊	京都ずいき祭	10/25～12/27	長野県・茅野市図書館
野口 隆史	STIGMA-烙印-	1/9～1/14	文京区・GALLERY NIW
野町 和嘉	LE VIE DEL SACRO	13/12/14～5/4	伊・ローマ市現代美術館
ハービー・山口	パレスチナ、壁に閉ざされた誇り高き子どもたち	4/24～5/7	アイデムフォトギャラリー「シリウス」
ハービー・山口	子供たちは今日も歌っている	12/4～12/10	オリンパスギャラリー東京
秦 達夫	遠山郷 霜月祭 あらびてでな	12/4～12/10	キャノンギャラリー銀座
浜崎 さわこ	Chose specially Rose	11/19～12/7	リコイメーティングスクエア銀座 ギャラリー A.W.P
原 横 春夫	天地の霊気・樹木	10/10～10/16	富士フィルムフォトサロン東京
原 横 春夫	天地の霊気・水際	11/20～11/26	ポर्टレートギャラリー
日高 勝彦	大森 海苔漁の原風景	3/18～7/21	大田区・大森 海苔のふるさと館2階
平 田 実	ACTION, the 1960s	4/25～5/31	港区・タカ・イシイギャラリーフォトグラフィー/フィルム
福田 健太郎	然	7/2～7/29	会場I アートスペース丸の内、会場II 快晴堂フォトサロン
福田 豊文	マンズリーどうぶつえん写真展	4/4～4/21	キャノンSタワー2階 オープンギャラリー
福田 豊文	Night Zoo -夜の動物園-	7/24～7/30	キャノンギャラリー銀座
藤村 大介	美しき世界の黎明と達魔時	9/23～10/13	豊島区・BIC PHOTO GALLERY
ブルース・オズボーン	Lost Souls	7/2～9/1	渋谷区・ハッセルブラッド・ジャパン ギャラリー
ブルース・オズボーン	ブルース・オズボーンと親子写真ー2014年「親子の日」に出会った親子	9/11～9/24	オリンパスギャラリー東京
細江 英公	細江英公人間写真展	2/8～2/16	葛飾区・かつしかシンフォニーヒルズ本館 [ギャラリー]
堀江 重郎	神々からの伝言	5/29～6/4	オリンパスギャラリー東京
堀出 恒夫	片岡秀太郎専属 堀出恒夫写真展	4/25～5/7	京都市・AMS 写真館 GALLERY1
前川 貴行	animalandscape 1998-2013	1/16～1/28	キャノンギャラリー福岡
増田 彰久	横浜山手 1985	2/1～2/11	横浜市・山手 234 番館 2階ギャラリー
増田 雄彦	STUMPTOWN 2014	3/11～3/29	中央区・EIZO ガレリア銀座
増村 征夫	美ヶ原 冬のファンタジア	1/5～3/23	安曇野市・田淵行男記念館
松井 良浩	世界遺産登録10周年記念 熊野古道・奥駈の祈り	6/12～6/18	キャノンギャラリー銀座2
松原 豊	お白石持行事「伊勢の町楽」	7/23～7/29	伊勢市・いせシティプラザ2階
松本 コウシ	午前零時のスケッチ	12/17～12/29	銀座ニコンサロン
松本 徳彦	迷宮都市・ヴェネツィア	10/24～10/30	富士フィルムフォトサロン東京
水本 俊也	小島の家族	9/20～9/28	鳥取市・鳥の劇場
水本 俊也	小島の家族 in 鳥取砂丘	10/18～10/19	東京都・アーツ千代田 3331
溝縁 ひろし	四国へんろの旅「弘法大師の霊跡」	4/3～4/15	京都市・ギャラリー古都
溝縁 ひろし	先斗町「芸妓・朋ゆき」ー舞妓から芸妓への8年間ー	7/11～7/26	平安女学院サテライトスタジオ
南川 三治郎	「日本の心」第62回 回神宮式年遷宮写真展	5/24～6/22	津市・三重県立総合博物館、ドイツ、アメリカ、イタリア

会 員 名	写 真 展 名	会 期	会 場
南川三治郎	「伊勢の神宮」式年遷宮写真展	8/30～9/21	山形県・白鷹町文化交流センターあゆーむ
宮武健仁	JAPAN SCAPES 日本景-雪月花	9/11～9/17	キャノンギャラリー銀座
三好和義	富士山	4/4～4/17	エフサイト
虫上智	異空間	12/19～12/26	オリンパスギャラリー大阪
本橋成一	フィールド・リフレクション	3/9～5/11	川口市・アートギャラリー・アトリア
本橋成一	上野駅の幕間	3/20～5/2	キャノンギャラリーS・横浜市
森下泰樹	和風総本家 豆助っていいな。展	1/2～1/13	渋谷ヒカリエ・9F ホールB
森田雅章	スモークーマウンテンレポート あのときの子供たちは	9/4～9/10	キャノンギャラリー銀座
柳木昭信	地球・氷河圏	2/11～3/30	横浜市・相鉄ギャラリー
山縣勉	Dried-up	8/22～9/19	北京・ALBA Gallery
山縣勉	Thirteen Orphans	10/28～11/2	バリ・La Quatrieme Image
山口一彦	室蘭の顔～風の人・土の人	7/3～7/9	キャノンギャラリー銀座
山口規子	サルデーニャはおいしい	8/1～8/31	ニコプラザ新宿
山口典利	樹樹	9/2～9/7	名古屋市・ノリタケの森ギャラリー
山村善太郎	暮らしの中の一御神木―	2/5～2/11	中央区・日本橋三越本店 本館1階中央ホール
横島克己	南京町春節祭写真展	1/23～2/25	神戸市・神戸華僑歴史博物館
吉住志穂	天使の輝き	5/2～5/15	フジフィルムスクエア ミニギャラリー
吉田繁	BORDER	7/21～9/21	モクスワ・Lumiere Brothers Center for photography、東京、他
香田純一	書棚	3/11～3/16	港区・ギャラリー SPACEKIDS
若林賢明	甲州の祭り百景	11/22～11/28	甲府市・山梨県立美術館 一般展示室C
和田直樹	湘南茅ヶ崎寫真館	11/5～11/16	茅ヶ崎市・CREATIVE SPACE HAYASHI
渡辺英明	俺様の景色さ	10/14～11/1	tokinon 50/14
物故展（常設展は省略させていただきました）			
(故)秋山庄太郎	キャノンフォトコレクション展 秋山庄太郎写真展	2/25～3/13	港区・キャノンSタワー2階オープンギャラリー
(故)植田正治	植田正治のつくりかた	4/12～6/8	盛岡市・岩手県立美術館
(故)管洋志	一瞬のアジア people and nature in harmony	4/9～4/22	銀座ニコンサロン
(故)土門拳	手	1/20～3/28	中野区・写大ギャラリー
(故)土門拳	よみがえる不朽の名作 土門拳の「古寺巡礼」	8/1～8/13	富士フィルムフォトサロン大阪
(故)土門拳	土門拳 二つの視点 第1部「こどもたち」	10/1～12/1	FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館
(故)土門拳	土門拳 二つの視点 第2部「風貌」	12/2～15/2/2	FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館
(故)林忠彦	日本の作家 109人の顔	9/26～11/25	日比谷図書文化館
(故)藤井秀樹	写真家藤井秀樹展	5/21～5/26	渋谷区・Space Jing
(故)渡辺義雄	伊勢神宮と式年遷宮	4/18～5/11	新宿区・ハイジア1F アートウォール
(故)綿引幸造	季の色-フィルムがとらえた大地	4/8～6/25	鋼路市・北海道立鋼路芸術館

グループ展（会員中心のものを掲載させていただきました）

グループ展名	会員数	会 期	会 場
第34回関西メンバーズ展「記憶」	J P S 会員 105 名	1/6～1/16	富士フィルムフォトサロン大阪、京都市
「118番の日」日本の海を守る海上保安庁写真展	岩尾克治、官野貴	1/11～1/20	横須賀市のさかい屋横須賀店
長野県生まれの写真家たち	会員 12 名、他 10 名	1/30～2/6	ポートレートギャラリー、飯田市
「震災よ！」Ⅲ	花井尊、柿木正人	3/7～3/13	ギャラリー・アートグラフ
もう一度見たい桜	織作峰子、小松ひとみ、鈴木一雄、中井精也、他2名	4/16～5/11	リコーイメージングスクエア銀座ギャラリー A.W.P
文藝絶佳	林忠彦（故）、齋藤康一、林義勝、タカオカ邦彦	4/19～6/29	町田市民文学館ことばらんど
第9回東海メンバーズ展「記憶」	会員 22 名	7/1～7/6	名古屋市・ノリタケの森ギャラリー
密着！五管の海上保安官たち	岩尾克治、官野貴、米田堅持	7/23～9/7	神戸市・神戸海洋博物館／カワサキワールド
関西から写真の力	会員 10 名	8/22～8/28	富士フィルムフォトサロン大阪 ホワイエ
JPS7_2014"my life 3"	会員 18 名	9/3～9/8	リコーイメージングスクエア新宿ギャラリーⅡ
写真家が捉えた 昭和のこども	会員 10 名、他 9 名	9/12～11/9	八王子市夢美術館
Quattro works	島田聡、高村達、山口規子	11/4～11/22	EIZO ガレリア銀座

表彰 (日本写真家協会創立 65 周年記念表彰)

創立 65 周年 (1950 年 5 月 12 日) を記念して、在籍 40 年以上の正会員 233 名を多年の在籍と協力に感謝し、平成 27 年 5 月 22 日の総会会場に於いて表彰した。

在籍 40 年以上の正会員名

青木 勝	大竹静市郎	桑原 史成	須田 一政	夏梅 陸夫	伏木 一彦	森永 純
秋田 好恵	大谷 英之	小池 汪	須田 早苗	西岡 修	藤倉 明治	八木 幸治
秋元 和正	大塚 清吾	肥沼 正一	瀬尾 央	西岡 伸太	藤塚 晴夫	八木 祥光
足立 義峰	大橋 利行	小嶋 昌吉	関口 照生	西山 治朗	藤本 俊一	山口 勝廣
阿由葉しげる	大橋 富夫	小島 卓	高井 潔	西山 雅都	藤森 武	山口 直
荒牧万佐行	大淵 久夫	越間 誠	高木 松寿	仁藤 信義	藤森 秀郎	山崎 1 郎
安藤 清吾	岡 成司	小杉 和弘	高木 康允	根本タケシ	夫馬 勲	山崎 隆
飯島 幸永	小川 忠宏	小林幸一郎	高嶋 淳一	野口 健司	古川 剛尚	山崎美喜男
池 英文	沖 守弘	小林 正典	高槻 徹	野尻 博	古澤 誠一	山路 清美
池田 宏	奥村 正光	小平 博之	高橋 一郎	能津喜代房	帆足 悠兀	山田 勉
イシイヨシハル	尾崎 義治	小山貴和夫	宅見 庄一	野瀬 拓夫	星野 敬三	山梨 勝弘
石橋 幸雄	片岡 巖	小山 幹雄	竹内 敏信	野野 和嘉	星野 小磨	山村善太郎
板垣 宏	勝井 規和	近藤 晃	竹中 勝	野村 英男	前定 賢三	山本偉紀夫
稲田 浩男	勝村 勲	近藤 貴夫	立木 寛彦	羽賀 康夫	前田 廣心	山本 皓一
稲富 均	勝山 武男	近藤 誠宏	田中 長徳	増田 健作	橋本 彰久	山本 宏務
井上 清司	加納 恒彦	今駒 清則	田中 姜雄	橋本 絃二	増村 征夫	横尾 尚
猪俣 重喜	刈部 秀郎	坂井 哲夫	田中丸豊次	橋本 治朗	松野 正雄	横山 健藏
今井 光潔	河合 肇	坂口よし朗	田邊 順一	長谷川 周	松本 徳彦	吉田 昭二
今瀬 実	河相 正名	桜井 秀	田沼 武能	円山 幸志	山本 幸志	義永 庸人
今田 英一	川口 邦雄	佐々木恵子	田村 彰英	ハナブサ・リュウ(英隆)	右高 英臣	吉野 信
今田 保誠	川崎 研	佐藤 理	田村 仁	浜口タカシ	水越 武	若林 賢明
伊丸岡秀藏	川津 英夫	佐藤 紀夫	丹地 敏明	濱田 益水	水谷 章人	若林のぶゆき
岩松喜三郎	川本 武司	佐藤 秀明	千葉 允	早川 澄雄	南 良和	若松 俊雄
植村 正春	木原 尚	佐藤 英世	辻 徹	林 義勝	南川三治郎	和木光二郎
内山 晟	木村 晃造	佐藤 雅英	土田ヒロミ	光 幸國	宮内 勝	和田 州生
宇納 敏	清宮由美子	島田 啓一	坪内 隆直	樋口 健二	宮本 宏	和田 政
羽幹 昌弘	久保 靖夫	島田 治芳	常盤とよ子	日高 勝彦	ムトー清次	和田 光弘
枝川 一巳	久保田富弘	清水 啓二	徳江 彰彦	日奔 貞夫	村西 一海	渡辺 直之
江成 常夫	熊谷 武二	白川 義員	富岡 畦草	平川 幸児	室 靖男	渡辺 良正
榎本 敏雄	熊切 圭介	菅原千代志	富澤 春雄	平田 真雄	室伏 勇	
老川 良一	熊瀬川 紀	杉山 晃造	中川 邦昭	蛭海 進	望月 剛	
大石 二郎	栗林 慧	鈴木 智明	中川 十内	廣田 尚敬	本橋 成一	
大石 芳野	栗原 達男	鈴木 雅雄	中嶋 勇	福田 文男	森 幸一	
太田 好昭	栗本喜久男	鈴木 義明	中村 高美	福永 一興	森田 敏隆	

日本写真家協会 (JPS) 入会のご案内

- 申込時期：2015 年 12 月～2016 年 1 月
- 入会日：2016 年 4 月

- 協会は 1950 年の創設以来、写真家の職能と地位確立著作権の擁護、啓発活動を行っています。
- わが国の写真表現の歴史を綴った「写真 100 年展」「現代写真史展」などを通して、写真表現の変遷を内外に広める活動を行ってきました。最近では「日本のこども 60 年」「おんな」「生きる」と写真の社会性に富んだ写真展、写真集を発行しています。さらに一般公募の「JPS 展」と「名取洋之助写真賞」の実施、写真界に特段の功績を上げられている方々に「日本写真家協会賞」を贈るなどを行い、「写真美術館の創設活動」、写真原板の保存収集・データベース化する「日本写真保存センターの設立」運動など様々なかたちでの文化活動に寄与しています。
- 正会員の入会資格は、職業写真家として 3 年以上の活動実績のある方。正会員 2 名の推薦、保証が得られ、うち 1 名は本会在籍満 5 年以上の正会員の推薦理由書を提出できる方で、入会申込書と資料を添えて 1 月までに提出。入会が内定後、4 月の新入会員説明会に出席することで正会員となります。
- 「入会申込書」は 1 部 1,000 円で配布中。問い合わせ先：協会事務局 03-3265-7451



Topics

The Photo Exhibition “Do you know? Atomic bombings of Hiroshima and Nagasaki” by Japan Photograph Preservation Center finished.

Japan marks the 70th anniversary of atomic bombings of Hiroshima and Nagasaki in this year. In summer, the photo exhibition “Do you know? Atomic bombings of Hiroshima and Nagasaki” held at JCII Photo Salon, Tokyo. More than 8,000 visitors came to the exhibition.

Mr. Yousuke Yamahata photographed for three month in the fields after the bombings on Hiroshima and Nagasaki. The plan of the photo exhibition started from autumn, 2013 when the son of Yamashita asked Japan Photograph Preservation Center (JPPC) to deposit eternally the collections of his father’s 3 rolls (78 photos) of films of Nagasaki bombings. The photo exhibition was composed of 11 photographers’ (Mr. Yoshito Matsuhige, Shunkichi Kikuchi, Hajime Miyatake and others) photos that showed in the fields of bombings on Hiroshima and Nagasaki, for three month right after the bombings. The silver prints that were created by valuable original negative films showed forces of miserable and horrible spectacles that could not have seen in other printing materials.

Visitors were stricken with the shocks, frights and fears by what they saw in the photos. The photos brought tears. Many say, we should repeat this exhibition as the memories of variable records. The photo exhibition will be held in Cologne, Germany, at the exhibition venue of Japan Foundation and other German cities.

“Ikiru (To Live), Post-tsunami” photo exhibition tour in Germany, finished.

The photo exhibition presented by 160 photographers showed the scenes for one year after the Great East Japan Earthquake. The exhibition traveled 6 venues in Germany, started from Photokina, September 2012. 34,000 people visited totally. The photo exhibition was realized with great efforts by Ms. Tokiko Kiyota, Former Director, Japan Cultural Institute in Cologne, The Japan Foundation. Here is her statement. “Germans have thought the memories were very important. The photo exhibition tour was very impressed for them. The force of photos was so influenced. Through these photo exhibitions, visitors read the photo captions very courteously. The comments of photographers helped the understandings of disastrous scenes. All the visitors thought “What can we do for?” There will be long way for the re-construction. We extend our deepest sympathies for both the people and areas affected by this disaster. We should think and behave what kind of cooperation can be done.”

The Photo Exhibition Venues

- Oct. 2012, The Japan Cultural Institute in Cologne
- Apr. 2013, City Hall of Gmunden, Austria
- Jun. 2013, Museum of Modern Art, Halle
- Oct. 2013, Theodor-Zink-Museum, Kaiserslautern
- Mar. 2014, Universität Duisburg-Essen, Essen
- Sep. 2014, Reiss-Engelhorn-Museen, Mannheim

About the Japan Professional Photographers Society

The Japan Professional Photographers Society was established in 1950. Through its activities it strives to define the role of the professional photographer and secure copyright protection while working to develop photographic culture. In 2001 it received recognition as an Incorporated Body from the Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology, in March 2011 it was officially recognized as being a Public Interest Incorporated Association by the Prime Minister’s office, and since April 1 of that year it has been active under the title, Japan Professional Photographers Society, Public Interest Incorporated Association.

Since its foundation, the society has succeeded in receiving an extension for the period of copyright protection (to 50 years after the death of the artist), held numerous exhibitions concerning photographic history and expression (A Century of Japanese Photography, History of Japanese Contemporary Photography, Sixty Years of Japanese Children, Women, etc.), and published numerous books on photographic history and collections of photographs. In order to contribute to the promotion and development of photographic culture, it holds the JPS Exhibition as an open exhibition, presents a nationwide Photography Study Pro-

gram for elementary school students, the Photo Forum that aims to develop photographic expression, Digital Photography Lectures for the advisors of high school photographic clubs, and presents the Yonosuke Natori Photographic Award to uncover and foster new talent. At the same time, it carries out a wide range of activities to contribute the development of photographic culture, such as: cultural exchange with overseas photographers, PR through publishing and information dissemination via the Internet.

Furthermore, it presents the Japan Professional Photographers Society Award in recognition of individuals or organizations who have achieved notable achievements in the development of photographic technology, education, or critique.

The Japan Professional Photographers Society has devoted itself to the establishment of photographic museums, such as the Tokyo Metropolitan Museum of Photography, and is currently actively working towards the creation of the ‘Japan Photographic Preservation Center’ (archive) for the collection and preservation of original photographs.

Japan Professional Photographers Society

JCII Bldg. #303, Ichibancho 25, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0082
 Tel: +81-3-3265-7451 Fax: +81-3-3265-7460
 E-mail: info@jps.gr.jp Web site: <http://jps.gr.jp/int/index-e.html>



大竹 省二 名誉会員

2015年7月2日逝去。95歳。

昭和25年入会。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

大竹省二氏は1953年、当時新進気鋭の写真家として活躍していた林忠彦、早田雄二、秋山庄太郎、の各氏と共に二科会に「二科会写真部」を創設されました。以降、二科会の写真部門として「二科会写真部展」を毎年開催している。2009年、一般社団法人二科会写真部の理事長に就任、理事長・創立会員として積極的に会を運営してきました。JPS創立会員で、2000年に名誉会員に推挙されました。

創立会員大竹省二氏の死を悼む

田沼 武能

写真界の巨匠がまた一人亡くなった。残念である。

大竹省二さんは終戦後中国から復員し、昭和21年からGHQ(連合国軍総司令部)広報部の嘱託となり、アメリカから米兵の慰問にきた歌手や女優の写真を撮り、その後の氏の写真基盤になったように思う。24年に秋山庄太郎、稲村隆正氏らと「青年写真家協会」を結成し、私もこの協会に参加した。そして昭和25年、「写真家集団」と「青年写真家協会」が発展的解消し「日本写真家協会」が誕生し、創立メンバーの一人となっている。昭和28年には林忠彦、秋山庄太郎、早田雄二氏らと二科会写真部を創立するなど写真界の近代化に寄与した。

女性を撮らせたならピカイチの写真家であり、作品はモダンな雰囲気を持ち、その日本人ばなれた写真は女性雑誌のグラビア頁を色どる花形写真家私たちのセンボウのマトであった。

女性写真のみならず、来日する世界的な音楽家の写真を撮り続け、作品集にまとめている。また、写真にフォトストーリーを取り入れるなど新しいジャンルを切り開く特出した写真家でもある。

一方、ダンディーな容姿と才能から、映画「砂の器」や「わるいやつら」に俳優として登場しており、自らも映画を製作し、テレビとコラボレーションした主婦やOLのヌード(美しい裸像の思い出)写真を番組にとり入れ、TBSの手相診断にも出演するなど、その多彩な才能は他の写真家とは一味違うアイデアの持主である。

毎年、大竹省二氏を中心に「スズメの会」という写真展が開かれており今年で16回を迎えている。今年は新宿の富士フォトギャラリー新宿で4月に行われた。そのオープニングパーティー会場へ大竹氏も車椅子で出席され、元気に挨拶をされたが、それから間もない7月2日、心原性脳塞栓症で急逝された。よき先輩を失い心が悼むばかりだ。ご冥福を祈ります。合掌



丹野 章 名誉会員

2015年8月5日逝去。89歳。

昭和34年入会。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

丹野章氏は日本大学芸術学部卒業。金丸重嶺氏、大内英吾氏に師事。1959年から1961年まで写真家集団[VIVO]に参加。写真著作権の確立・擁護に尽力し、日本写真界の発展に多大な貢献をされました。著作権法100年記念特別功労者、文化庁著作権審議会委員。JPSでは、40年間にわたり理事等を務めて積極的に協会運営に携わり、1999年に名誉会員に推挙されました。

男気、勇気、透徹した思想、そして人間愛をもっていた人……

小松 健一

丹野章さんがこの夏、突然に逝ってしまった。まるでいつものフラッと旅に出るように……。

僕は亡くなる6日前に、奥様から「丹野が小松さんと呼んで欲しいと言っています」という電話を受け、八王子市郊外にある大学附属病院へ駆けつけた。

集中治療室にいた丹野さんはすこぶる元気で、持っていた広島・長崎の原爆写真集の刷り出しをうれしそうに眺めていた。

そして9月の禅フォトギャラリーでのオリジナルプリント展、同時出版する写真集「昭和曲馬団」、10月のアート・スペース Leafでの「世界のバレエ」オリジナルプリント展をはじめ、日本写真著作権協会のこと、日本写真家協会、日本リアリズム写真家集団の草創期の頃のこと、日本写真家ユニオンの将来のことなど、3時間余り話し続けた。僕がもう疲れるからと帰ろうとすると、あと1時間だけ話そうとまるで青年のように熱かった。まさか、これが最後の別れになるとは想像できなかった。あと数日で卒寿。これで白寿までは

行けると思った。本人もそう思っていた。僕の方が先に行って待っている可能性もあるとも真面目に思った。

丹野さんとは44年間の付き合いになる。彼の合理的な思考、先見性があり理路整然とした弁舌。酒席などにはあまり付き合うことがないという具合だったから、若かった僕は丹野さんを敬遠していた。それがある事件がきっかけとなり、真意が理解できるようになったのだ。まず、丹野さんの演歌調な義理人情ではない、真の男気を見た。相手がどんなに巨大であろうと決して怯まない勇気も見た。未来を洞察する透徹した思想を知った。そして、人間愛にあふれるやさしさを知ったのである。以来、他人から見ると「小松は丹野の弟子」と思われるくらい意気投合した。時には怒鳴り合いをしたこともあったが……。

僕が一番残念に思っていることは、実は丹野さんから写真について何ひとつ学んでいなかったことだ。人生の師としては、背中を見つけてきたのだが、今度、九泉でお会いした時にはじっくりと写真表現について、教えを請おうと思っている。合掌



菅井 日人 正会員

2015年5月30日逝去。
70歳。
昭和52年入会
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

「サヨウナラ、日人さん」

齋藤 康一

5月30日朝、明子夫人から午前3時、日人さんが逝去されたとの連絡をいただいた。日人さんは日本大学芸術学部映画科を卒業、朝日TVニュース社、日経映画社を経てフリーの写真家として独立。1981年写真集「聖フランシスコはいま」から遺作となった「天国の窓」まで20冊の写真集を出版。写真展も20回(地方も含めると27回)開催している。

10年前、写真家仲間とゴルフを楽しんでいる最中に脳内出血で倒れ入院。下半身麻痺となり以後車椅子生活となったが、その間にも明子夫人の献身的な協力で2回の個展、写真集も出版。闘病以前には99回の外国取材。100回目は地上を離れた取材となってしまった。私が日人さんと知り合ったのは、1978年彼がJPSに入会されてからだが、人との付き合いがアタカイと言った印象だった。JPSに於いては企画委員として1995年度のJPS展実行委員長の重責も果たされている。

日人さんはスポーツ万能、特にスキーの名手だった。JPSスキーには入会当初からやはり写真家の明子夫人同伴で参加。お二人共明るく楽しい人柄で参加している子供達に自分の滑りはそっこのけで面倒を見てくれた。

日人さんの父上は俳優で黒澤映画にも度々登場した名脇役菅井一郎氏。そんな環境で育ったせいもあってかダンディで格好良かった。世田谷の赤堤に生まれ育ち、近所の赤堤教会に通い、カブスカウト、ボーイスカウトに所属。少年達の憧れの的だったと聞いている。車椅子生活になって約10年、明子夫人に車を押されながらも友人の写真展には出来る限り見に行き、最後まで人との和を大切にされた人だった。赤堤教会で洗礼を受け、結婚式も挙げ2年後には金婚式の前定だったが、その前に別の式となってしまった。日人さん、ご冥福をお祈り致します。サヨウナラ。



塚原 紘 正会員

2015年7月22日逝去。
75歳。
平成24年入会
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

厳しい批評をする先生

大塚 努

塚原さんからいただいた今年の年賀状に「昨年は皮膚がんで入院病院の一年でした」と記されていました。ただ「身体は大方回復しました、カメラを持つと元気になります」ともあり、良かったと思っていたのですが、再発、悪化してしまったようです。毎年、初夏に奈良市の春日大社境内にある鹿の保護施設「鹿苑」で子ジカが誕生するのですが、その「奈良公園デビュー」を撮りたいと、病身をおして出かけたのが最後の撮影となったそうです。奈良を愛した塚原さんらしいエピソードです。

塚原さんはアマチュア写真家の指導にも熱心でしたが「厳しい批評をする先生」と聞いたことがあります。温厚でいつもニコニコ、笑みを絶やさない塚原さんだったので、きっと教え方も優しいのではと想像していたので、これはちょっと意外でした。しかし考えてみると、それだけ写真に対し情熱と厳しさを持っていたんだと、今にして思います。



天野 尚 正会員

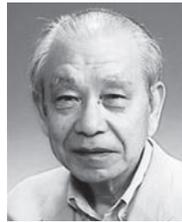
2015年8月4日逝去。
61歳。
平成21年入会
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

世界的な環境写真家

上山 益男

天野さんが8月4日午後11時18分、死去した。この一報を知ったのは翌日、私が講師をする新潟デザイン専門学校から「たった今TVで流れた」の確認問い合わせでした。「えっ、やっぱり・・・」と言葉が詰まりました。天野さんは16年間元プロ競輪選手でもありガッチリの大体型でしたが、最近は何となくスリムになっていきました。このことはTVの姿を見た県民の声でもあります。

私との出会いは2000年9月の元社員・渡部佳則君(JPS会員)の出版パーティーです。前後して富士フィルム発行ProVALVEの裏表紙に「大型カメラで原初の風景に挑戦す」の天野さんを見たからでした。「新潟にも世界をフィールドに活躍するすごい写真家がいる」と思いました。会社は水草栽培「自然の生態系を水槽に表現する」経営。講演・セミナー等の紹介時に「水槽屋の社長」とよばれるので写真家の肩書が欲しいということでJPSに入会されました。会社にお邪魔すると、佐渡の原生林の半切プリントを机の上にドサッと置いてあり見せてくれました。その中から間もなく2008年の北海道洞爺湖サミット晩餐会の会場に「金剛杉乾立(きつりつ)」が展示され世界の注目を集めました。2009年5月天野さんに会長になってもらい(社)IEPA世界環境写真家協会を設立しました。世界37カ国113名の写真家が登録されています。各地で写真展を開催しており、個展も数多く2013年9月新潟市の朱鷺メッセで開催された「視力6.0の世界」は会場の広さ・数・大型プリントで圧巻でした。アマゾンを始め世界各地を飛び回っていましたが、ふる里巻町をこよなく愛し、最後は病院から自宅に戻ってまもなく息をひきとりました。胃がんと闘い敗れたのです。皆を楽しませる冗談はもう聞くことが出来ません。天野さんありがとう。合掌



渡辺 関靖 正会員

2015年8月14日逝去。
78歳。
昭和62年入会
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

静かな中の熱い情熱・渡辺関靖さんを偲んで 山口 勝廣

思い起こせば30年程も前のことである。1986年、JPS展を初めて新潟伊勢丹で開催することになり、東京の実行委員数名が応援に駆け付け、新潟展実行委員と交流した。その折、新潟展実行委員長であり、新潟県写真家協会の会長でもあった故小林新一氏より紹介を受けたことが初めての出会いであった。話の中で、東京のベースボールマガジン社の写真部に勤務していたと聞いて、小生の義父が野球評論家でベースボールマガジン社の池田雄雄社長とも親しく、本誌にもよく寄稿していること、また、小生が名古屋の少年ドラゴンズの会員であったことなどを話し、一気に距離が縮まり、野球のこと、写真のことなど夜を徹して熱く語り合ったことが昨日のことのように思われる。

JPSに入会以降は、総会や協会行事には必ず顔をだし、旅行誌などの取材や新聞社系の旅行ムック誌のご紹介、新潟の酒蔵の取材などをお願いしたこともあり、写真家としても出版関係の世界でも、親しいお付き合いが続いた。いつのことだったか、お会いしたときに随分痩せておられたので体調を崩されていたのでしょうか、ご本人は「ちょっと大きな病気をして静養していました」と語っていらした。

「もう、以前のような頑張りはいけません」と静かな物言いの中にも、政治や市議会議員の話などを積極的に話される姿には、以前にもまして秘められた情熱を感じ取っていた。

ここ暫くはお会いすることもなく時間が過ぎていったが、政治方面でもご活躍のこととお聞いていた。事務局からの、突然の訃報に吃驚、声もありません。どうぞ安らかにお眠りください。合掌



山岡 正剛 正会員

2015年9月1日逝去。
58歳。
平成11年入会
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

追悼 山岡正剛さん

中田 昭

山岡さんとの出会いは、彼が京都の光芸荘に勤めアシスタントとして働いておられた頃で、もう30年以上遡ることになります。お祭りなどの撮影現場で、長身の青年がキビキビと動いていた姿が今もよみがえってきます。独立してフリーの写真家となってからは、行政や観光方面の媒体で活躍しながら、京都をテーマに撮影を続けておられました。

一昨年(2013)気心の知れた京都のJPS仲間6人で「京都四九八九 百八景」のタイトルでグループ写真展を行い、京都から東京へと巡回し写真集の出版「IN KYOTO(光村推古書院刊)」にもつながってゆきました。プロフィール写真を神崎順一氏のスタジオで互いに撮影しましたが、まさかその時の写真が遺影になるとはメンバーだれもが想像できませんでした。

15年ほど前、白血病を発症し骨髄移植を受けたあと長い闘病生活をへて奇跡的に復活、写真家生活を再出発し順調に仕事もこなしながら各方面で活躍しておられました。昨年、残念なことに病が再発し、最近入院されたので、写真展グループ全員で励ましのお見舞いに行こうと日時まで決めていた矢先、悲しい知らせが届きました。

「57歳の若さ、写真家として撮り残したことや無念の思いがあったかもしれませんが、最期は安らかに息を引き取りました」と奥様からお聞きしました。通夜の折には愛息の涼君が遺志を継いで写真家を目指すとのこと、どうか息さんが写真家として成長されてゆく姿を天国から見守りください。心よりご冥福をお祈り致します。9月1日逝去。合掌

経過報告(2015年2月~4月)

- ◎2月20日 三団体懇談会
PM6:00~8:00 一般社団法人日本写真文化協会
- ◎2月20日~26日 2014年第10回「名取洋之助写真賞」受賞作品写真展(大阪展)
富士フィルムフォトサロン大阪 入場者3,126名
- ◎2月28日 第3回著作権研究会
PM1:30~4:30 東京総合写真専門学校 203教室 参加者81名
◎「身につけよう 著作権の正しい知識」~写真の創作・表現・伝達を続けるために~
- ◎3月2日 第32回公益社団法人日本写真家協会理事会
PM2:00~3:00 JCH 会議室 18名、欠席2名、監事2名
○第1号議案:平成27年度事業計画案の件 第2号議案:平成27年度収支予算案の件 第3号議案:平成27年度新入会員承認の件 第4号議案:「日本写真家協会入会規程」一部変更案の件、他
- ◎3月4日~8日 2014年第10回「名取洋之助写真賞」受賞作品写真展(福島展)
福島市民ギャラリー 入場者68名
- ◎3月20日 第5回技術研究会
PM1:30~4:30 大阪本町・愛日会館2F イベントホール 参加者70名
○紙に合わせたプリント術~ピクチャー開発者が語る~
- ◎4月6日 平成27年度新入会員説明会
PM1:00~4:30 JCH 会議室 新入会員34名、役員13名、委員10名、賛助会員22社32名
- ◎4月13日 日本写真保存センター支援組織会議
PM1:30~3:30 JCH 会議室 支援組織会員11社14名、JPS6名
- ◎4月14日 第40回2015「JPS展」文部科学大臣賞受賞者インタビュー
PM1:00~3:00 JCH 会議室
○受賞者:大浦美保(おおうらみほ)さん
- ◎4月15日~28日 2014年第10回「名取洋之助写真賞」受賞作品写真展(仙台展)
ニコプラザ仙台台フォトギャラリー 入場者354名
- ◎4月17日 第1回国際交流セミナー
PM6:00~8:00 国際機関 日本アセスンセンターホール 参加者40名
○タイ国撮影情報セミナー

編集後記

◎30年以上にわたり雑誌の世界で仕事をしてきましたが、使用カットを決定した後の編集作業にかかわることは一切なく、編集用語もわからない状態で担当に…。今回、会報160号で実質的に初めての編集作業に加わったのですが、エキスパート揃いの出版広報委員のおかげで無事、編集作業を終えることができました。(加藤)

◎7月23日猛暑の中をアフリカ取材に出発。高原の国ルワンダに3週間滞在。20年前の民族紛争と大屠殺から立ち直り、今はツチとフツは共存・共生の道を歩んでいる。次に向かったガーナは赤道に近いが雨季のためか、夜はエアコンいらずで過ごせた。「夏はアフリカに避暑」が現実味を帯びてきた。(飯塚)

◎前号でお知らせしたエプサイトでの企画展には37名もの応募をいただきありがとうございます。素晴らしい作品ばかりでしたが、会場の都合もあり、8名のかたを選考いたしました。現在エプサイト内のプライベートラボを利用して作品制作が進められているところです。来年1月29日から始まる企画展にぜひご来場ください。(関)

◎今号のメッセージボードでは在籍40年以上の会員皆様からのコーナーが併設され、5ページでの紹介となりました。写真表現や機材、写真家の地位の激動発展時代に関わられてきた先輩方々の話を拝読し、改めて現在の恩恵を受けているありがたさを痛感いたしました。(小野)

◎JPS創立65周年記念事業「日本の海岸線をゆくー日本人と海の文化」の詳細が決定した。周りを海に囲まれた日本ならではの歴史と文化、地理や環境問題にも目を向けた内容となっている。実行委員の一員として、目の前には写真集の編集という大仕事が待ち構えている。(小池)

◎成績不振やその他の理由で監督・コーチはもちろん、選手がトレードされたりするのはスポーツの世界で良くあること。しかし迷走する東京五輪の諸問題では未だそういった光明が見えない。なんかそういう状況自体が「スポーツじゃないな」と思う今日この頃。(小城)

◎今年の仲秋の名月は、スーパームーンということもあって、FacebookなどのSNSには実に多くの画像がアップされていた。最近のFacebookでは、過去の同じ日にアップした情報が時々表示される。昨今の今頃は、フォトキナ会場にいたのだそうだ。(柴田)

◎この会報では、賛助会員トピックスを長く担当していますが、2000年以後のデジタル時代になってからのカメラの進歩には、驚くほかりません。35mmタイプでも画素数は5000万画素を超えましたし、ISOは409600まで行きました。5年後の東京オリンピックの頃は、どんな機材で撮影しているのでしょうか。(伏見)

◎連日のようにメーカーからリリースを頂く。もちろん、性能は右肩上がり。群雄割拠の様相だ。喜ばしい反面、ボリュームたっぷり。35ミリフルサイズ用レンズが、中判カメラ用並みであるのも珍しくない。画質向上という進化とトレードオフに、写真家はこれまで以上に身体作りが大切になりそうな予感…。(桃井)

◎子どもの成長にあわせて仕事場が隅に追いやられてつまる。一部屋占有していた暗室は仕事部屋に合併、リビングにはおもちゃ棚ができた。家庭を持つとはこういうことかとしみじみ。あぁ。(山縣)

日本写真家協会会報 第160号 (年3回発行) 2015年10月20日 印刷・発行 ©編集・発行人 熊切圭介

URL <http://www.jps.gr.jp/> Email info@jps.gr.jp 本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます

頒価 1カ年・3回 3,500円(消費税・送料共込)

出版広報委員 加藤雅昭(理事)、飯塚明夫(委員長)、関 行宏(副委員長)、小野吉彦、小池良幸、小城崇史、柴田 誠、伏見行介、桃井一至、山縣 勉

発行所 公益社団法人日本写真家協会 (JPS)

〒102-0082 東京都千代田区一番町25番地 JCH ビル303 電話 03 (3265) 7451 (代表) FAX 03 (3265) 7640

印刷所 株式会社光邦

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3丁目11番18号 飯田橋 MK ビル 電話 03 (3265) 0611 (代表)

あり得ない！！

MASH

+

MASHmanagement

+

MASHcreative

広告系の写真を生業としている弊社からみると、信じられない事が報道写真の世界で起こっているようです。

少し前ですが、世界報道写真財団が主催する報道写真コンテストには今年、前例がないほど多くの「加工された写真」が持ち込まれ、最終選考の一步手前まで残った写真の20%が、過度の加工を施していたために失格となった。昨年の3倍だった。との発表がありました。

ご存じのように、広告系写真は色々と手を入れてあります。受けて側も、それを前提条件として広告系の写真を見る土壌が、社会にはすでにあるようです。

でも、新聞の事件写真や報道写真は違うと思っています。写真が写真としてなりたっている世界だと信じていたのですが、それが違うようです。

映画「フォレスト・ガンプ」以降、写真の証拠能力は無くなったと、聞いた事があります。

社会の矛盾や問題を告発する報道写真で写真に過剰な加工があったのでは「信用」まるつぶれです。

JPSの皆さん「守るべき一線」心のなかにしっかりとお持ちになっていると信じています。

株式会社マッシュ

市ヶ谷スタジオ・オフィス
東京都新宿区市谷本村町 2-23
京都荘ビル B1
〒162-0845
TEL 03-3269-6368
FAX03-3269-1774

原宿マネージメントオフィス
東京都渋谷区神宮前 6-35-3
コーポオリンピア #317
〒150-0001
TEL 03-6418-0886
FAX03-6418-0887

www.mash.vg / info@mash.vg

写真公募展
第41回 2016

JPS展

2016 The 41st Exhibition of the JPS 日本写真家協会

主催 公益社団法人
日本写真家協会

後援 (予定) 文化庁

東京都

東京都写真美術館

2015 受付期間 2016 ※最終日消印有効
● 12/15(火) - 1/20(水)

テーマ 自由

応募部門 一般部門 / 18歳以下部門

応募サイズ A4または六つ切プリント

応募資格 アマチュア、プロフェッショナル、年齢、性別、国籍を問いません。
ただしJPS会員は除きます。

審査員 熊切圭介 (審査員長) 宮澤正明 山口規子 吉村和敏 佐々木広人 (「アサヒカメラ」編集長)

- 入賞、入選作品は東京都美術館・愛知県美術館・京都市美術館別館にて展覧会を開催予定
- 応募要項をご希望の方はハガキ、FAX、メールで、下記までご請求ください。

公益社団法人日本写真家協会 第41回2016 JPS展

〒102-0082 東京都千代田区一番町25番地 JCIIビル303

TEL 03-3265-7453 FAX 03-3265-7460 e-mail: info@jps.gr.jp

*JPSホームページから応募要項のダウンロード、メールマガジンの登録ができます。

www.jps.gr.jp



2016年
第12回

名取洋之助 写真賞

社会の動向に
鋭い視線を投げかけ
情熱を燃やす
新進写真家へ！

2016 受付期間 ● 7/1(金) - 8/20(土) (必着)

応募資格 プロ、アマを問わず、35歳まで (1981年1月1日以降生まれの方)

応募規定 発表、未発表を問わず、六つ切またはA4サイズの同一テーマ作品 (プリント) 30点を提出

審査員 飯沢耕太郎 (写真評論家) 広河隆一 (フォトジャーナリスト) 熊切圭介 (日本写真家協会会長)

表彰・賞金 名取洋之助写真賞1名 (賞金30万円 + 受賞作品 写真集)
名取洋之助写真賞奨励賞1名 (賞金10万円)

- 受賞作品は東京・大阪の富士フィルムフォトサロンにて受賞作品 写真展開催予定
- 応募方法・応募要項はJPSホームページをご覧ください。

写真公募のご案内

作品 募集

応募要項は当ホームページからダウンロードできます

www.jps.gr.jp



At the heart of the image



ニコン史上 最高画質

総合画質を極めた 3635 万画素

撮像素子、画像処理エンジン、ピクチャーコントロールシステム、そして、高解像 NIKKOR レンズ。総合画質を極めたニコンだからこそ表現できる世界がある。シーンを選ばない、被写体を選ばない圧倒的な撮影力。総合画質のニコン D810。

デジタル一眼レフカメラ

D810

■ 有効画素数3635万画素 ■ 新開発のニコンFXフォーマットCMOSセンサー ■ 画像処理エンジン EXPEED 4 ■ 常用撮像感度 ISO 64~12800 ■ 進化したピクチャーコントロールシステム ■ 高精度 AF ■ 電子先幕シャッター ■ 約5コマ/秒*の高速連続撮影

*CIPAガイドライン準拠。FXフォーマット時。DXフォーマットでEN-EL15以外の電源使用時は約7コマ/秒。

D810 価格: オープンブライズ

D810 24-85 VR レンズキット 価格: オープンブライズ 内容: D810、AF-S NIKKOR 24-85mm f/3.5-4.5G ED VR

D810 24-120 VR レンズキット 価格: オープンブライズ 内容: D810、AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR

●記録媒体は別売です。



ニコンカスタマーサポートセンター
0570-02-8000

一般電話からは市内通話料金でご利用いただけます。営業時間9:30~18:00(年末年始、夏期休業等を除く毎日) ●おダイヤルがご利用いただけない場合は、(03) 6702-0577 におかけください。 ●ファクシミリでのご相談は、(03) 5977-7499へご連絡ください。

www.nikon-image.com | 株式会社 ニコン・株式会社 ニコン イメージングジャパン

9000万本
NIKKOR

RICOH
imagine. change.

孤高の頂へ。

見る者を圧倒する、解像力。
そして豊かな諧調と描写力。
画質と機動性の両立を図り、
645Zは未知なる領域に挑む。

PENTAX 645Zの特長

- 有効約5140万画素&43.8×32.8mm大型CMOSセンサー
- -35~125°のチルト式液晶モニター&ライブビュー
- 連続撮影約3コマ/秒、クイックビュー高速化(645D比)
- IMAGE Transmitter 2により撮影画像をPCへ高速転送
- Full HD動画撮影&4Kインターバル動画撮影
- 防塵・防滴構造 & 高耐久メカ機構

PENTAX
645Z

FUJIFILM

Value from Innovation



フィルム。 実感する写真。

カメラに装填したフィルムを巻上げる独特のリズムと緊張感。
シャッターチャンスをもたらすのは、知識と経験、そしてわずかな幸運。
仕上りはスライドやプリントで、確かな作品として残る。リアルな手応えと、
180年余りにおよぶ銀塩写真文化を継承する実感がここにあります。

いま、銀塩写真を堪能するために。富士フィルムのプロフェッショナルフィルム・ラインナップ。



フジクローム ベルビア 50
135(35mm 36枚撮) 1本/5本パック
120(6×6cm 12枚撮) 5本パック
220(6×6cm 24枚撮) 5本パック
シート(20枚入) 4×5/8×10



フジクローム ベルビア 100
135(35mm 36枚撮) 1本/5本パック
120(6×6cm 12枚撮) 5本パック
220(6×6cm 24枚撮) 5本パック
シート(20枚入) 4×5/8×10



フジクローム プロビア 100F
135(35mm 36枚撮) 1本/5本パック
120(6×6cm 12枚撮) 5本パック
220(6×6cm 24枚撮) 5本パック
シート(20枚入) 4×5/8×10



フジカラー プロ 400H
135(35mm 36枚撮) 1本
120(6×6cm 12枚撮) 5本パック



ネオパン アクロス 100
135(35mm 36枚撮) 1本/3本パック
120(6×6cm 12枚撮) 5本パック
シート(20枚入) 4×5/8×10

その他：フジクローム プロビア400X 135(35mm 36枚撮) 1本/5本パック 120(6×6cm 12枚撮) 5本パック、フジカラー 160NS 120(6×6cm 12枚撮) 5本パック 220(6×6cm 24枚撮) 5本パック シート(20枚入) 4×5/8×10

●フィルムについてのお問合せは…富士フィルム イメージングシステムズ株式会社 プロ営業支援グループ 〒141-0031 東京都品川区西五反田3-6-32 TEL.03-6417-3769

●富士フィルム製品のお問合せは…「お客さまコミュニケーションセンター」まで。TEL.050-3786-1711 受付時間：月～金/9:00～17:40、土/10:00～17:00(日、祝日、年末年始は休み)

堀内カラーのネットオーダーサービス



大サイズプリントとパネル加工を同時にオーダー

高品質なフォトアルバムやポートフォリオの制作に

インクジェット・プリントを極める

ネット@ザ・プリント

銀塩の表現力を最大限に活かしたラムダプリントで、作品表現に最適な組み合わせが選べ、ドライマウント・マットパネル・アルミフレームのパネル加工も同時に注文できます。

プリント

- ペーパー：コダックプロ、メタリックの2タイプ
- サイズ：六ツ切～B1までの19タイプ
- フチ取り：白フチ、黒フチ、フチなしの3タイプ

パネル加工

- 高級アルミフレーム（額縁/シルバー、ブラック）
- マットパネル（オフホワイト、ブラック）
- ドライマウント

ネット@ザ・フォトアルバム

多彩な編集機能と仕様でさまざまな用途に合わせ、表紙はハードとソフト、本文は高級銀塩写真とオンデマンド高精細印刷の各2タイプでオリジナリティ溢れる作品集ができます。

<PRO> シリーズ

- 高級写真タイプ：銀塩光沢印画紙+液ラミ
- サイズ/ページ：160SQ、A5、197SQ、A4、10～50p
- カバー：ソフト（ブックケース付）、ハード（くすみ表紙）

<ENJOY> シリーズ

- 高級精細印刷タイプ：表紙/マットPP加工
- サイズ/ページ：200SQ、A4、20～50p
- カバー：ソフト（並製本）、ハード（上製本）

ファインアート・プリントサービス

作品イメージを極限まで表現した「ファインアート・プリント」を国内外有数の7種類のアーティスト用紙でご提供します。

漆喰の特性をインクジェットに生かす
《プレスコジクレ》

- タイプS（スムーズ）/タイプR（ラフ）

繊細さと優雅さが特長の

《ハーネミューレ・ファインアート》

- ファインアート・パライタ/フォトラグ

インクの重なりが表情豊かに仕上げる

《ヴァンヌーボ》 ●ファインアート・ヴァンヌーボSW

柔らかで優しい印象に仕上げる

《伊勢和紙 Photo》 ●雪色/芭蕉

個展・グループ展などの開催を受けています。



HCL フォトギャラリー新宿御苑

東京都新宿区新宿 1-6-5 ☎03-3226-9602

- 平日=10:00～19:00 ●土曜=10:00～17:00
- 最終日=10:00～15:00 ●休館日=日曜・祝日・年末年始
- 地下鉄丸の内線「新宿御苑前駅」新宿門口より徒歩1分



HCL フォトギャラリー名古屋

名古屋市中区錦 1-11-20 大永ビルディング 2F ☎052-211-6151

- 平日=9:00～18:00 ●土曜=9:00～17:00
- 最終日=9:00～13:00 ●休館日=日曜・祝日・年末年始
- 地下鉄鶴舞線・東山線「伏見駅」10番出口より徒歩1分

堀内カラー

フォトアートセンター

東京都杉並区和田 1-6-7 ☎(03) 3383-3358

フォトイメージングセンター（旧新宿事業所）

東京都新宿区新宿 1-6-5 ☎(03) 3226-9581

青山サービスセンター

東京都渋谷区神宮前 3-41-6 ☎(03) 3479-5351

神田サービスセンター

東京都千代田区神田小川町 2-6-14 ☎(03) 3295-2191

東京サービスセンター

東京都杉並区和田 1-6-7 ☎(03) 3383-3321

名古屋サービスセンター

名古屋市中区錦 1-11-20 ☎(052) 211-6151

関西営業部

大阪府北区万歳町 3-17 ☎(06) 6313-2351

サービスの詳細やご注文はホームページから…www.horiuchi-color.co.jp

堀内カラーフォトコンテスト 作品募集

- テーマ：《ノンジャンルの部》《ネイチャーの部》
- 応募期間：平成27年10月1日(木)～11月30日(月) 当日消印有効
- 応募資格：アマチュア写真愛好家
- 応募作品：サイズA4/四ツ切・ワイド四ツ
カラープリント/モノクロプリント
(銀塩/インクジェット)
単写真のみ/複数応募可
- 審査員：沼田 早苗



前回金賞 堀内カラー賞「朝霧」久保田 稔

アマチュアの皆様にお勧めください

- 賞金 10万円+あなたの個展が2か所で開けます
金賞 堀内カラー賞は賞金+HCLフォトギャラリー新宿御苑と名古屋での個展開催権を進展
- プリント割引キャンペーン開催
応募期間中、弊社ネット注文や店頭注文が通常価格の20%～40%OFF

- 詳細はホームページで：<http://www.horiuchi-color.co.jp>
- お問合せ：堀内カラー フォトコンテスト係 ☎03-3295-1083



PRIVATE LAB

日本写真家協会会員の企画展開催が決定!! 「プライベートラボ」での作品制作が進む

エプサイトでは日本写真家協会会員8名によるグループ企画展「プライベートラボ活用写真展」(仮称)を2016年1月に開催いたします。写真展に向けた作品制作が「エプソンイメージングギャラリー エプサイト」内にあるプライベートラボで進んでおり、お二人の作家にお話を伺いました。

内野 志織 (うちの・しおり)さん

山好きの父親の影響で幼少の頃から登山や風景写真の魅力に触れる。1999年から2007年までオーロラに魅せられ拠点をカナダに。写真集に『オーロラ/瑠璃色のシンフォニー』。(公社)日本写真家協会会員
<http://www.lapisnight.com/>

—作品について説明してください。

内野：2013年にアイスランドで撮影したオーロラの写真です。その国の特徴的な風景と一緒にオーロラを収めたいというテーマでカナダで10年ぐらい撮影していたのですが、今回はアイスランドを訪問しました。

—オーロラの魅力はなんですか？

内野：やはり色ですね。太陽の活動が活発になって太陽風(荷電粒子)が強くなると赤や青といった鮮やかなオーロラが出現するんですが、感度を上げたり露光時間を長くして弱い光を捉えて写し込むと、実際に目で見た色と写真の色とが違うときがあるんです。そういった魅力に惹きつけられています。



壮大なオーロラに魅せられた内野さん

—プリントサイズや用紙のねらいは？

内野：美しく壮大なオーロラを表現したいと考えて、サイズはA1にして、用紙は「写真用紙<光沢>」を選びました。プリンタはエプソンのPX-20000を使っています。

—プライベートラボを利用した感想は？

内野：フィルム時代を含めて、作品の出力はこれまでは専門の業者さんに依頼していて、自分で出すのは今回が初めてなのですが、プリントされていく過程が間近で見えるのはとてもいいなと感じました。ラボ自体も静かで落ち着いているので作業にも集中できます。機会があればまた利用したいと思います。

—写真展に向けた期待や意気込みを

内野：オーロラの写真展は何回か開催しているのですが、Facebook等で告知をしても、オーロラに興味のない人にはなかなか来てもらえません。今回は8人による合同の企画展ということで、いろいろな方が来ていただけるのではないかと期待していますし、オーロラの魅力を少しでも伝えられれば嬉しく思います。

—ありがとうございました。



評価光の下でプリントをチェック



書棚撮影の面白さを熱く語る菅田さん



プリントサイズは迫力ある B0 ノビを選択

菅田 純一 (わいだ・じゅんいち)さん

日常では忘却されながらも突然蘇る記憶「情景」をテーマに撮影を始める。代表作に「Primary Days」など。近年は様々な「書棚」の佇まいを独特の視点から追及。近著に「立花隆の書棚」(立花隆 著・菅田純一 写真)や「松岡正剛の書棚」(松岡正剛 著)。(公社)日本写真家協会会員 <https://www.facebook.com/JunWajda>

—作品について説明してください。

菅田：書棚をテーマにした撮影は4年ぐらい続けていて、今回は旧江戸川乱歩邸の書棚と、グラフィックデザイナーの鈴木一誌(ひとし)さんのアトリエの2点を選びました。書棚ってその人の人柄が現れますから被写体として興味深いだけではなく、細部と全体の両方を見せる撮影技法を考えるのも面白くて、引き込まれちゃったんですね。

—撮影はどのように？

菅田：旧江戸川乱歩邸の書棚は、レーザー墨出し器を使って水平と垂直を正確に割り出して、カメラ位置を縦横に移動させながら、全体を60枚ぐらいに分割して撮影したのちに合成しています。一方で鈴木一誌さんのアトリエは、自分は動かずにカメラをフリーハンドで振って撮影し、コラージュ的に合成しています。書棚の空間をどう見せたいか

によって撮影方法を決めています。

—プリントサイズや用紙のねらいは？

菅田：このシリーズは以前はキャンバス地にプリントしたこともありますが、今回は写真らしさを出したいと考えて「写真用紙<光沢>」を選択しました。サイズは、書棚の佇まいと背表紙の細部の両方を見せるには大きくしたほうが面白いので、展示スペースの幅も考えてB0ノビを選び、エプソンのPX-20000でプリントしました。

—プライベートラボを利用した感想は？

菅田：初めて利用しましたが天国です(笑)。スペースも広いし、インクの補充やロール紙のセットもエプサイトのスタッフの方がすべてやってくれるので、作品データさえ完成してればこんなにいいプリント環境はないんじゃないでしょうか。出来上がったところを実際に見られるというのはやはりデジタルの時代ならではのので、今回の写真展以外の制作でもぜひ利用したいと思います。

—写真展に向けた期待や意気込みを

菅田：合同の写真展に参加するのは実は初めてなんです。メンバーの皆さんとお会いしてそれぞれの作品を拝見したところ表現も多種多様なので、ギャラリー全体が多彩な空間に出来上がったら面白いなと思っています。

—ありがとうございました。

エプサイトのプライベートラボでは、最大64インチ幅のプリントに対応した「PX-20000」のほか、17インチ幅ロール紙を含むA2ノビに対応した「SC-PX3V」などをご用意しています。



SC-PX3V

●印刷方式/最高解像度：MACH方式/2880dpi×1440dpi ※1 ●インターフェイス：Hi-Speed USB ※2×1(PC接続×1(背面))、10BASE-T/100BASE-TX、IEEE802.11b/g/n ●インク：顔料タイプ各色独立インクカートリッジ(フォトブラックまたはマットブラック※3、シアン、ビビッドマゼンタ、イエロー、ライトシアン、ビビッドライトマゼンタ、グレー、ライトグレー) ●対応用紙サイズ：L判/KG/2L判/ハイビジョン/六切/四切/A6縦/A2ノビ縦(17インチ)、ファンアート紙・厚紙(フロント手差し)用紙厚1.5mm、専用ロール紙※4(A3ノビ~A2ノビ(17インチ)幅) ●外形寸法(幅×奥行×高さ) 収納時：684×376×250(mm) ●質量※5：約19.5kg ※1最小1/2880インチのドット間隔で印刷されます。 ※2PC側がHi-Speed USBに対応していない場合はFull Speed USBとして動作します。 ※3ブラックインク切り替え時は切り替える方のインクが消費されます。 ※4ロール紙ユニットはオプションです。 ※5他同梱物は含まれません。

<写真展のお知らせ>

エプサイトと(公社)日本写真家協会では、日本写真家協会会員8名による「プライベートラボ活用写真展」(仮称)を以下のとおり開催いたします。作品はエプサイト内のプライベートラボで制作されたものを中心に、すべてエプソンのインクジェットプリンターで制作されています。8人の写真家のそれぞれの個性が反映されたすばらしい作品が並びます。皆様のご来場をお待ちしております。

日時：2016年1月29日(金)~2月18日(木)
10:30~18:00(日曜日休館)

会場：エプソイメージングギャラリー エプサイト
(新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル1階・
TEL 03-3345-9881)

出展作家：内野詩織、大高明、小宮広嗣、三田崇博、橋本武彦、松原豊、満田聡、菅田純一(五十音順)

プリントテクニック情報は、エプソンのフォトポータルサイトへ。 <http://www.epson.jp/katsuyou/photo/>

エプソン販売株式会社

Canon

make it possible with canon

Another 5.



約5060万画素もうひとつの5D登場。

EOS 5Ds

約5060万画素フルサイズCMOSセンサーを
搭載した、もうひとつの5D。

EOS 5Ds R

5Dsの解像性能を最大限に引き出す
ローパスフィルター効果キャンセルモデル。

●新開発 有効画素約5060万画素フルサイズCMOSセンサー ●映像エンジン「デュアル DIGIC 6」 ●常用ISO感度100～6400 拡張:12800 ●最高約5コマ/秒の連写性能
●61点高密度レティクルAF ●顔や色を検知して被写体を追尾する「EOS iTR AF」 ●高画素による繊細な質感を表現する新ピクチャースタイル「ディテール重視」と
新シャープネス項目「細かさ」「しきい値」 ●モーターとカムギアでミラーの駆動と速度制御を行いカメラブレを軽減する「ミラー 振動制御システム」 ●徹底的なブレ対策の
ために強化した高剛性三脚座 ●ミラーアップとシャッターボタン押しに伴うカメラブレを解消する新機能 レリーズタイミング任意設定 ●EOS初、約1.3/1.6倍クロップ撮影機能

canon.jp/eos

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

SIGMA

世界初[®]、開放F値2のフルサイズ用
大口径広角ズームレンズ、誕生。

※2015年6月19日現在。35mm判フルサイズをカバーする
デジタルカメラ用交換レンズとして(当社調べ)。

A Art 24-35mm F2 DG HSM

希望小売価格(税別) 150,000円 ケース、花形フード(LH876-03)付



シグマの新しいプロダクト・ラインについては、こちらへ。

sigma-global.com



Photo Eguchi Shinichi